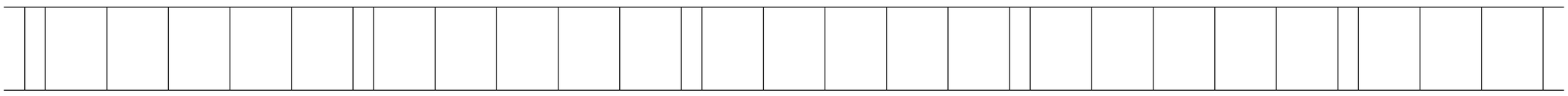
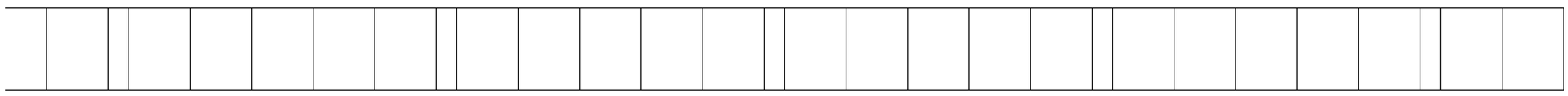
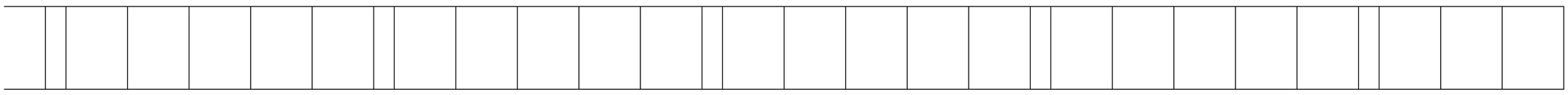
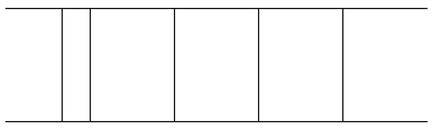
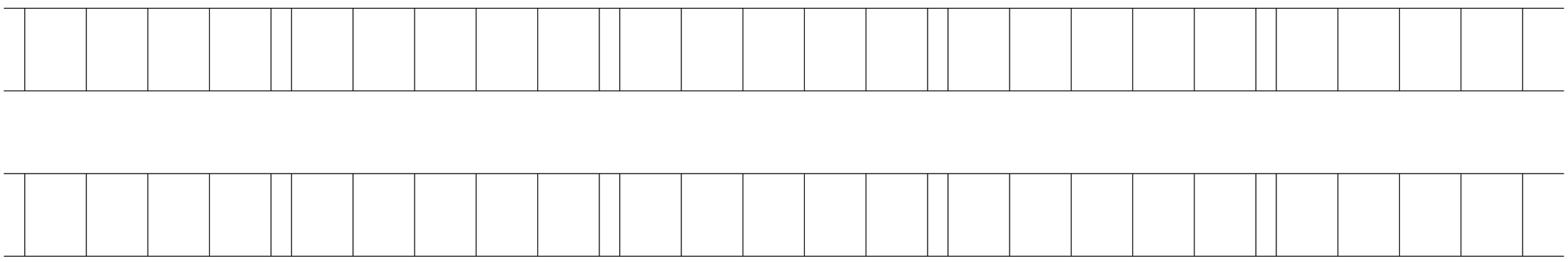
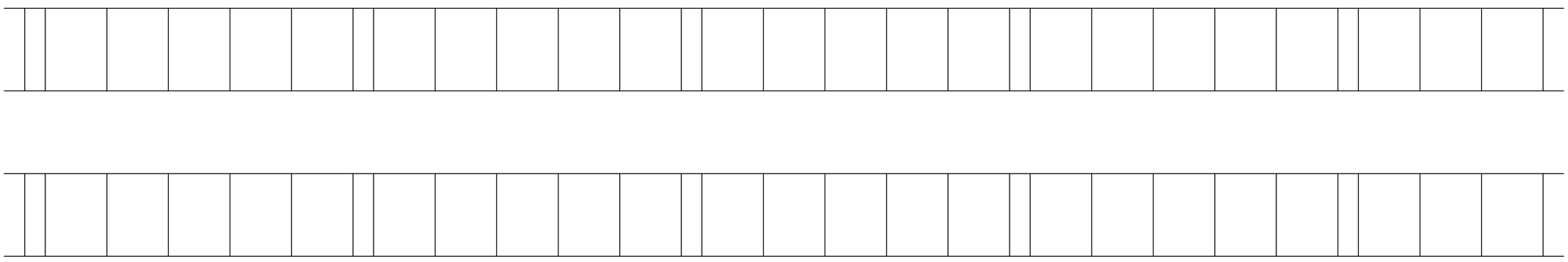
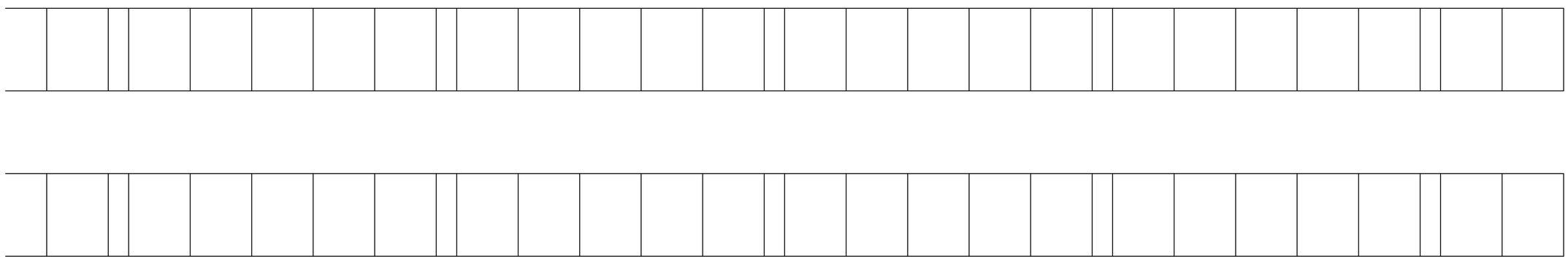
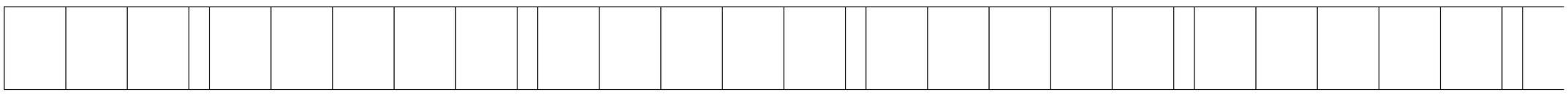
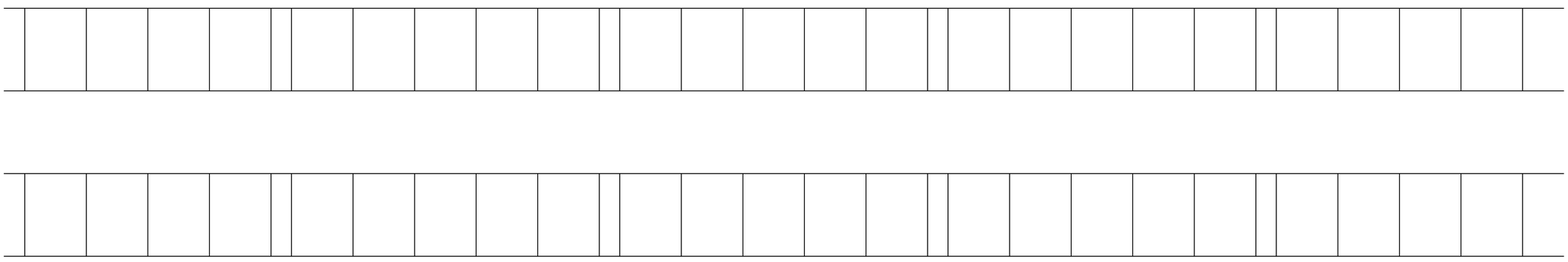
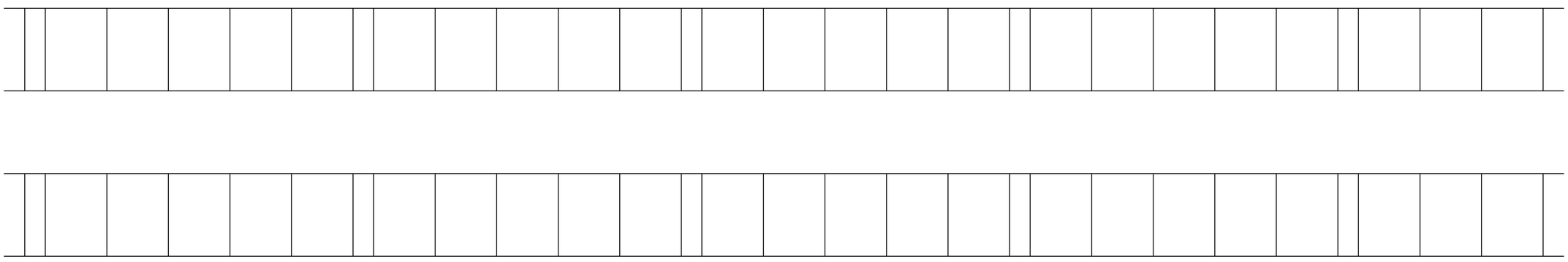
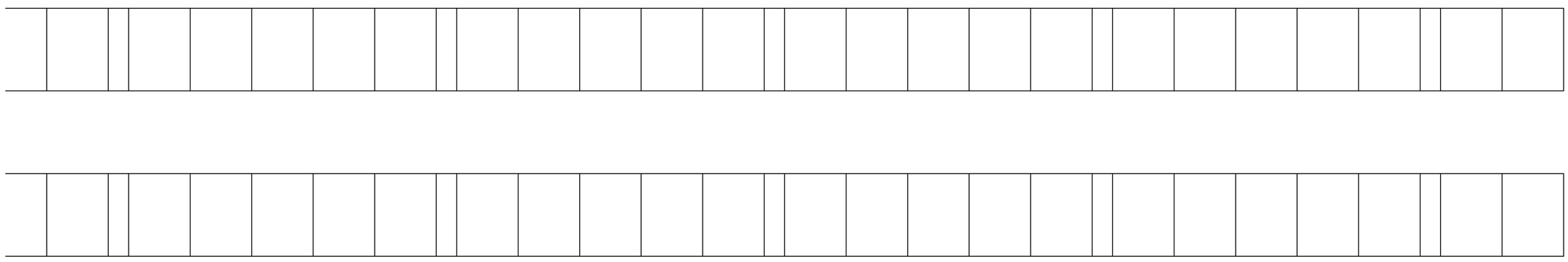
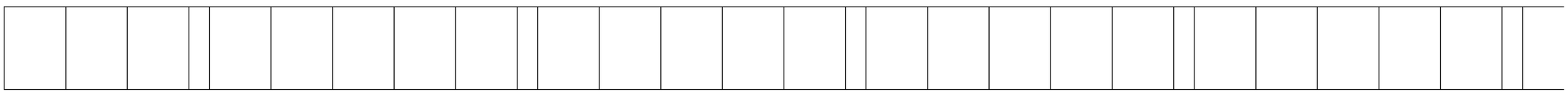
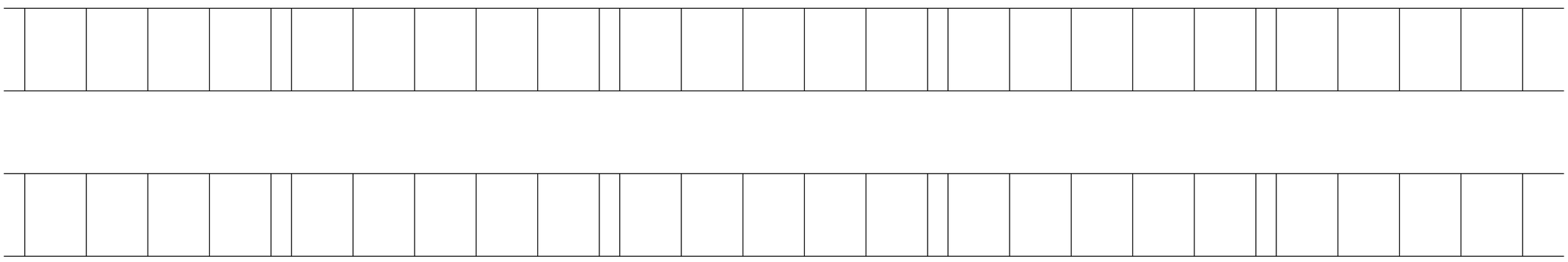
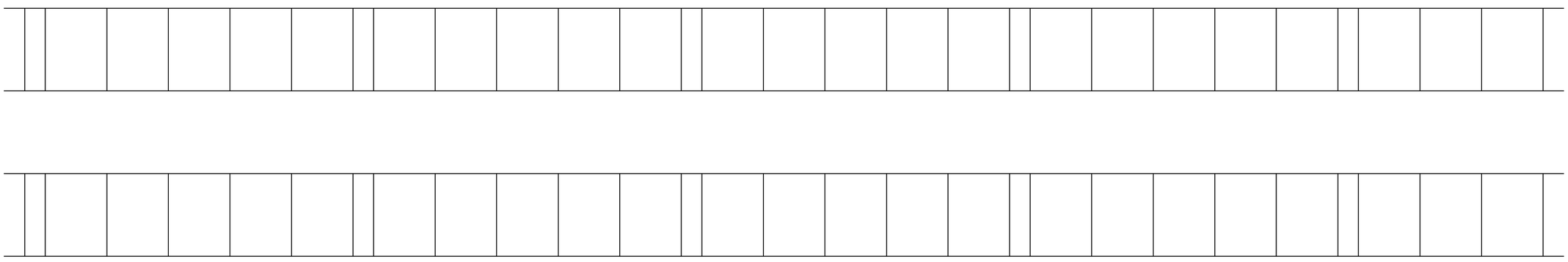
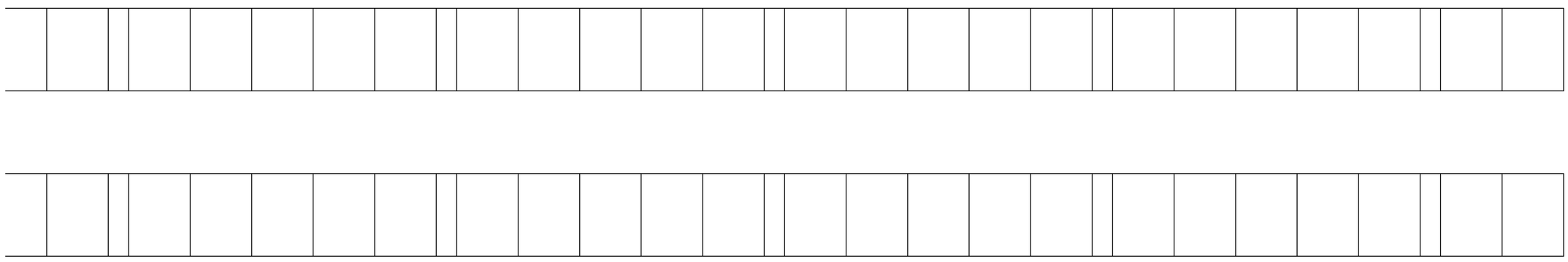
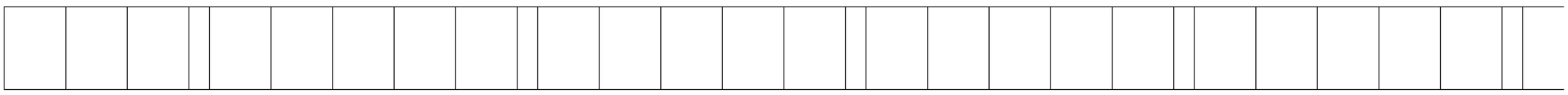
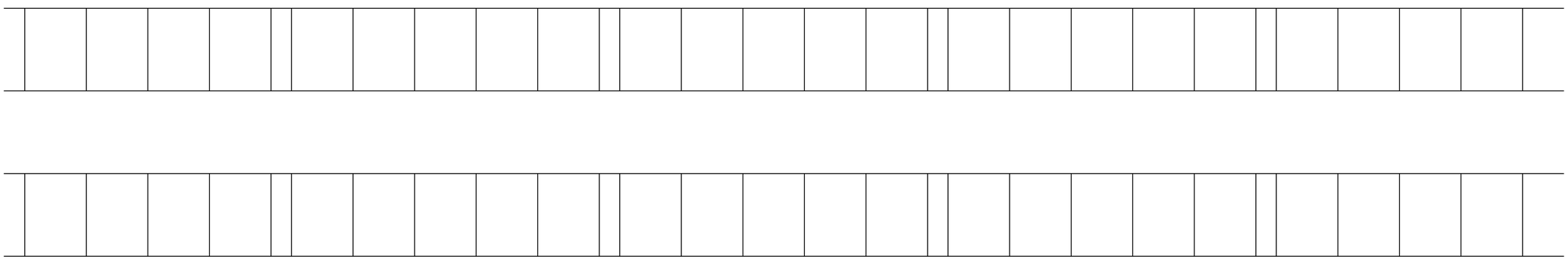
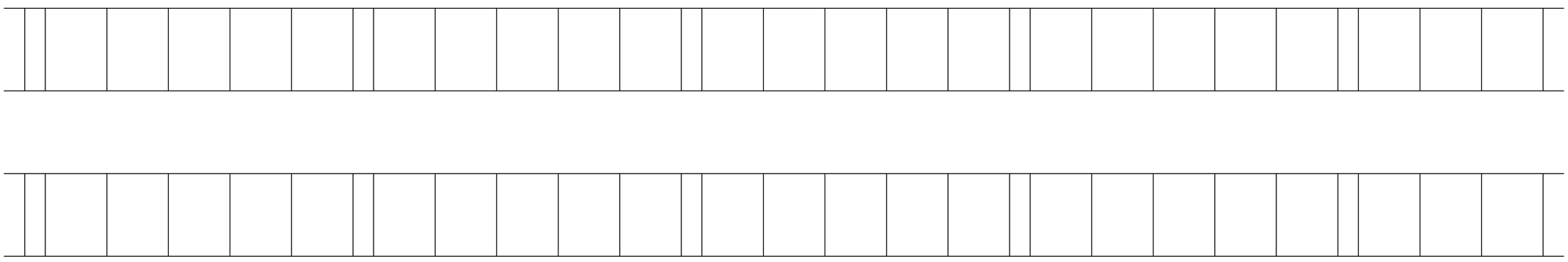
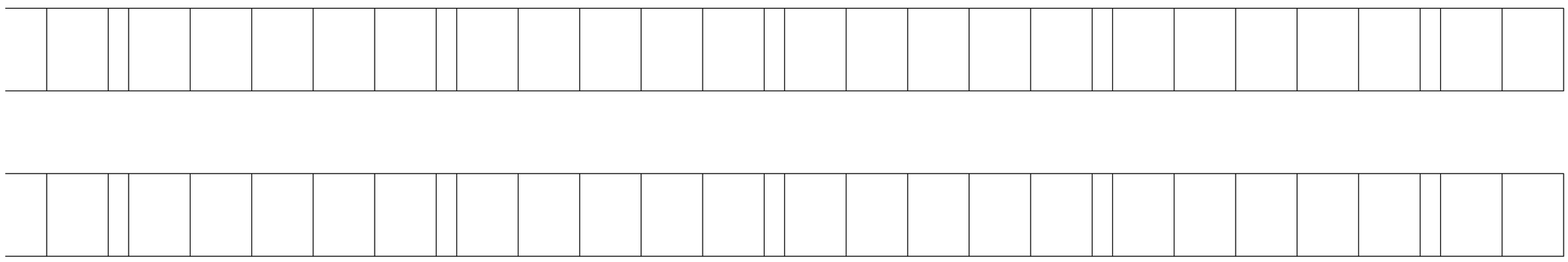
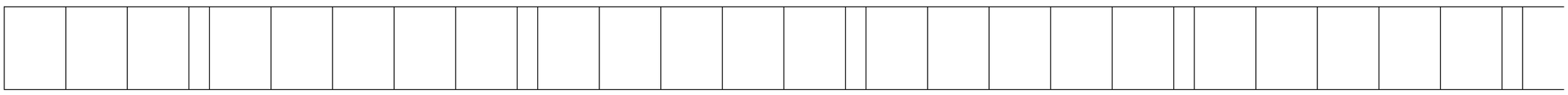
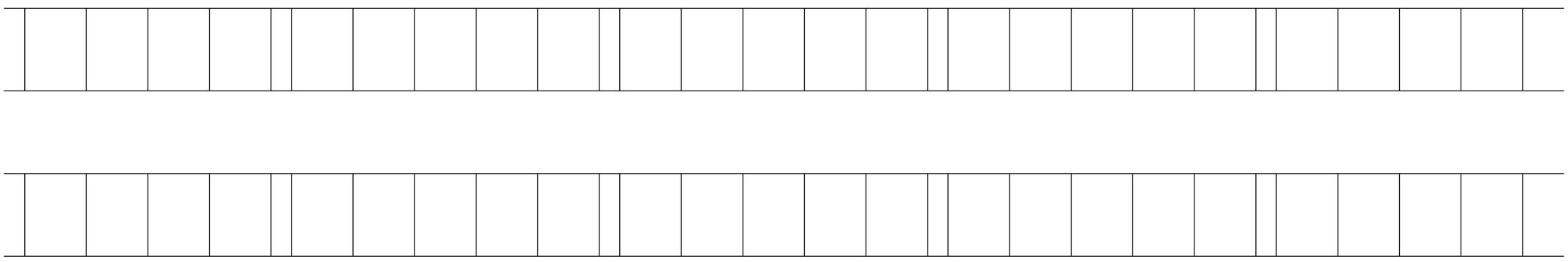
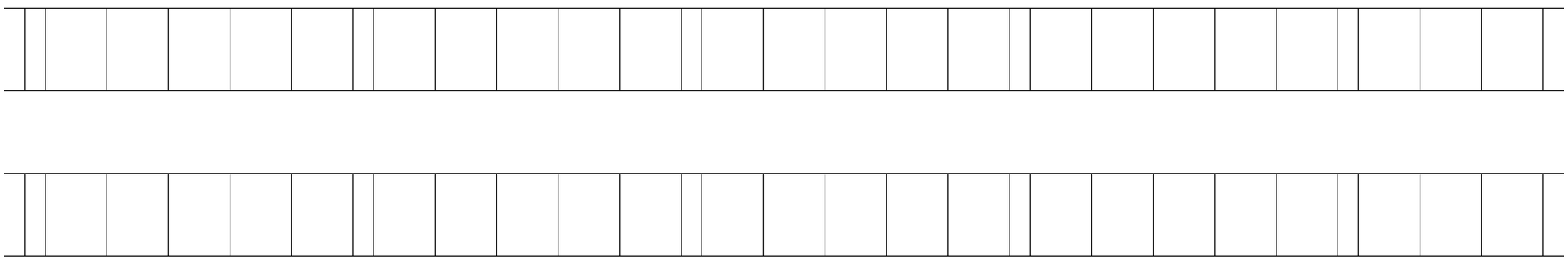
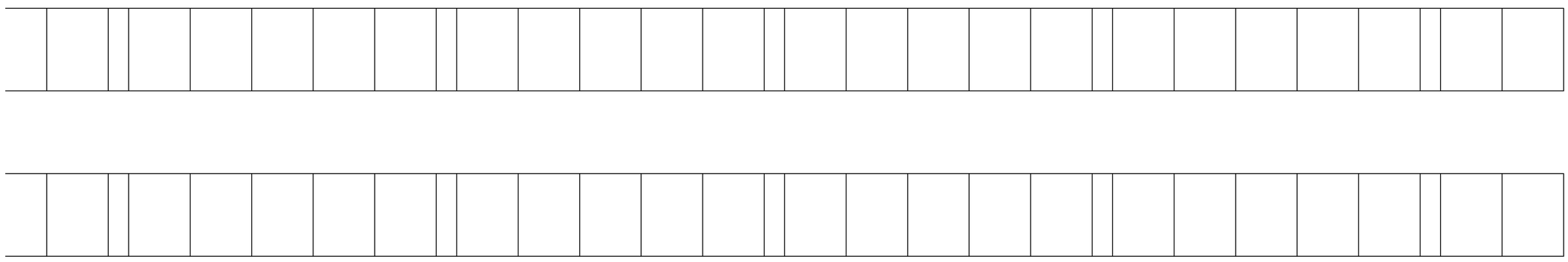
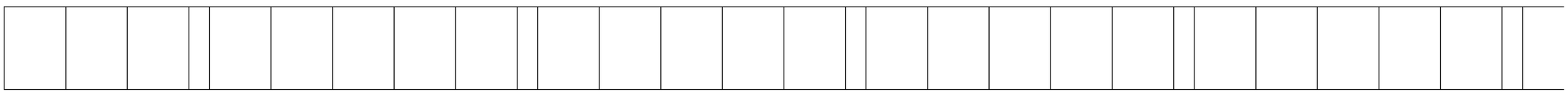
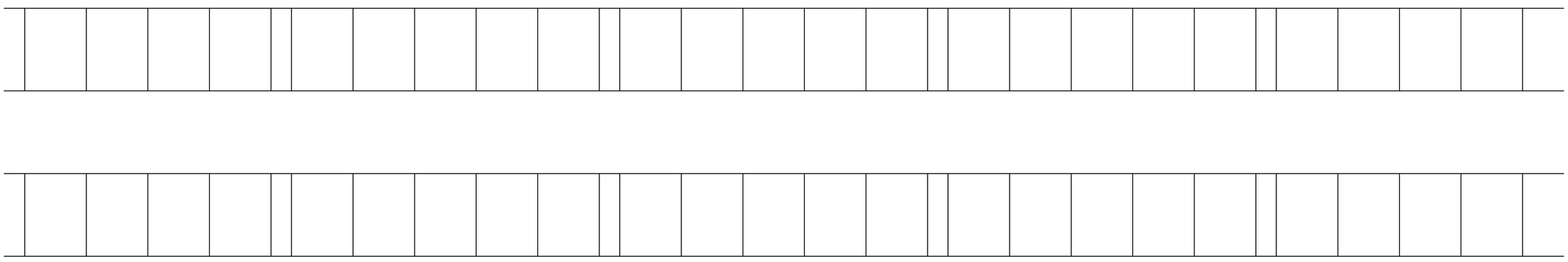
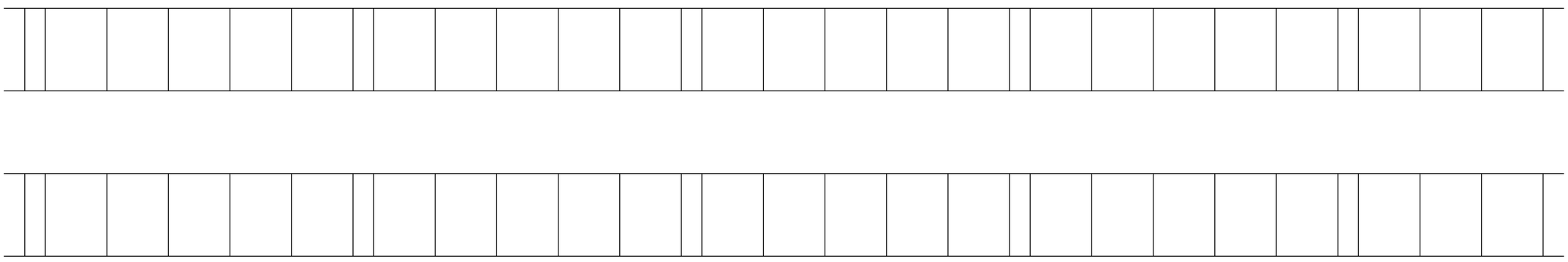
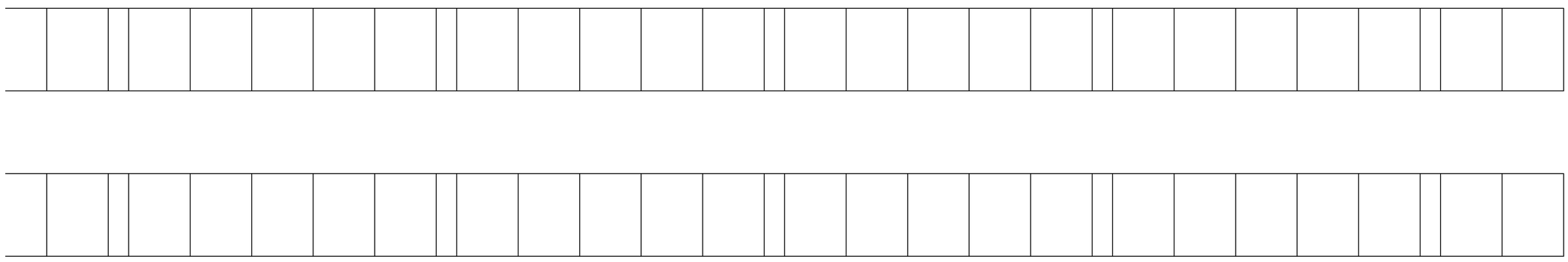
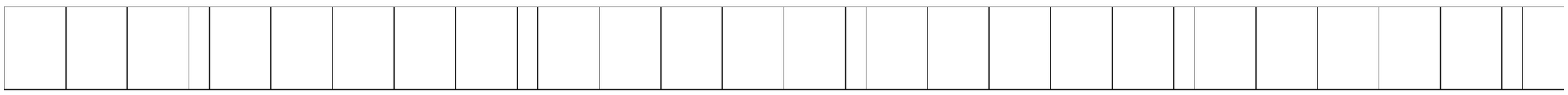
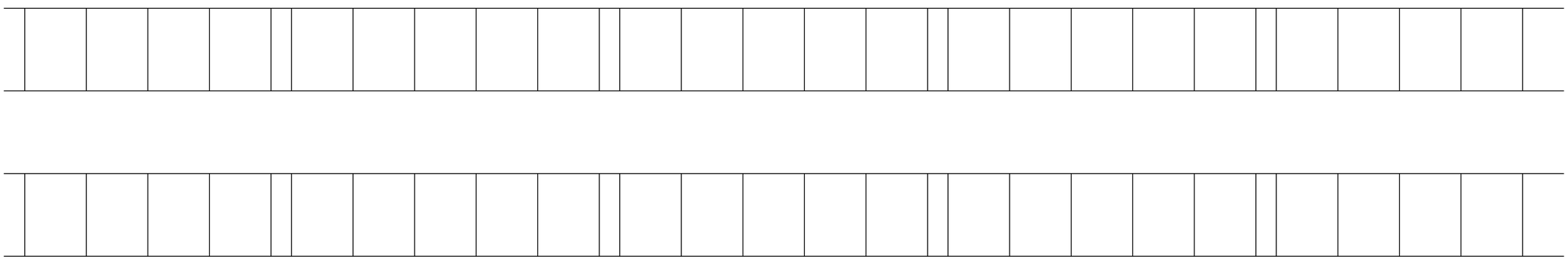
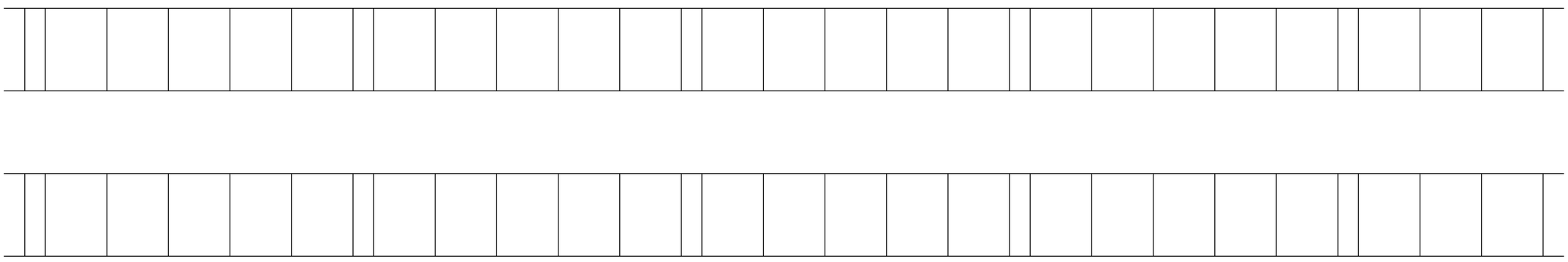
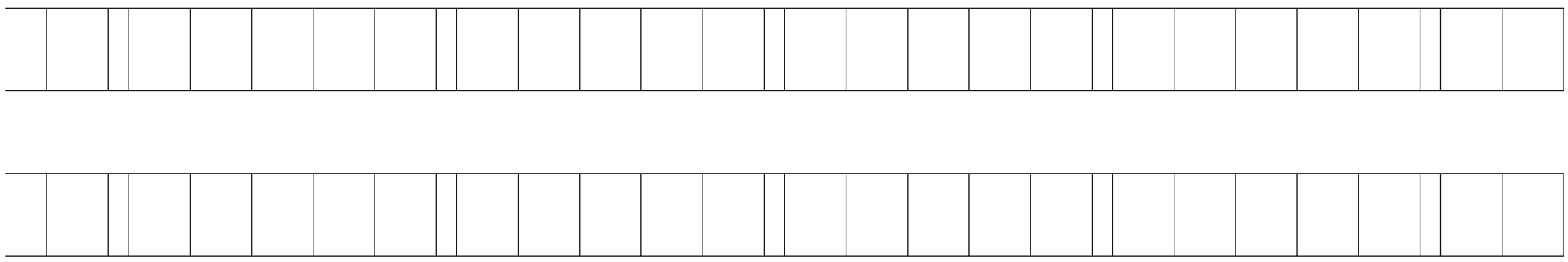
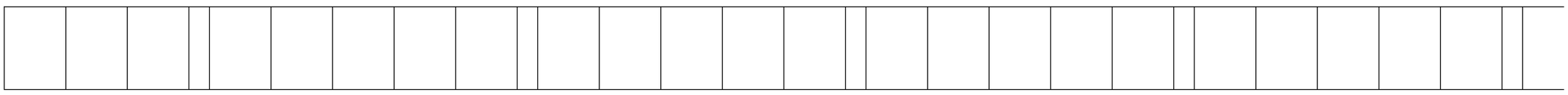
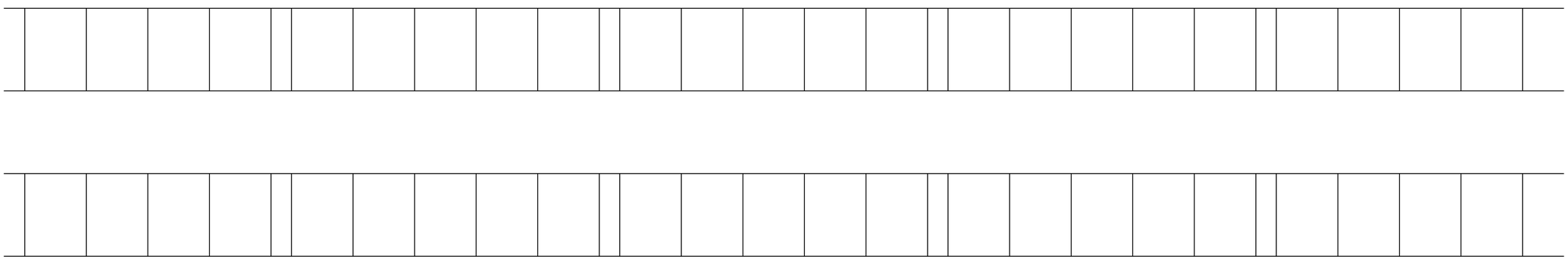
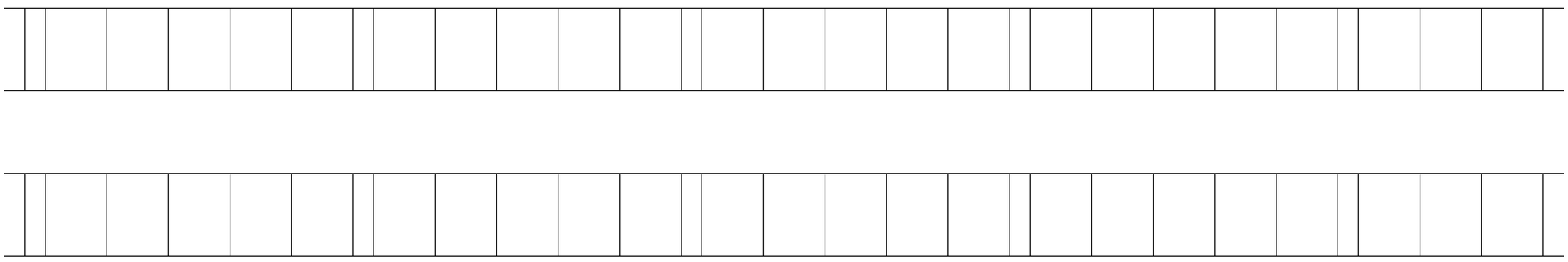
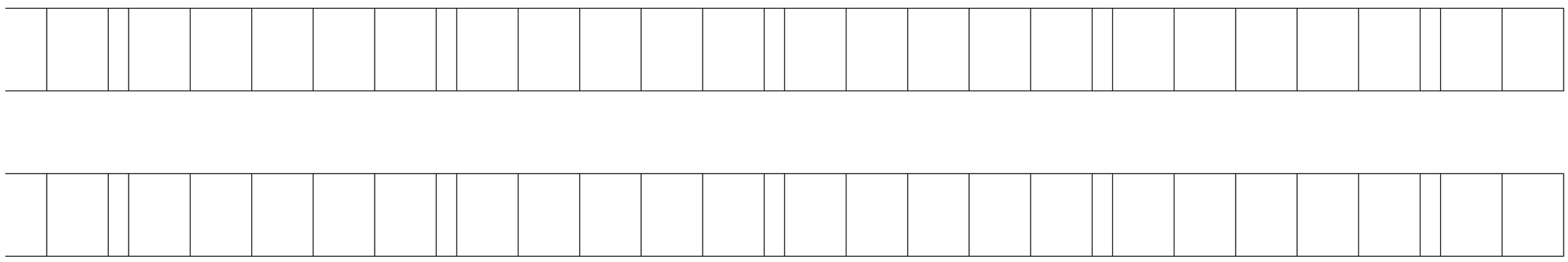
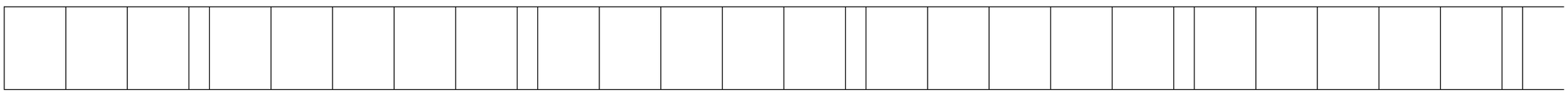
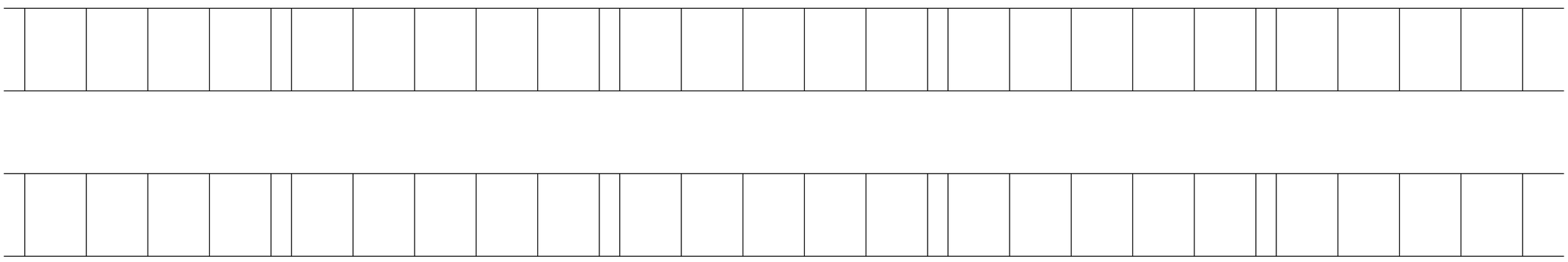
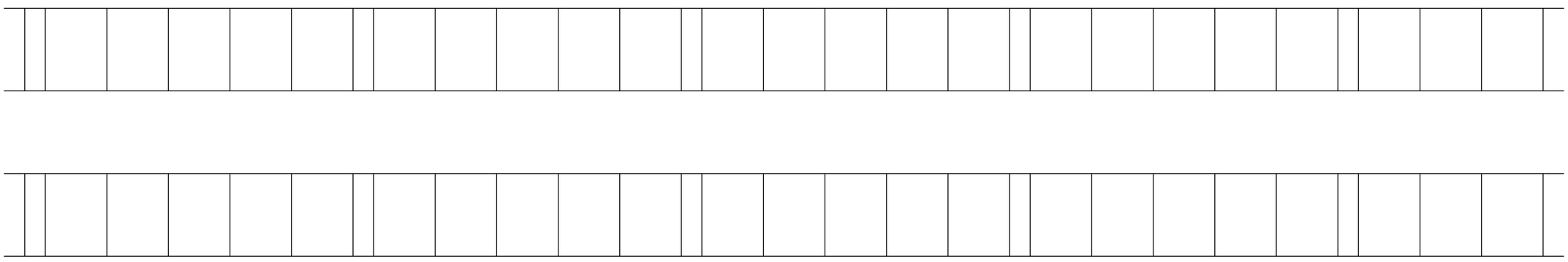
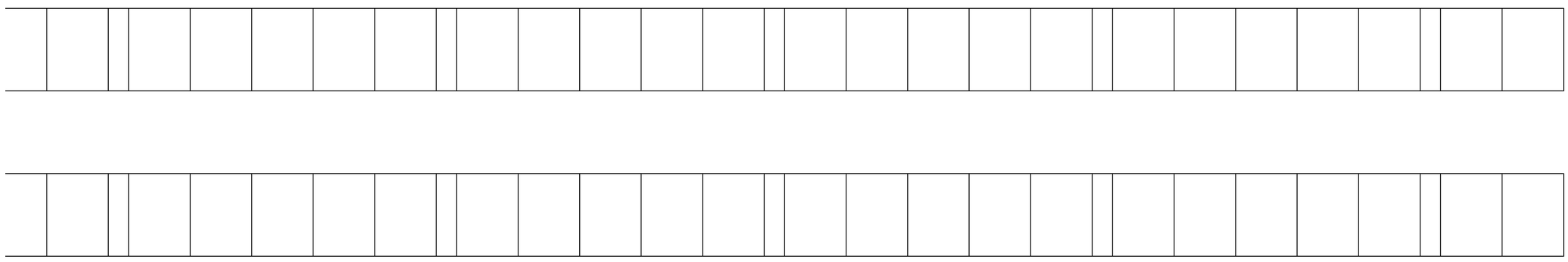
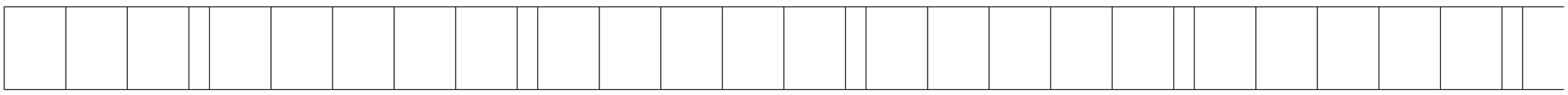
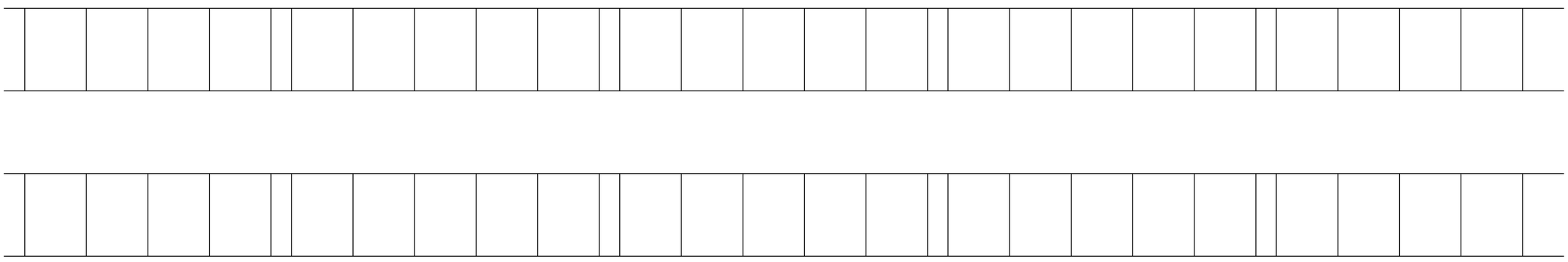
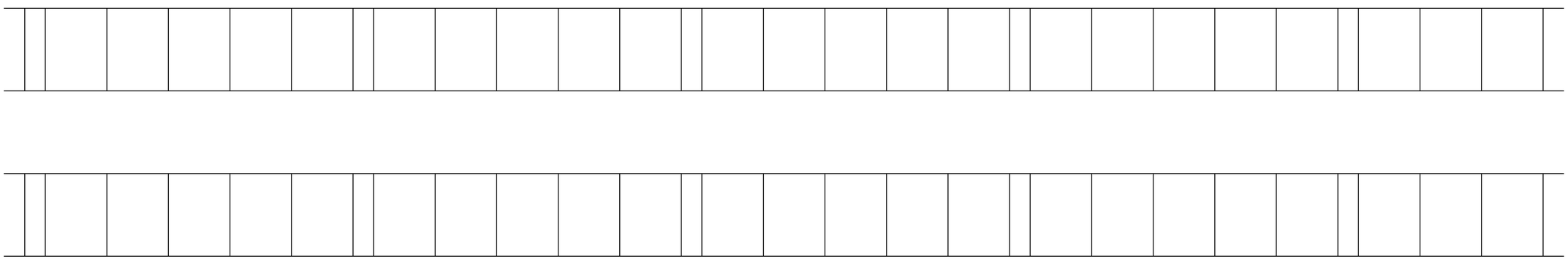
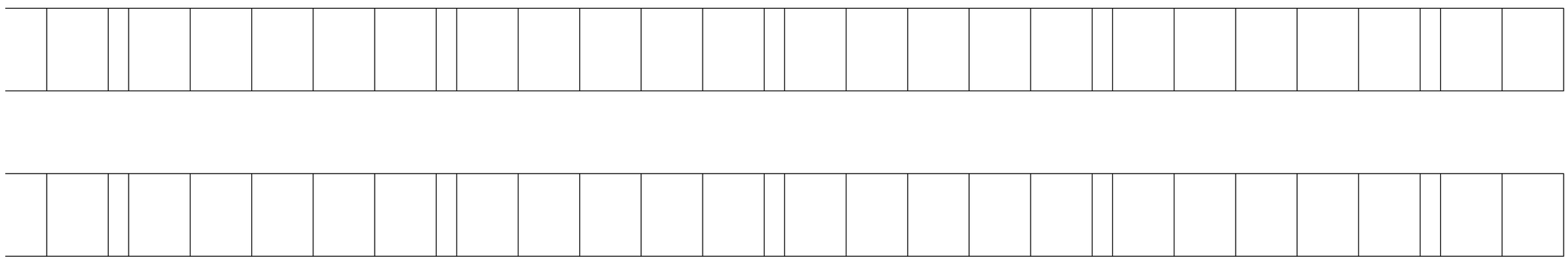
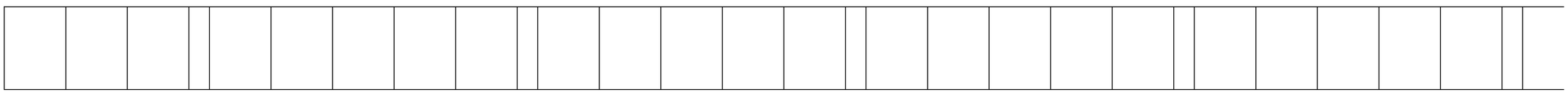
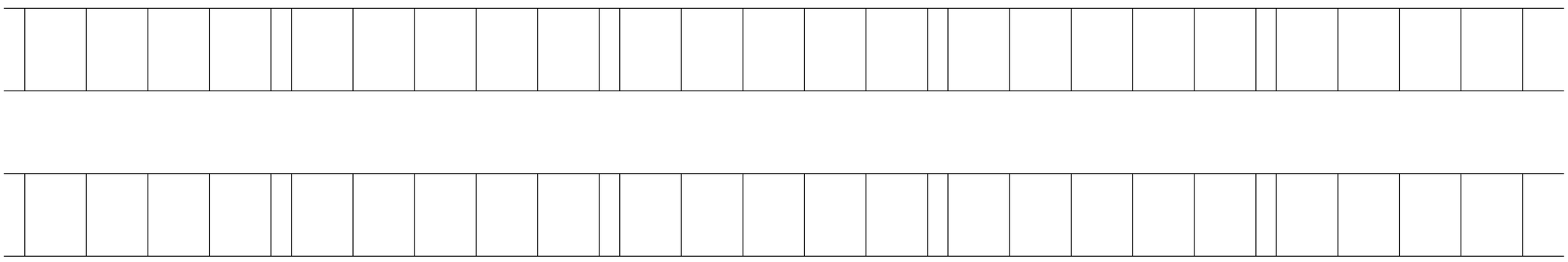
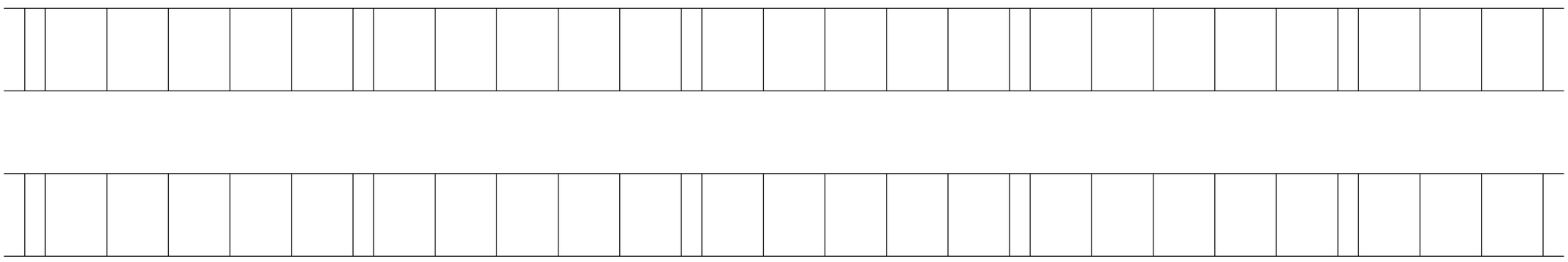
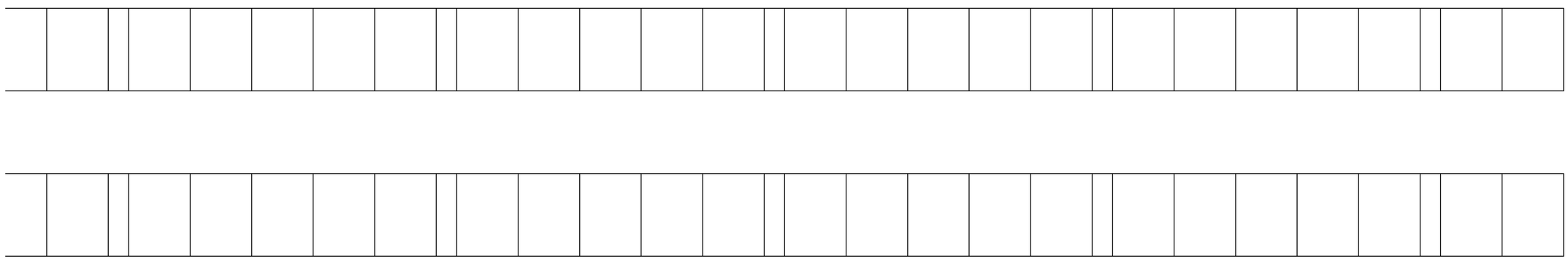
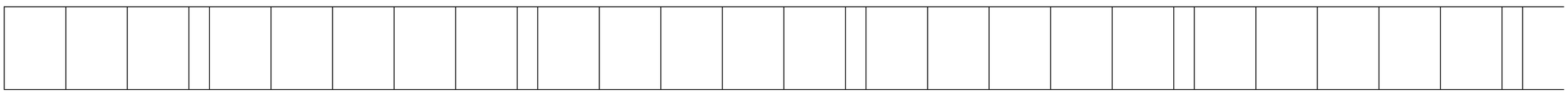
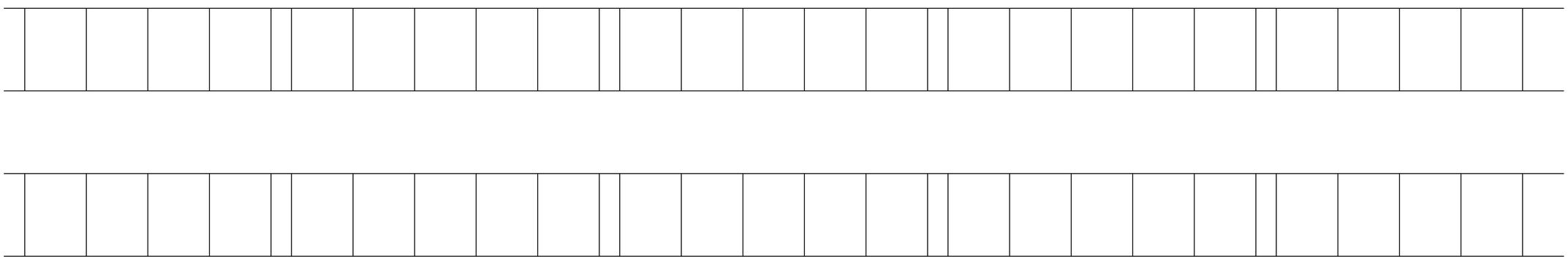
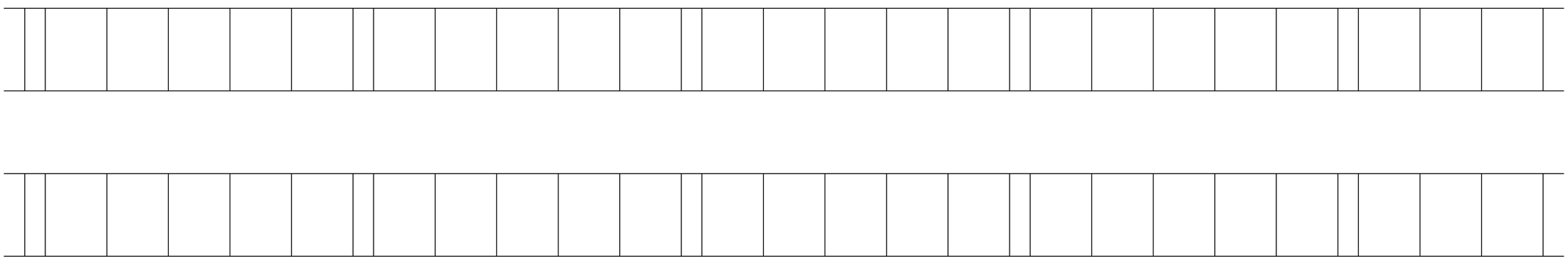
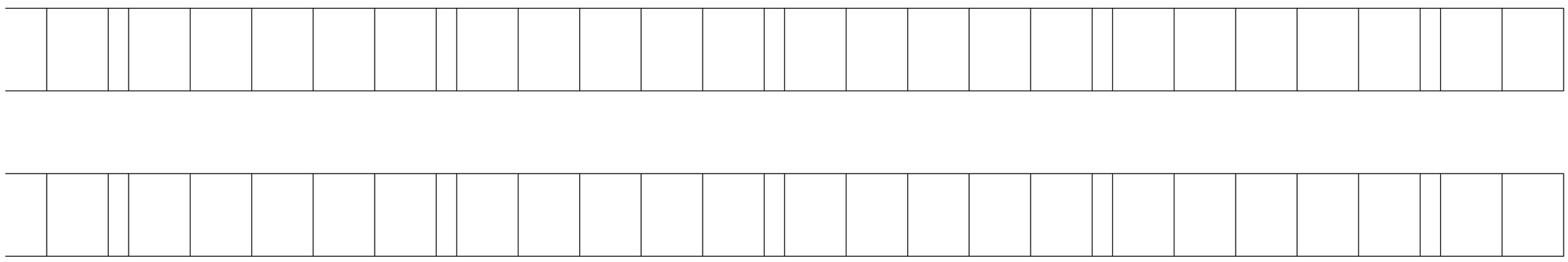
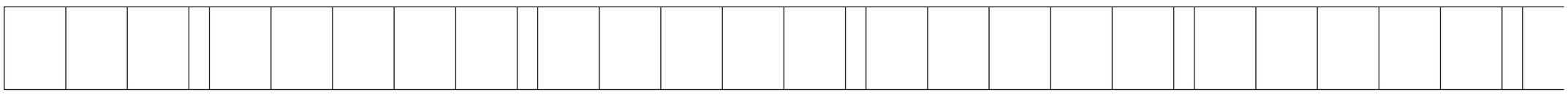
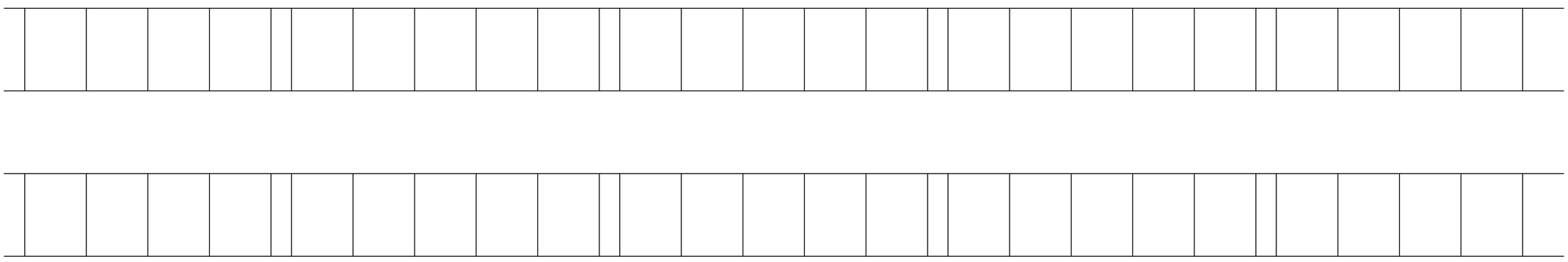
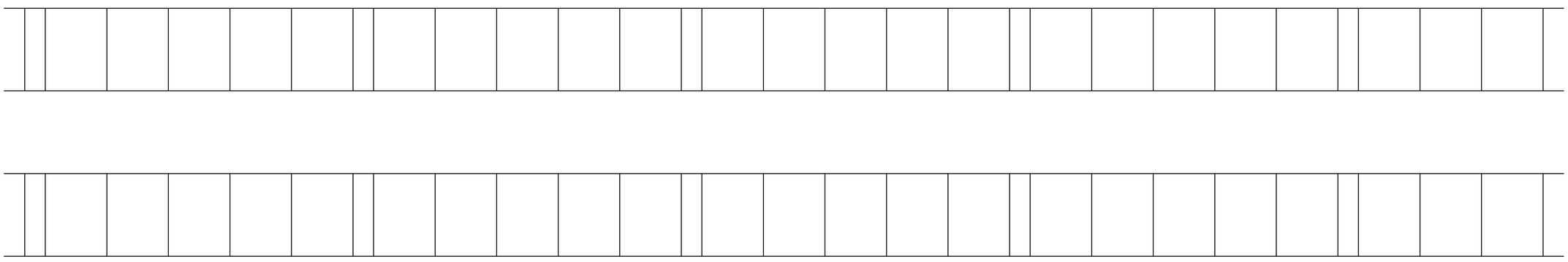
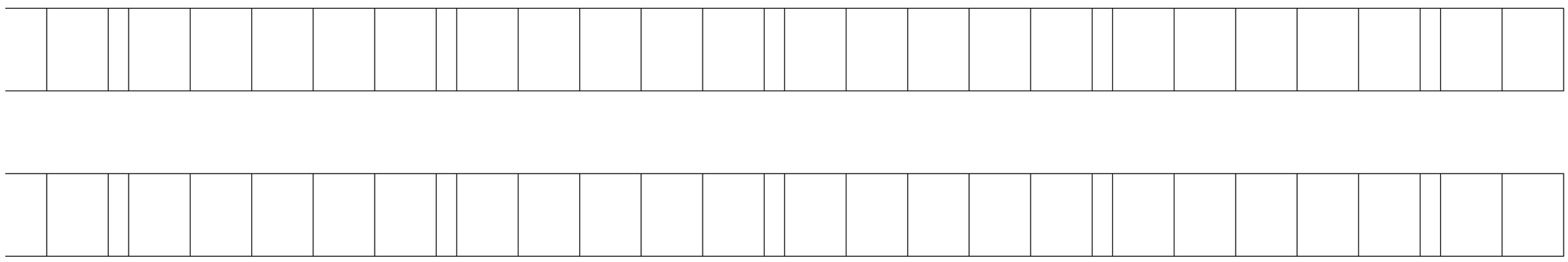
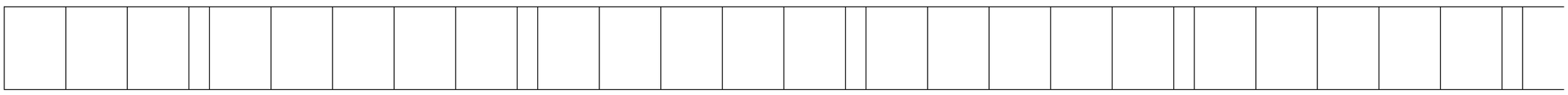
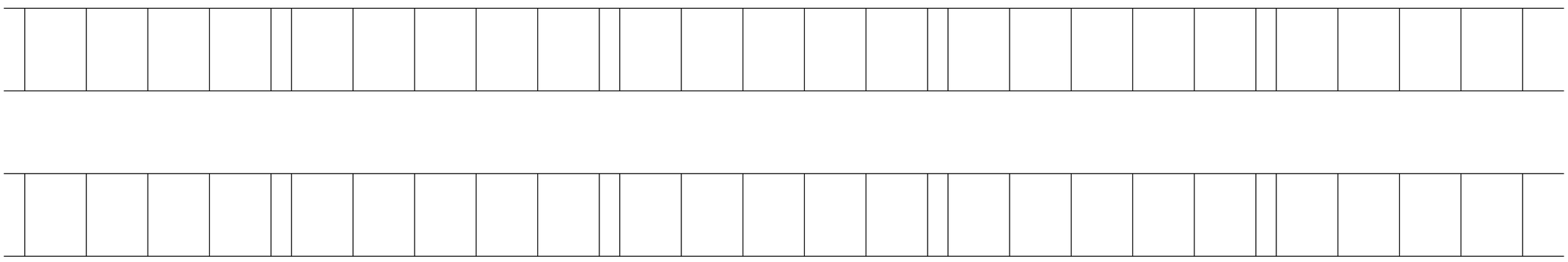
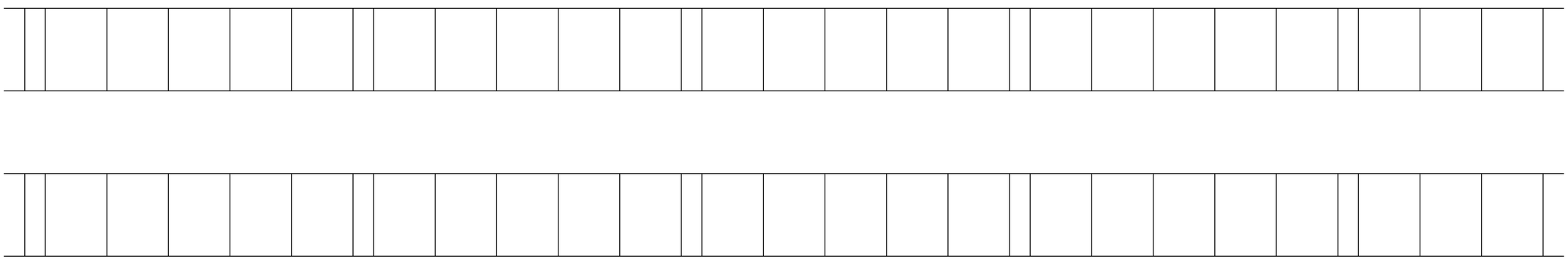
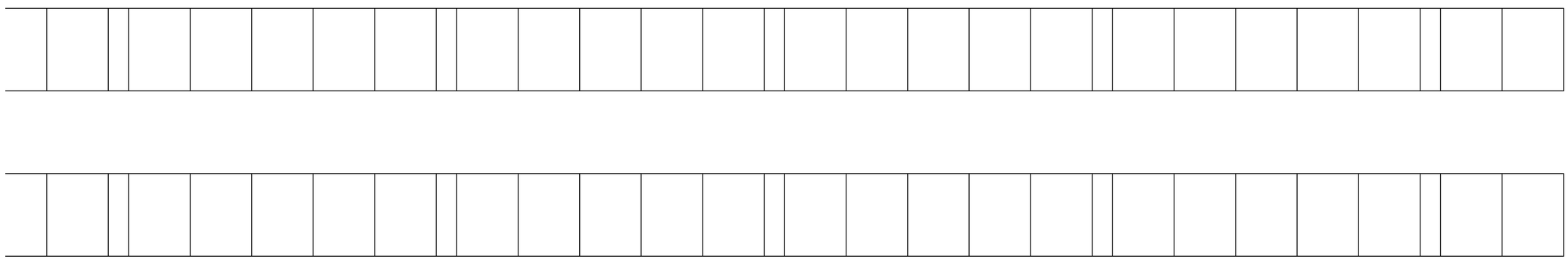
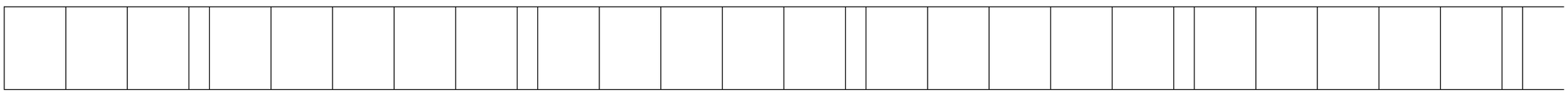
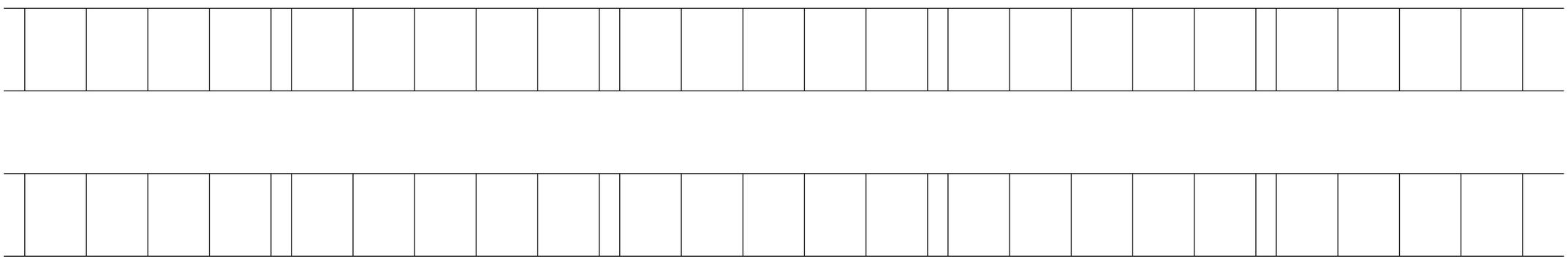
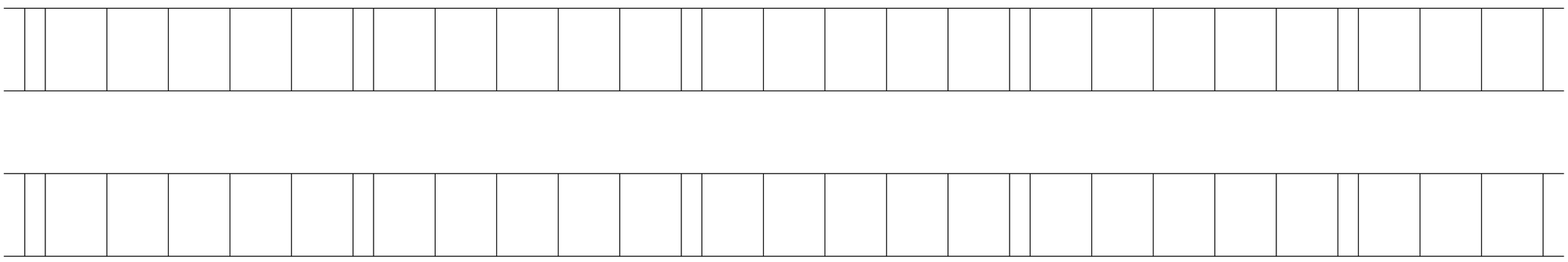
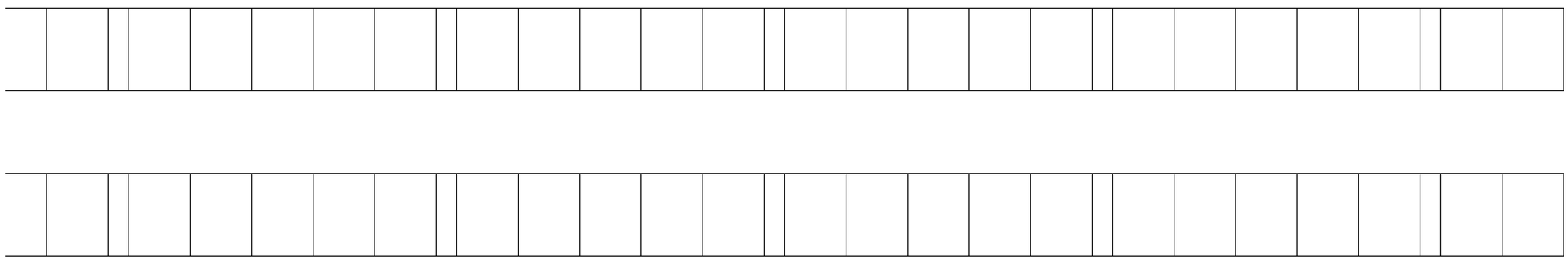
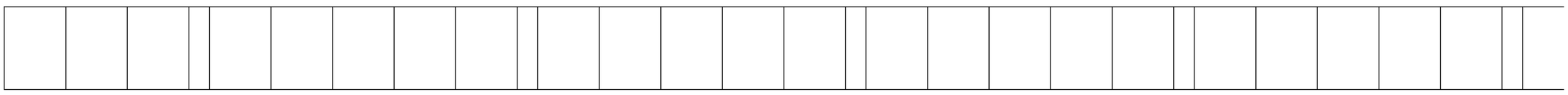
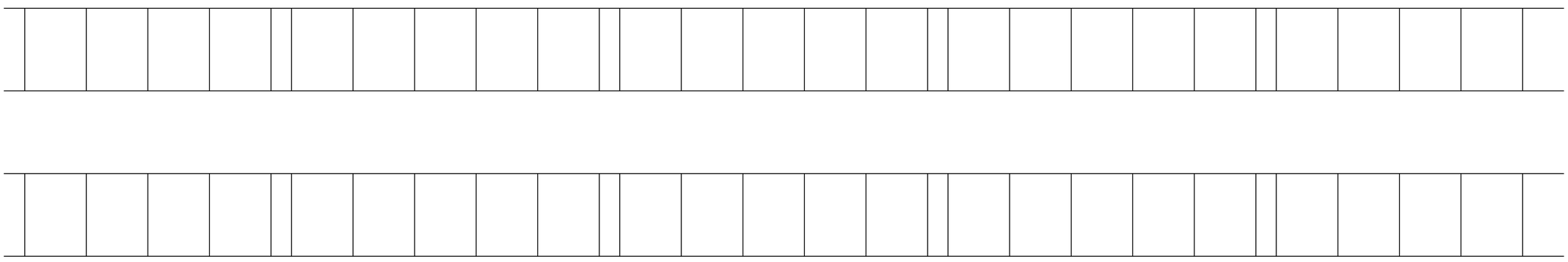
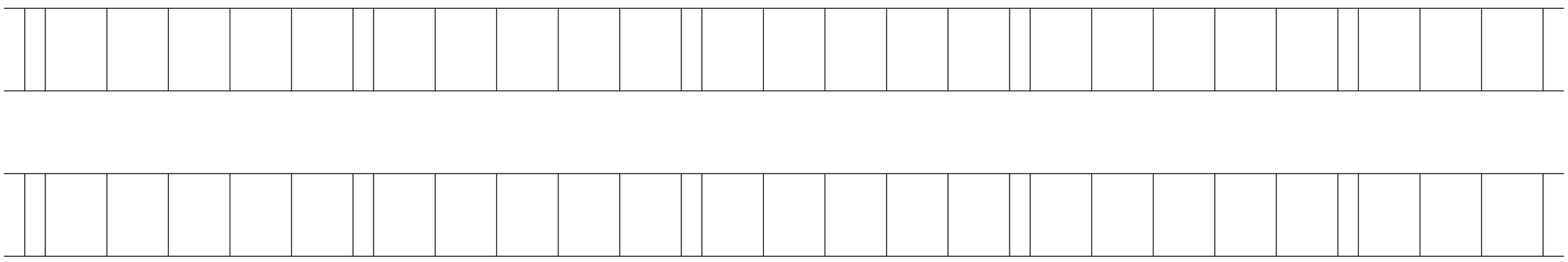
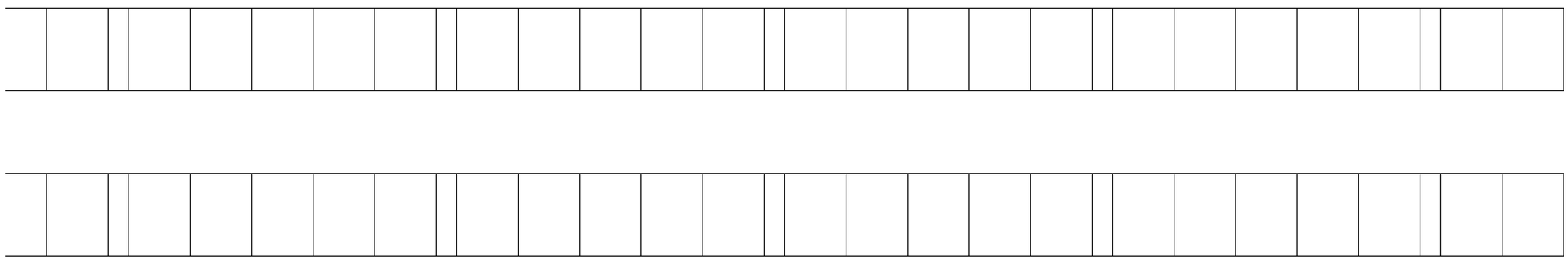
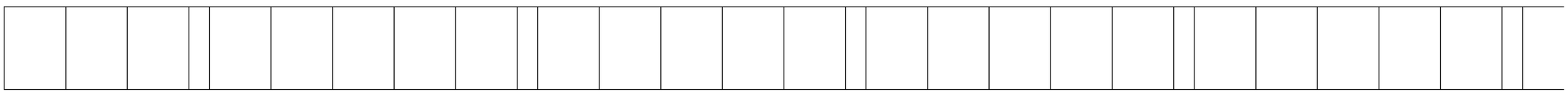
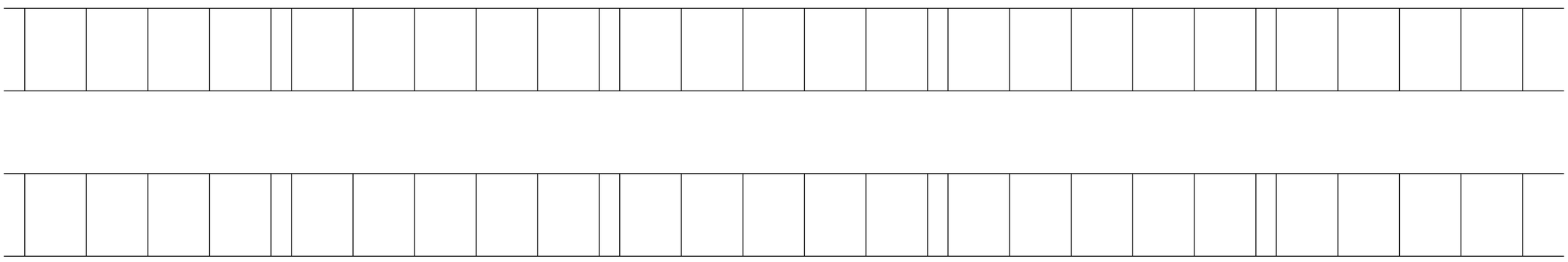
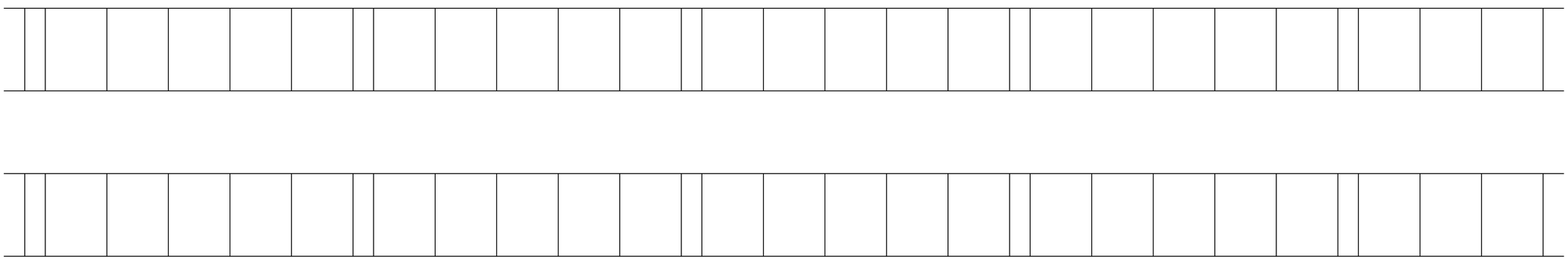
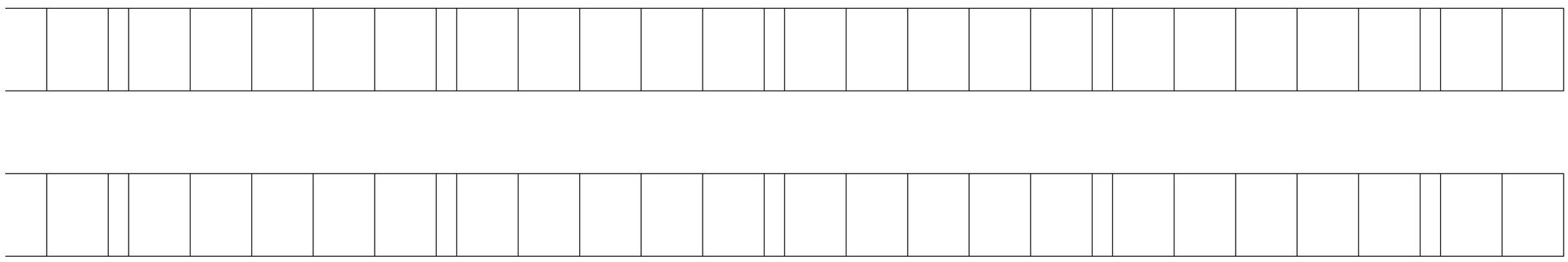
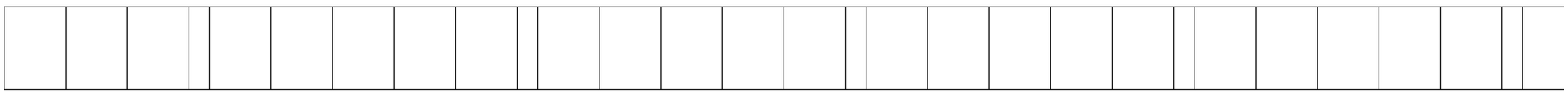
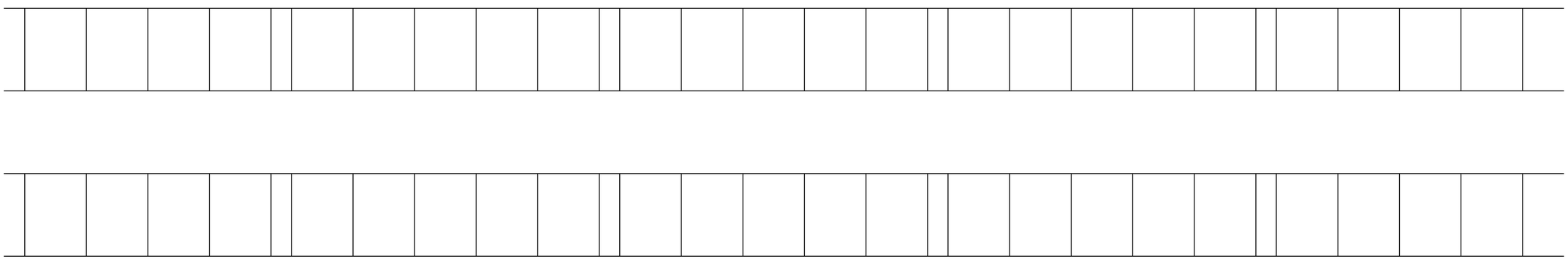
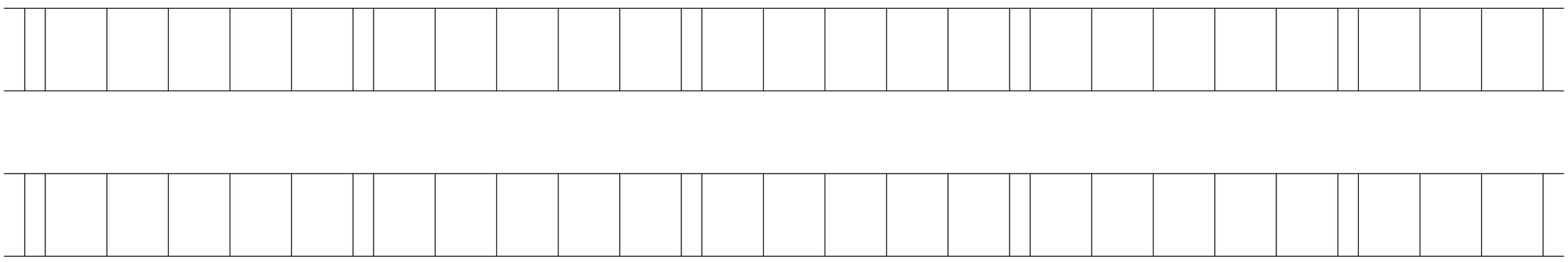
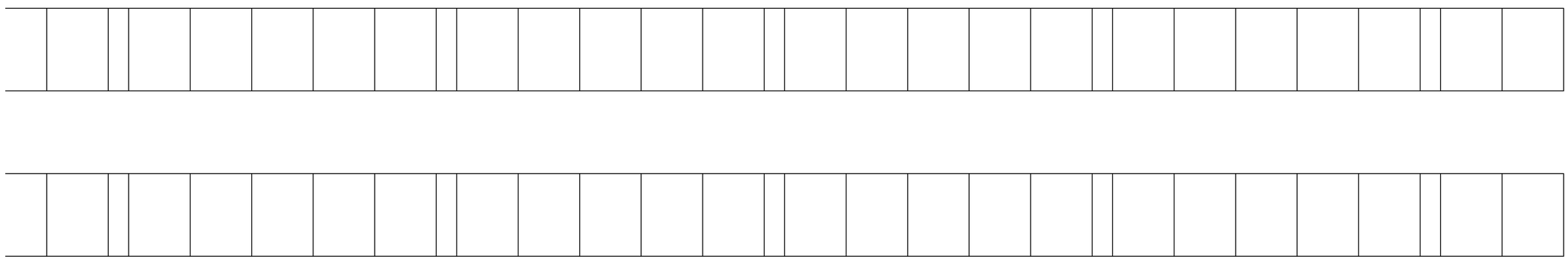
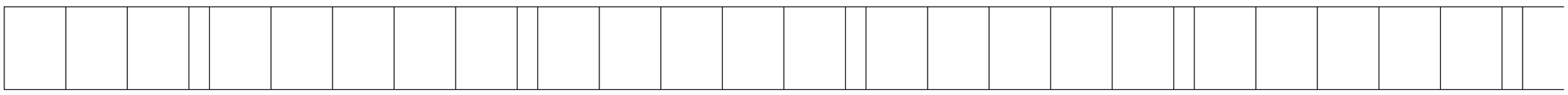
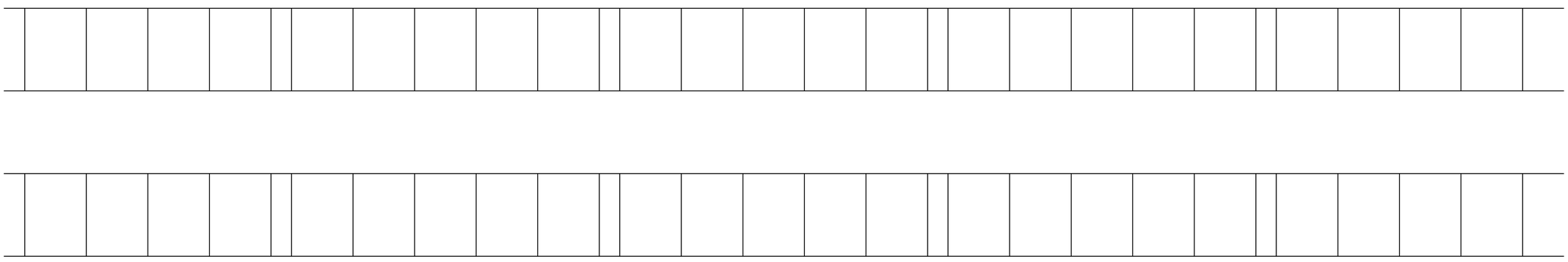
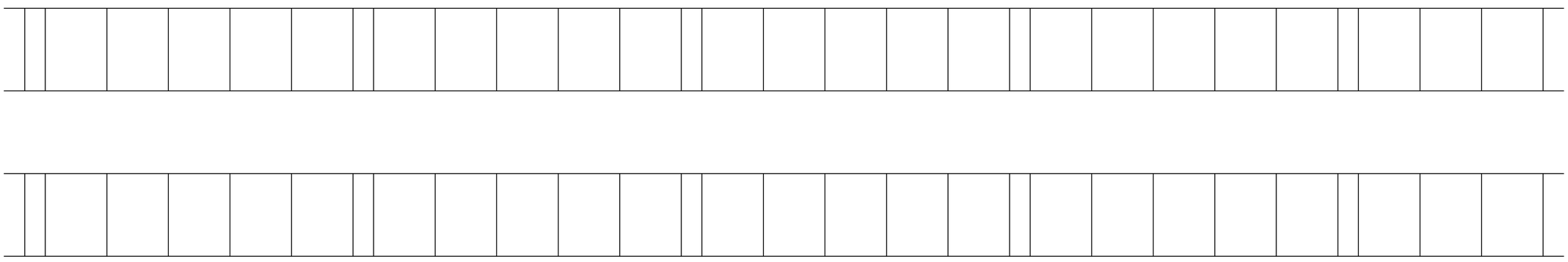
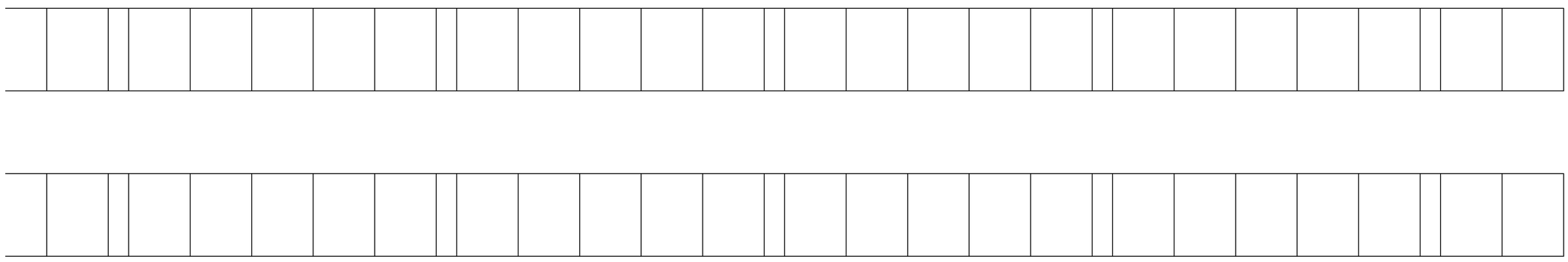
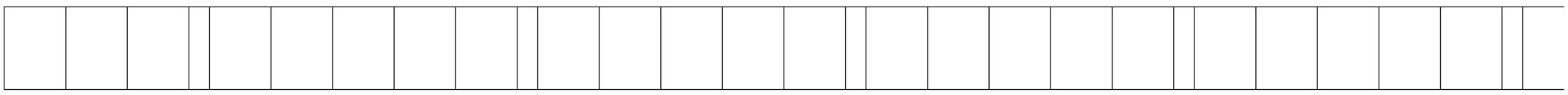
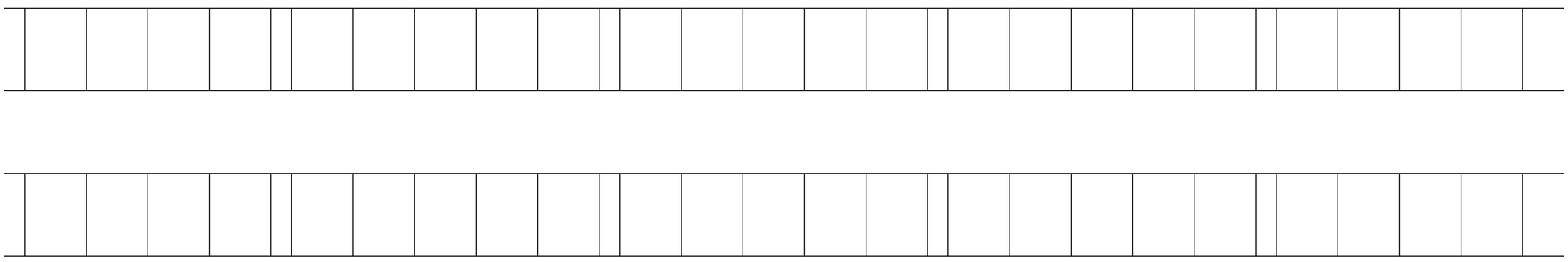
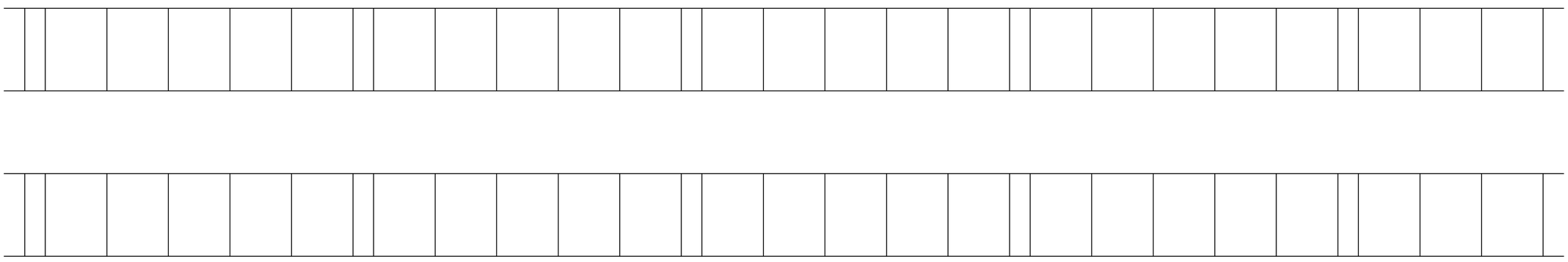
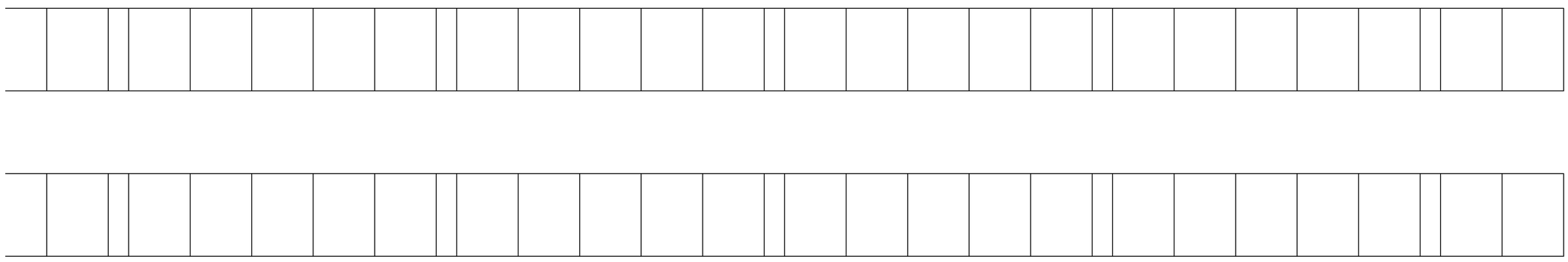
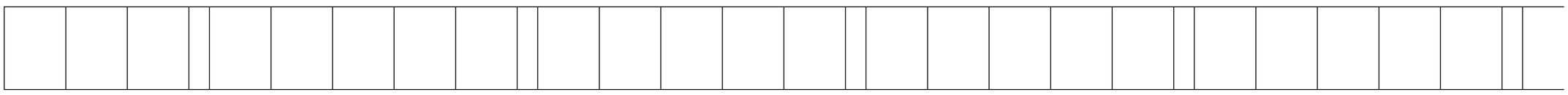
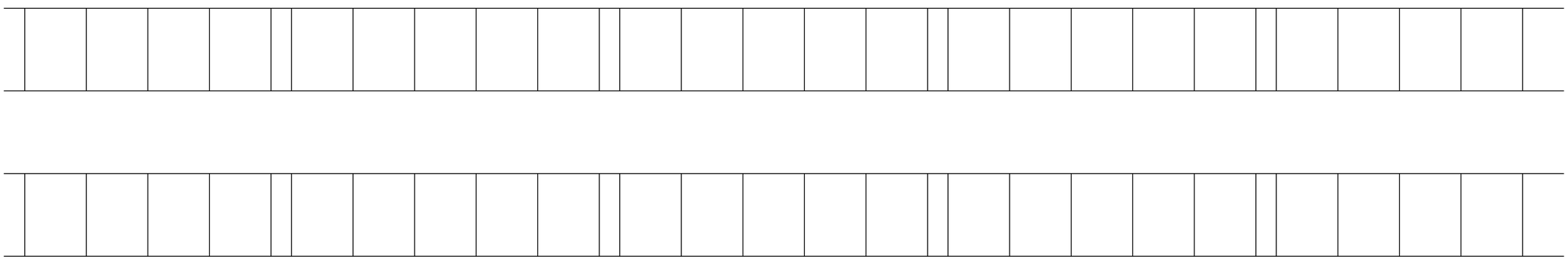
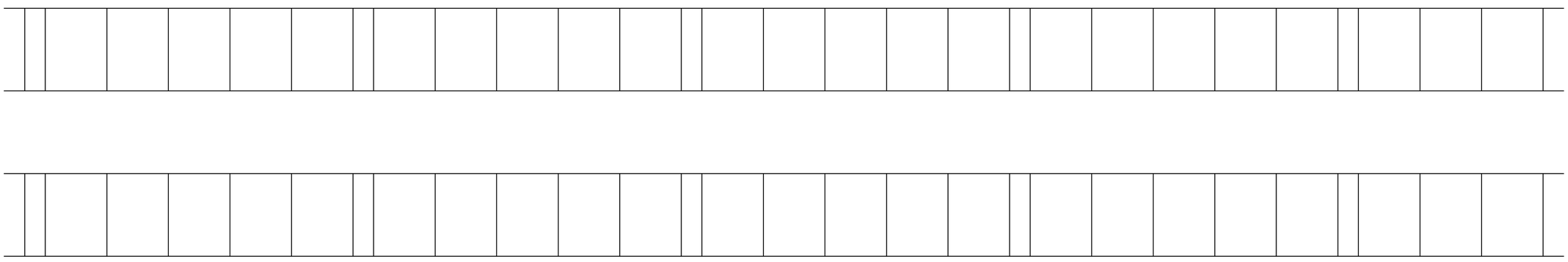
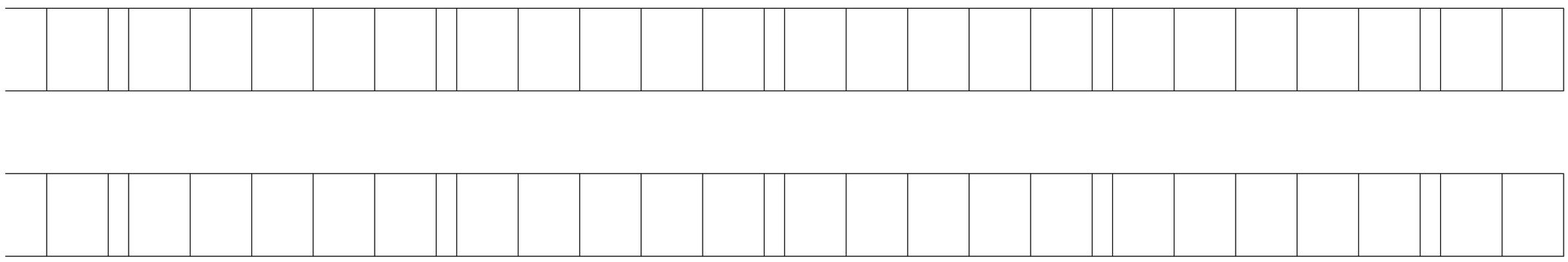
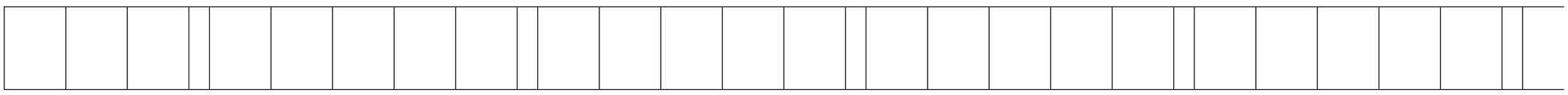
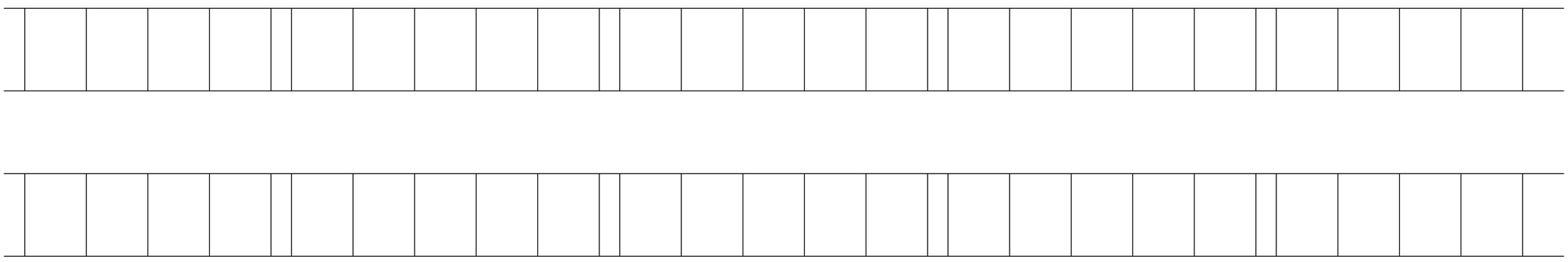
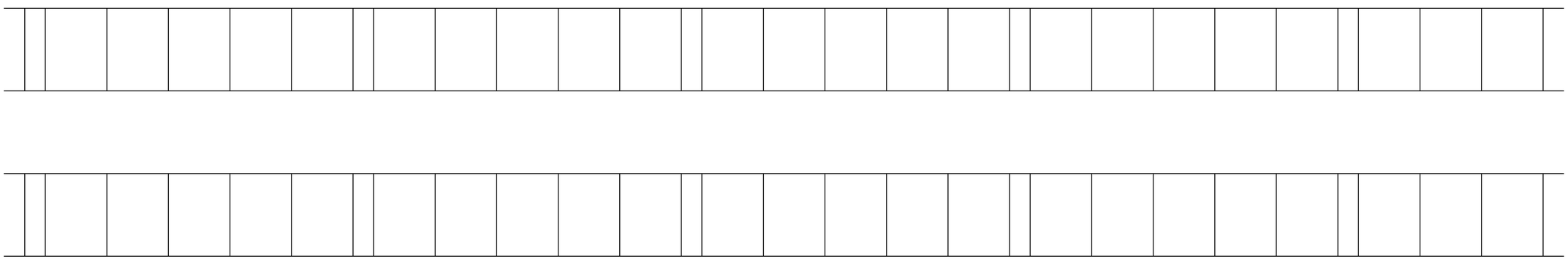
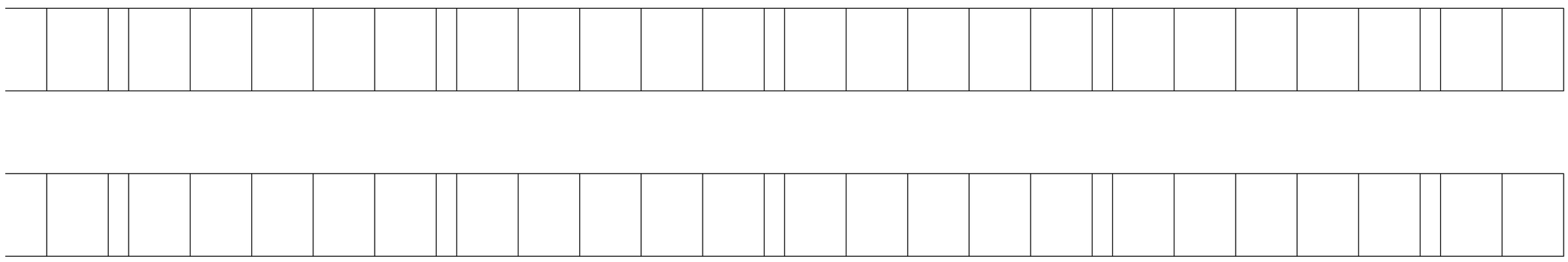
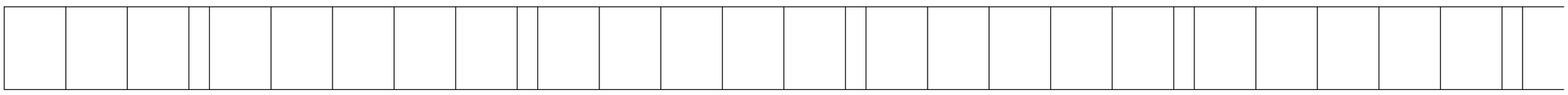
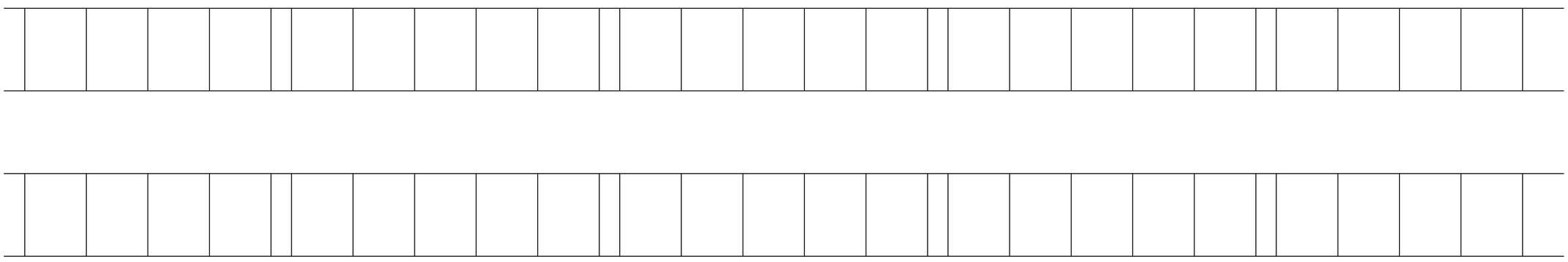
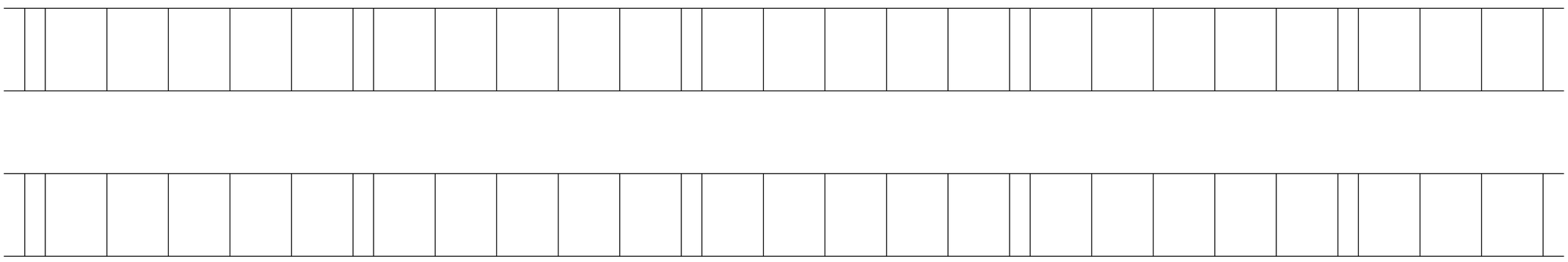
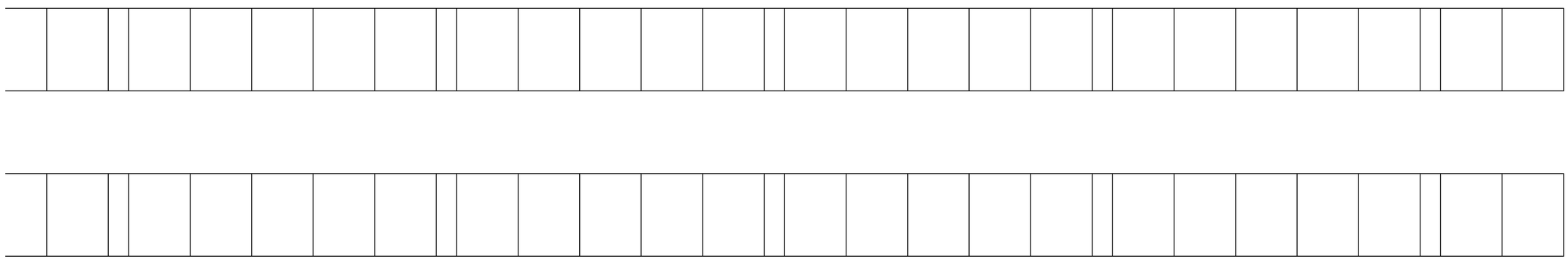
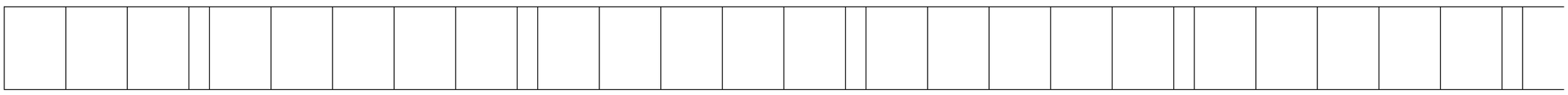
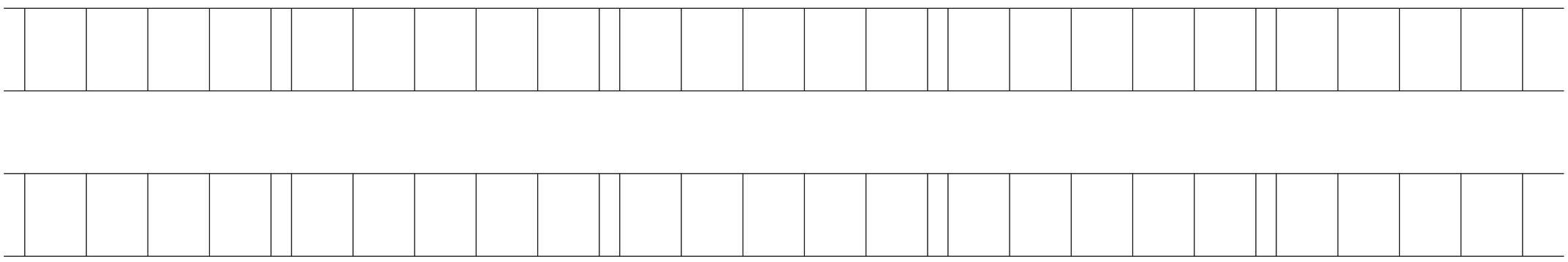
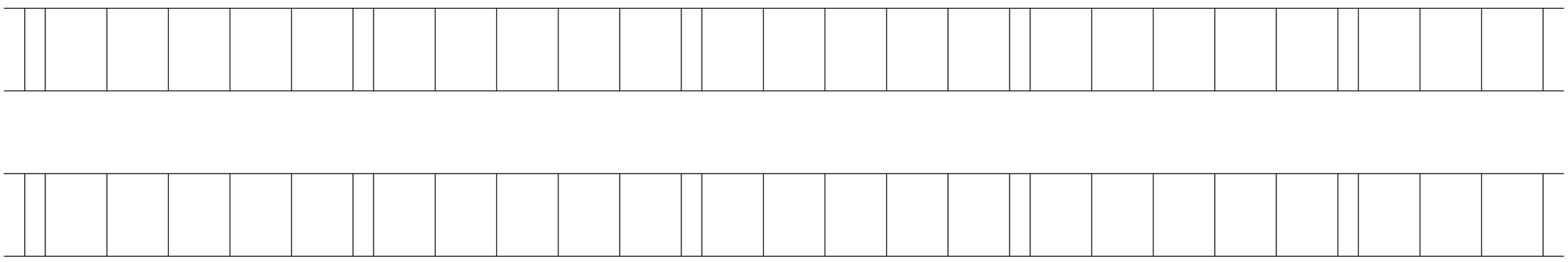
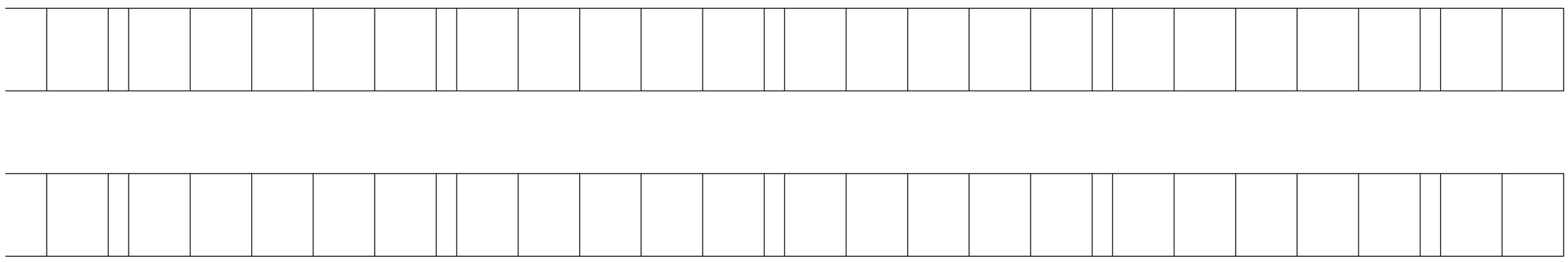
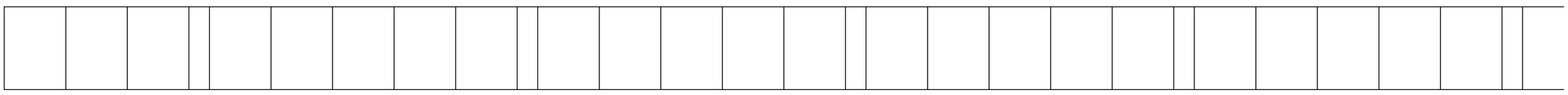
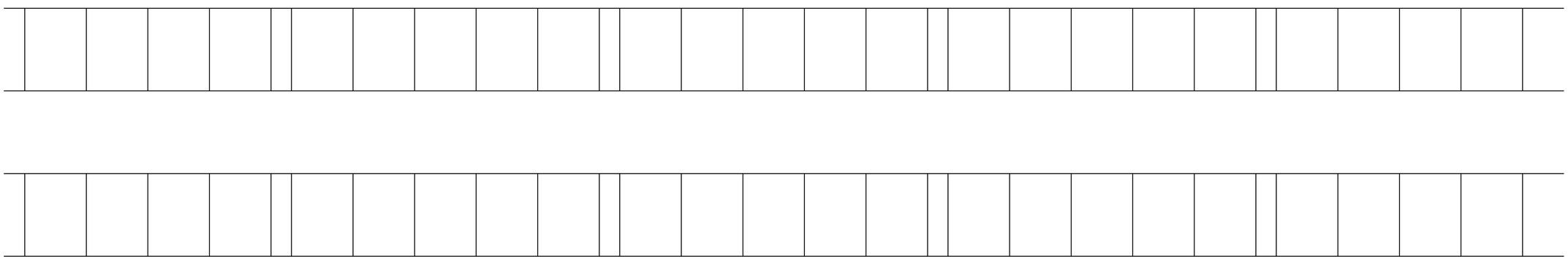
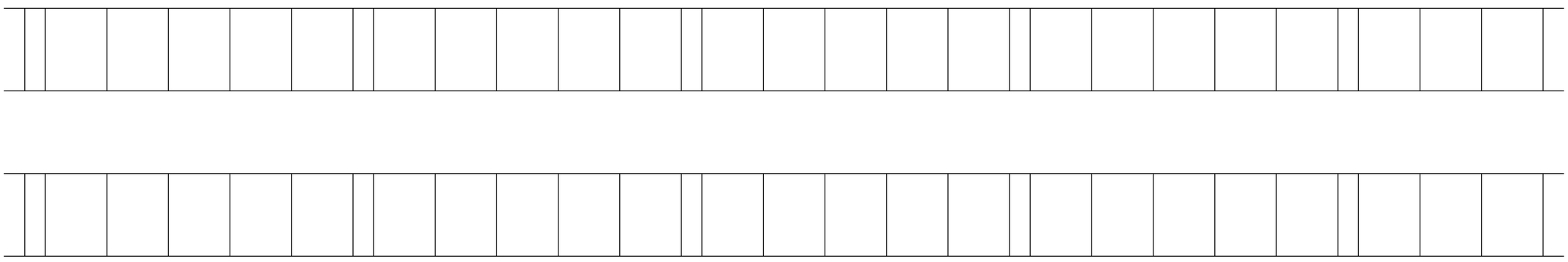
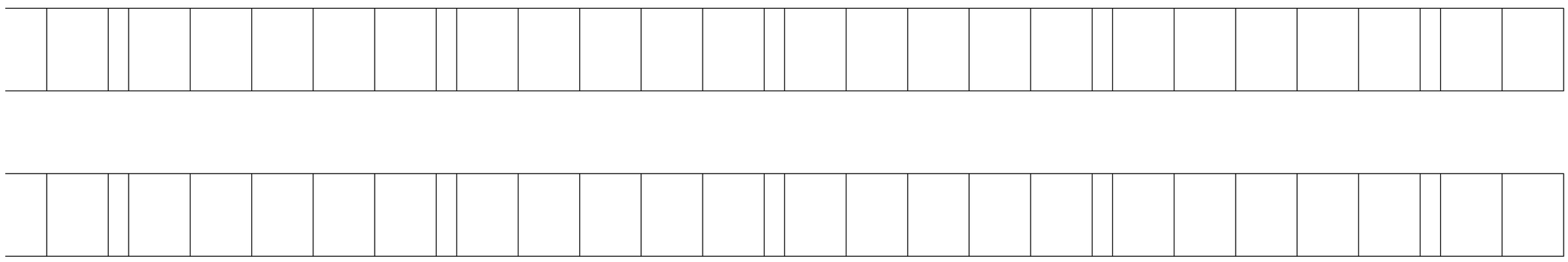
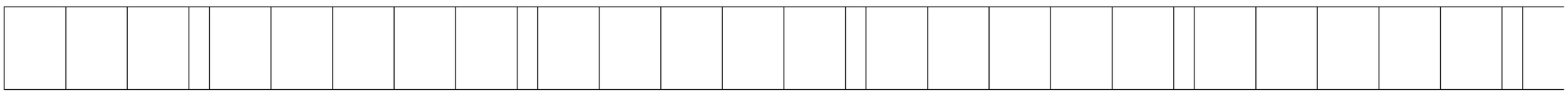
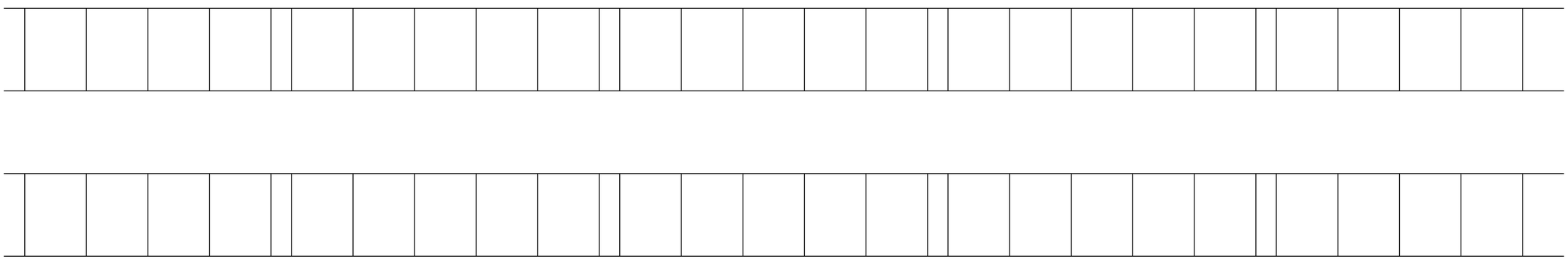
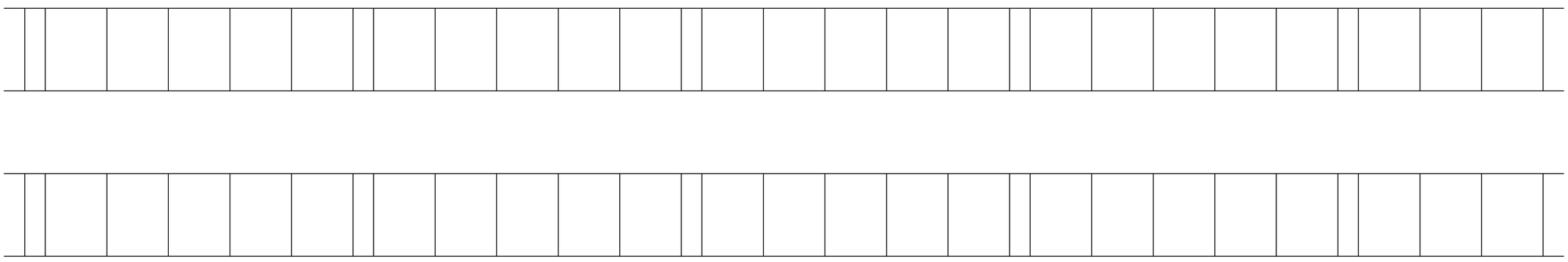
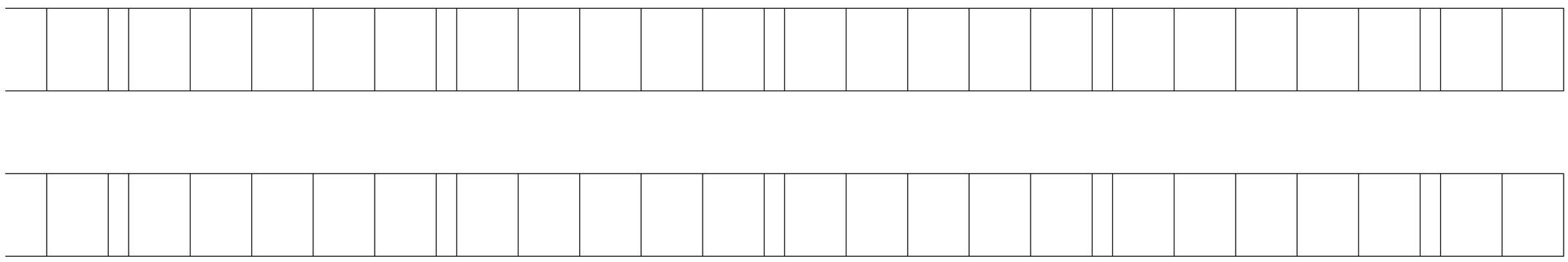
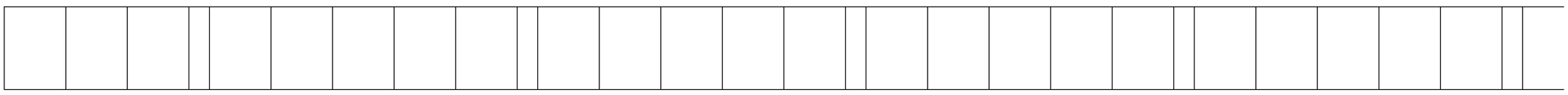
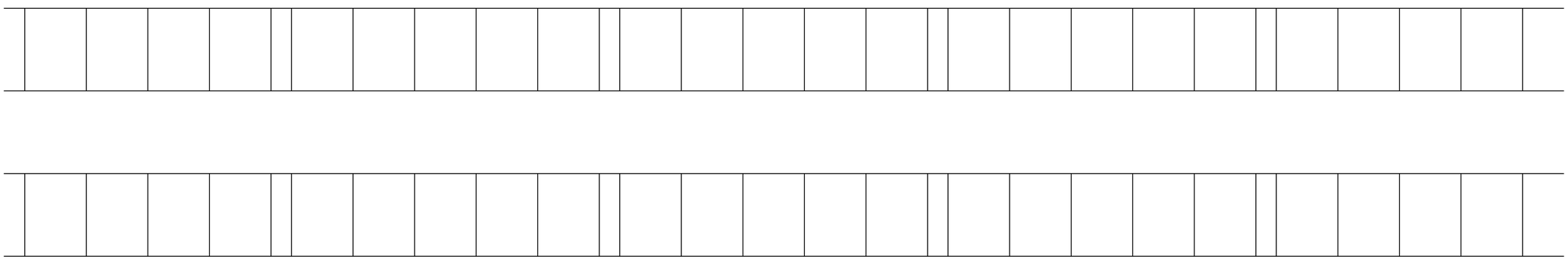
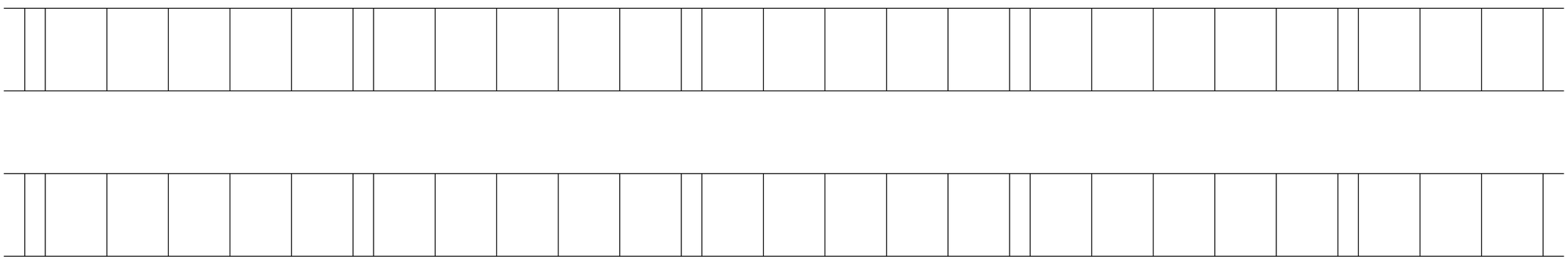
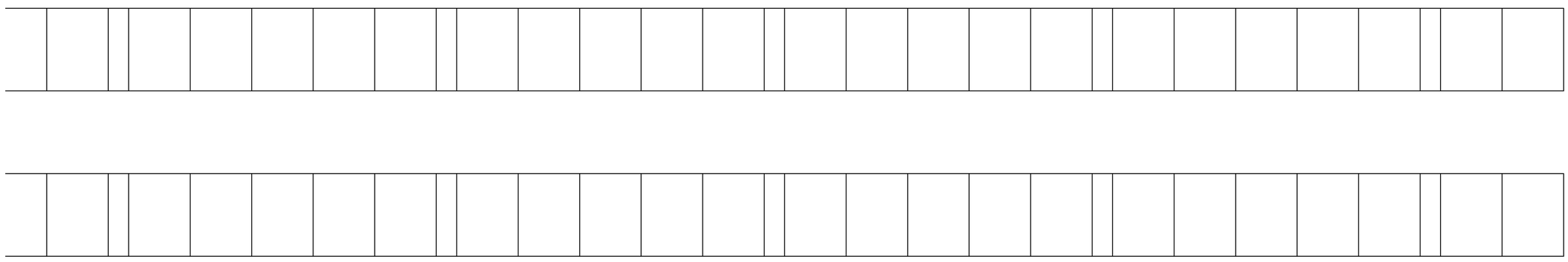
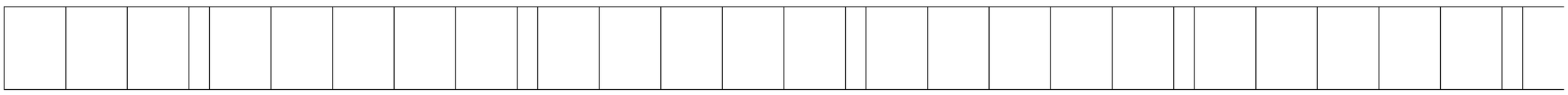
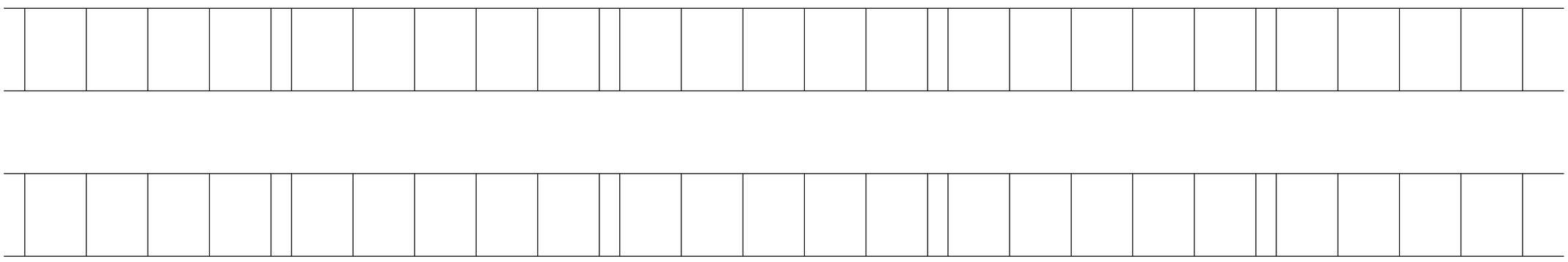
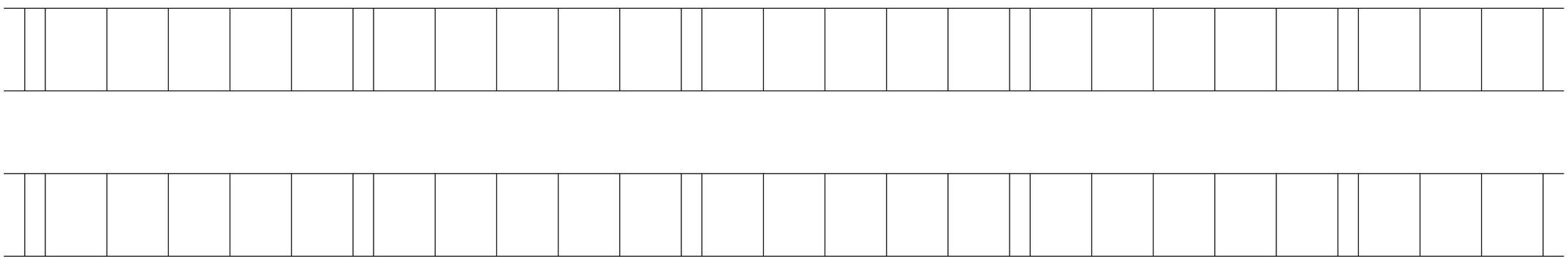
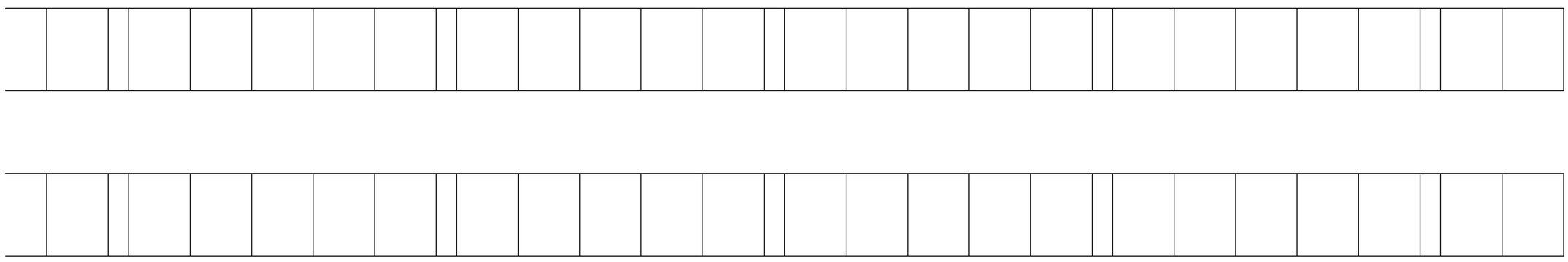
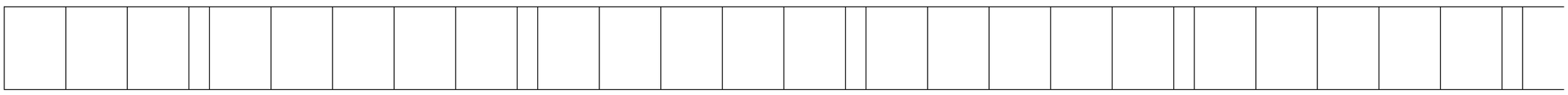
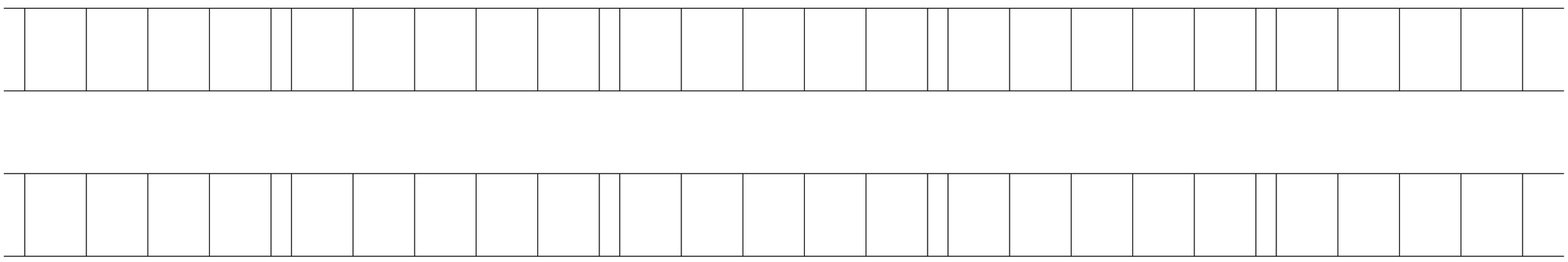
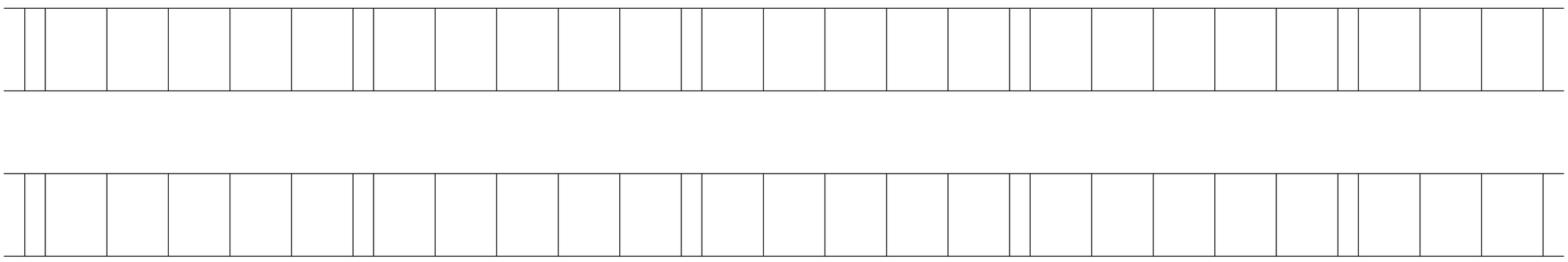
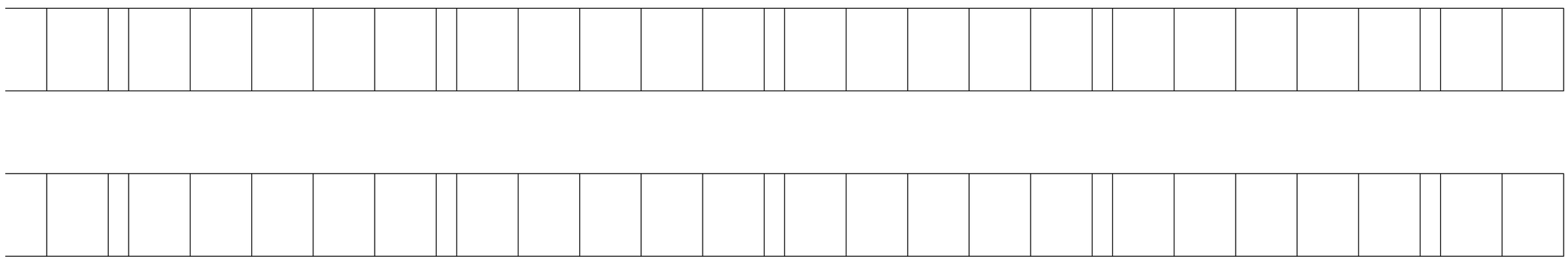
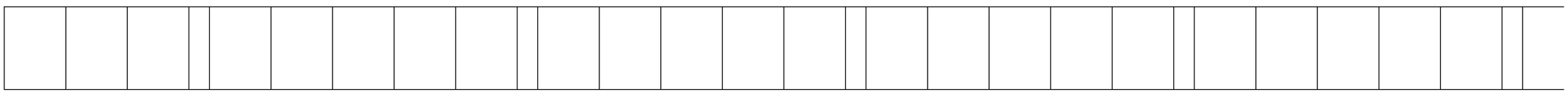
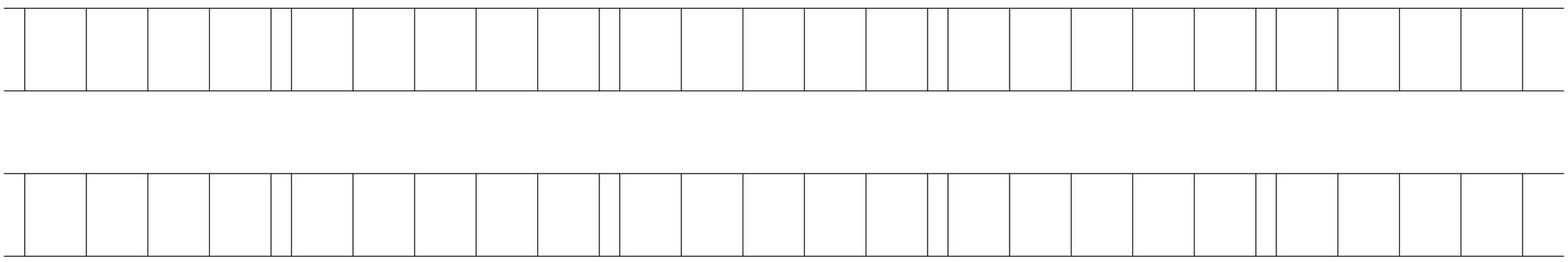
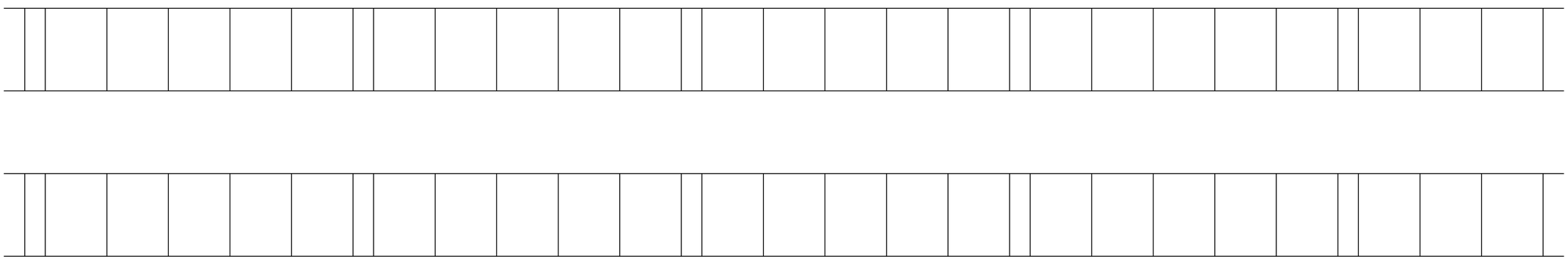
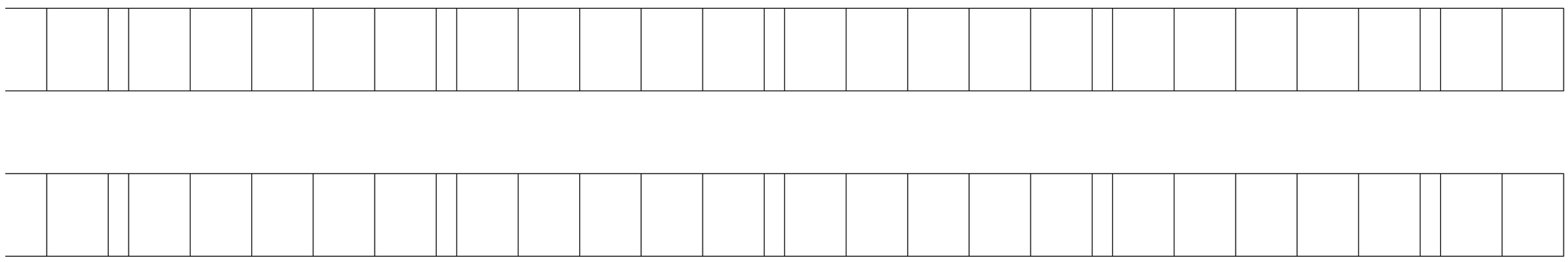
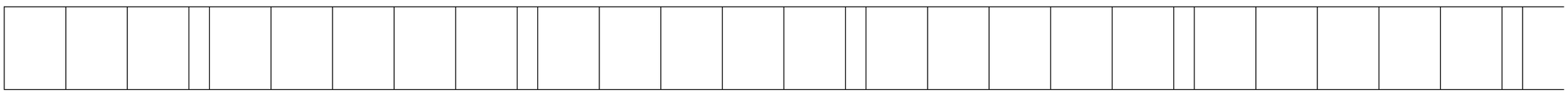
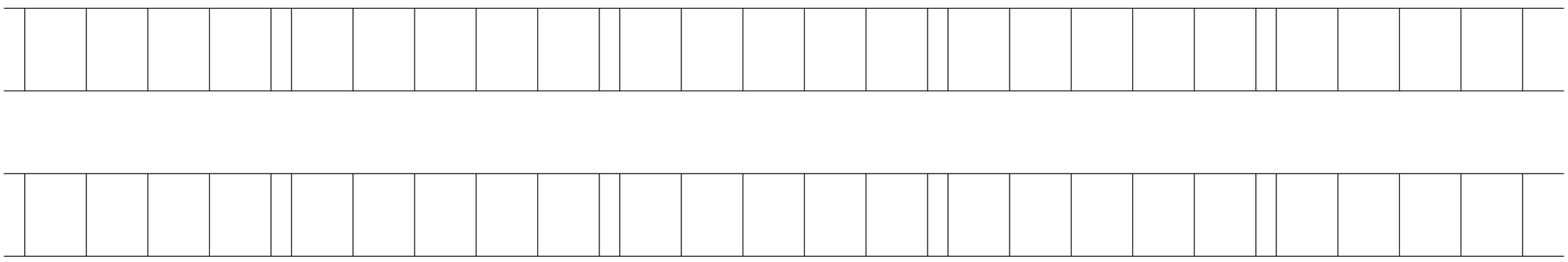
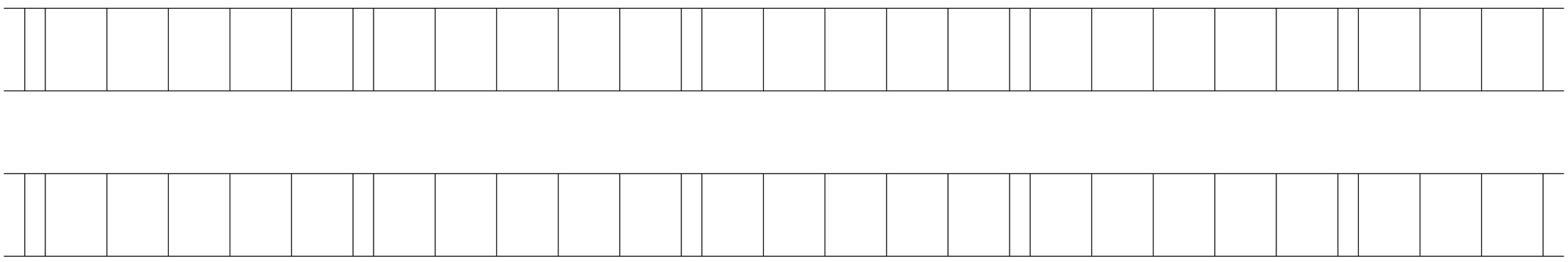
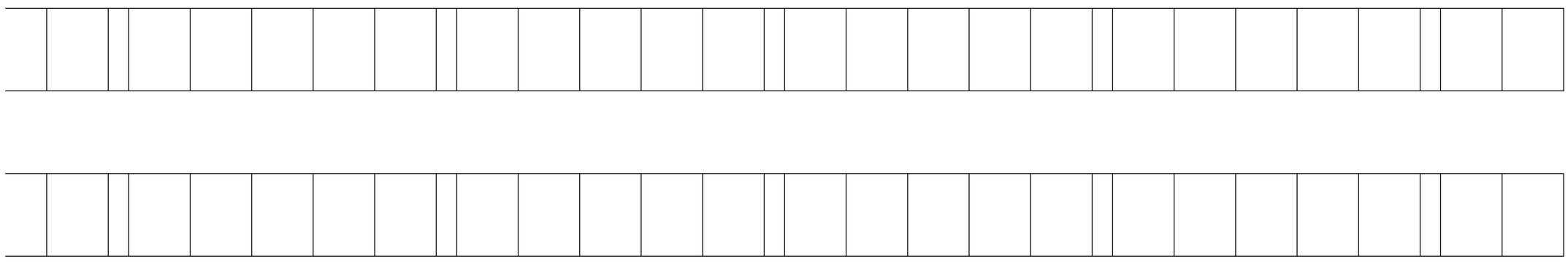
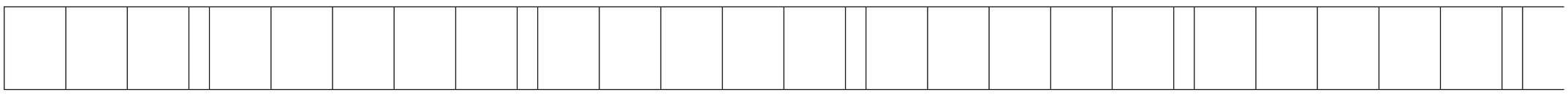
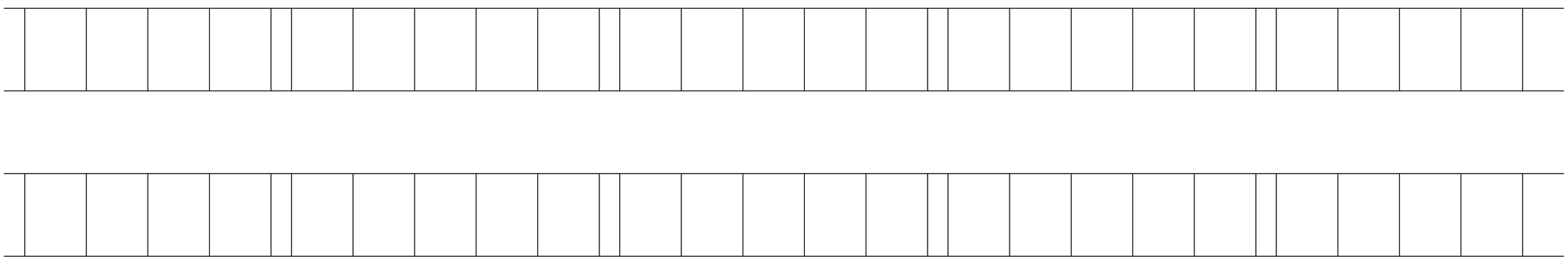
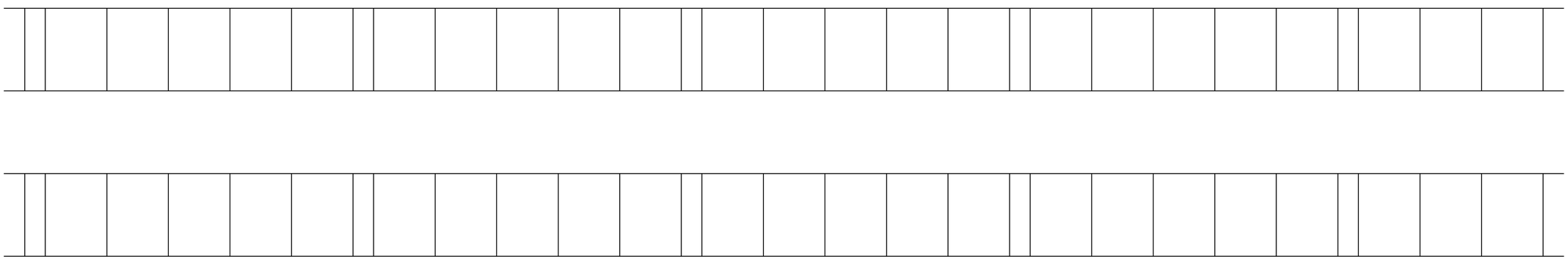
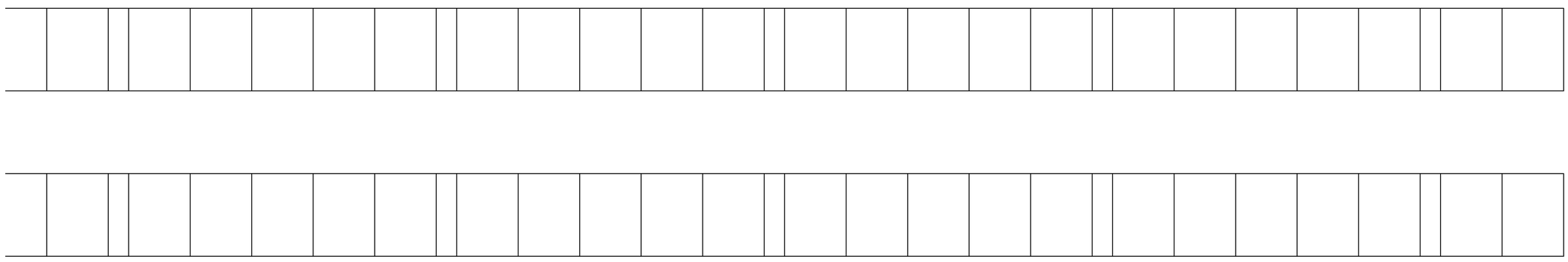
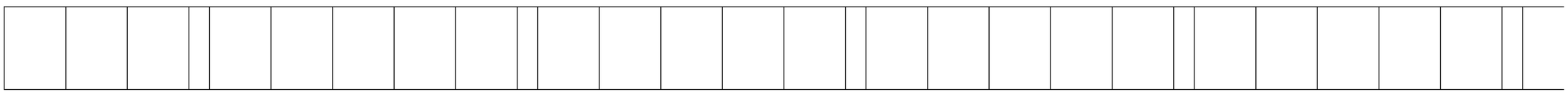
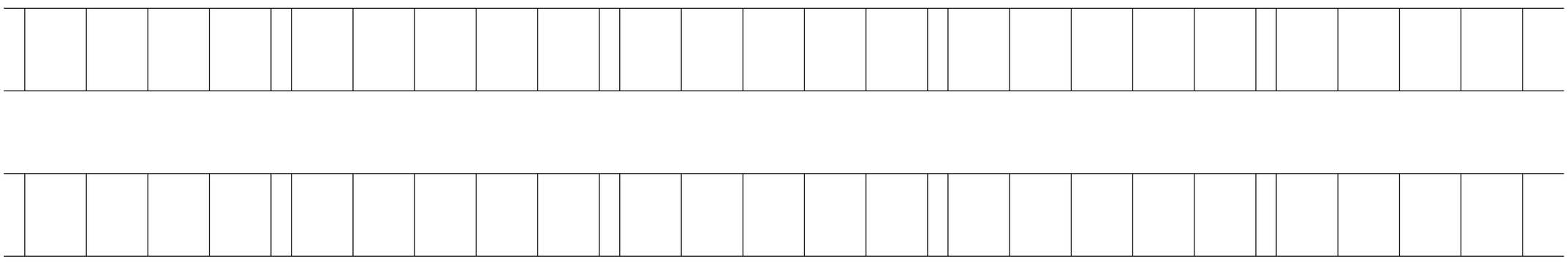
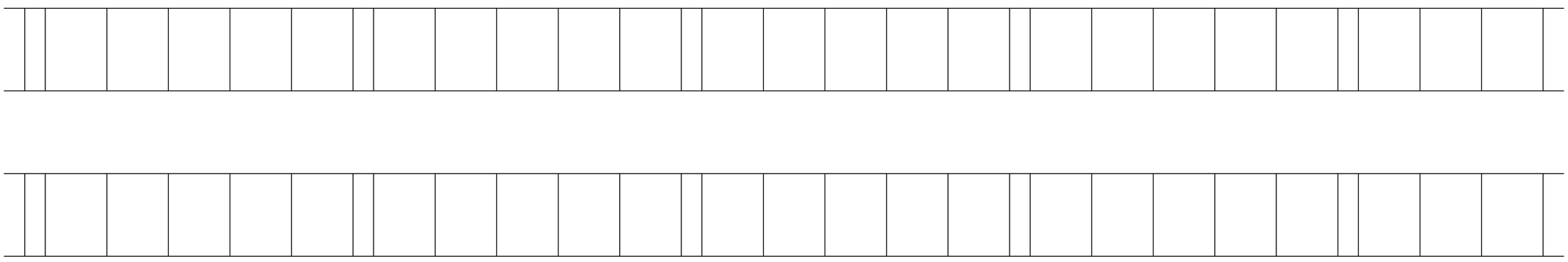
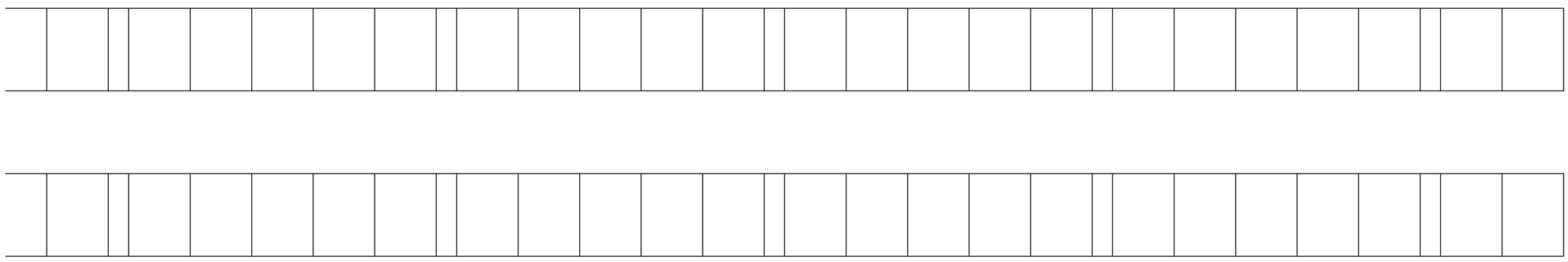
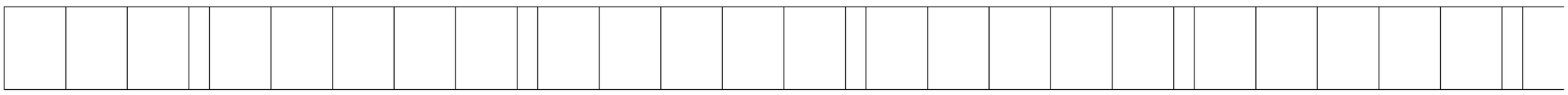
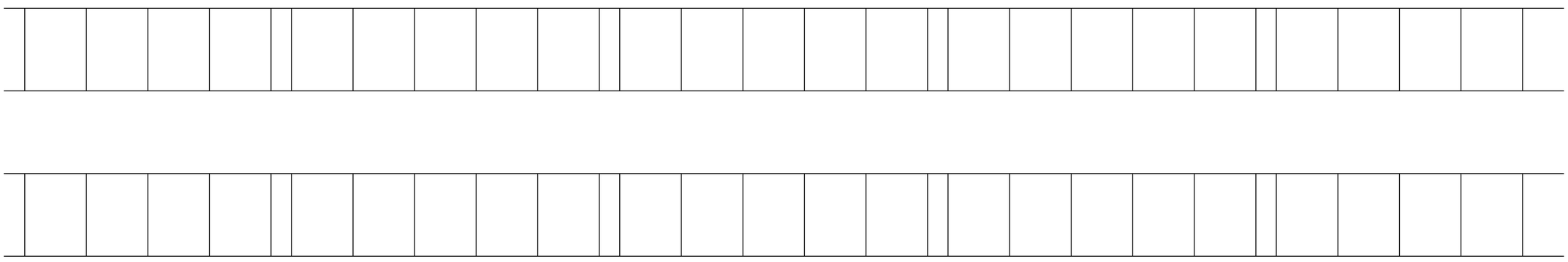
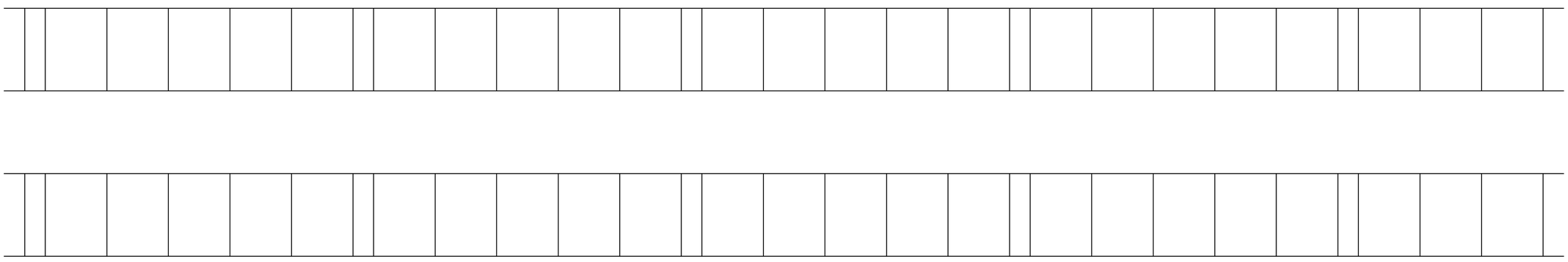
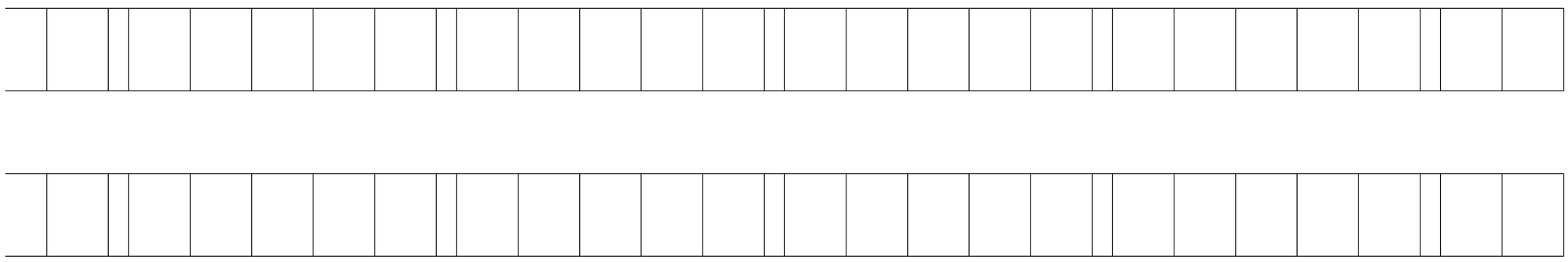
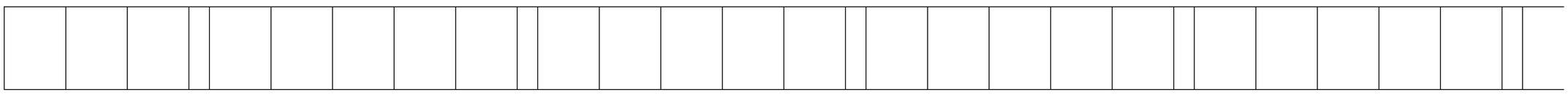
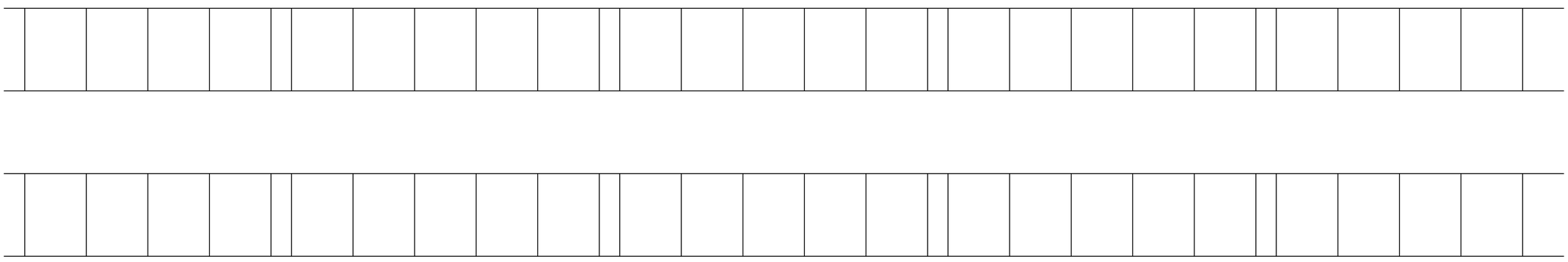
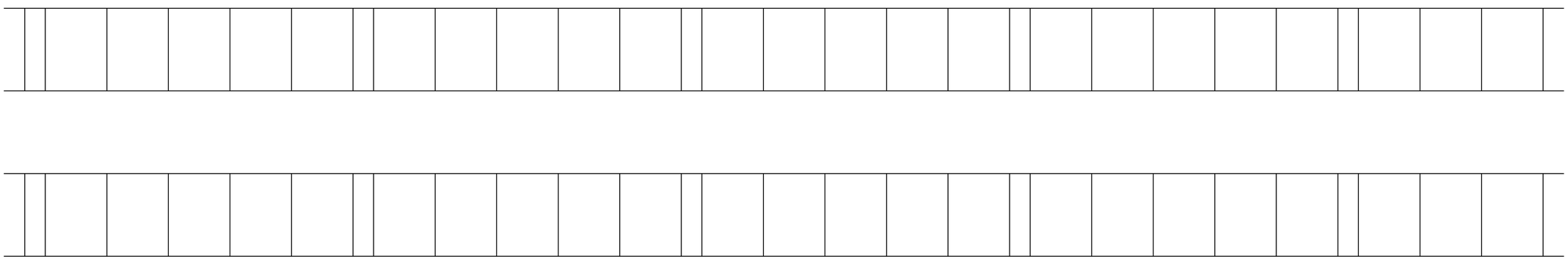
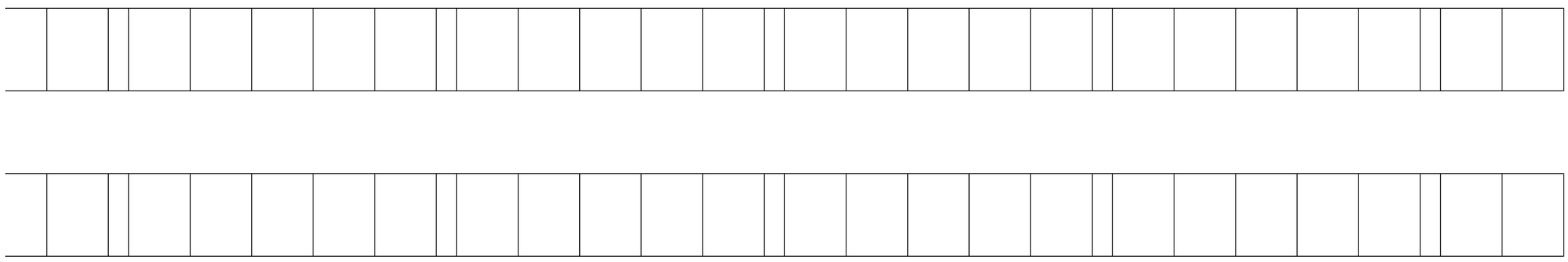
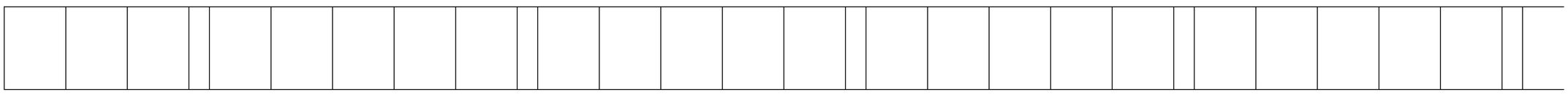
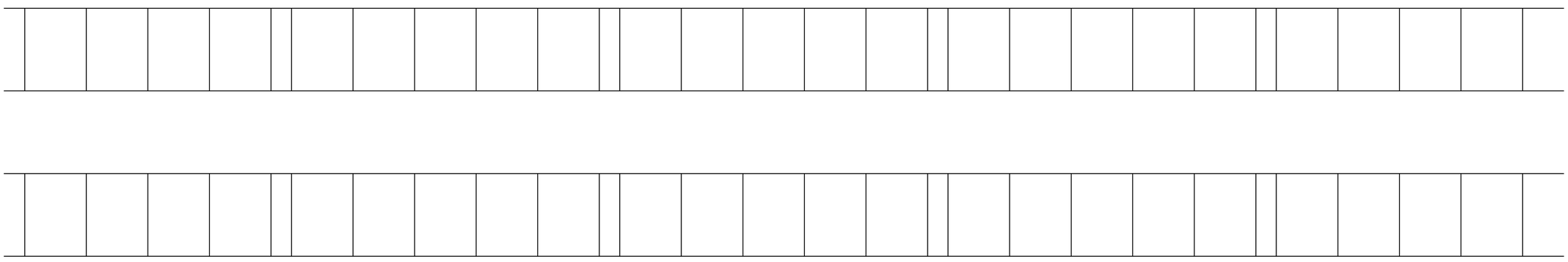
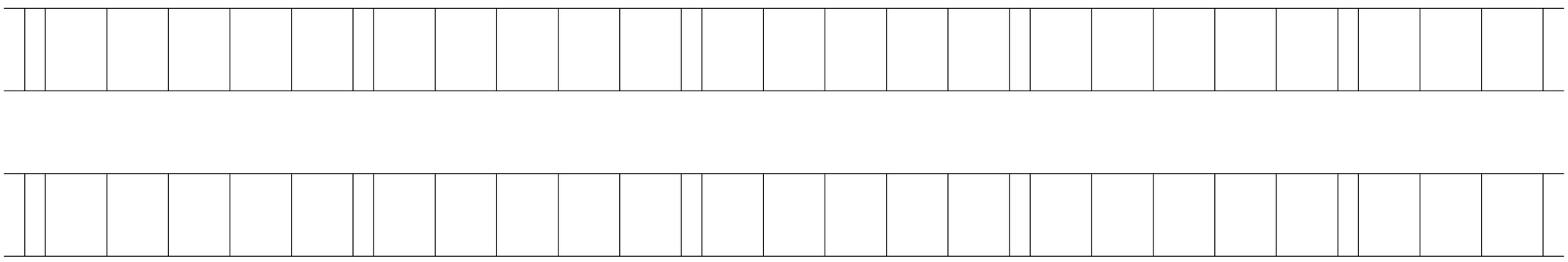
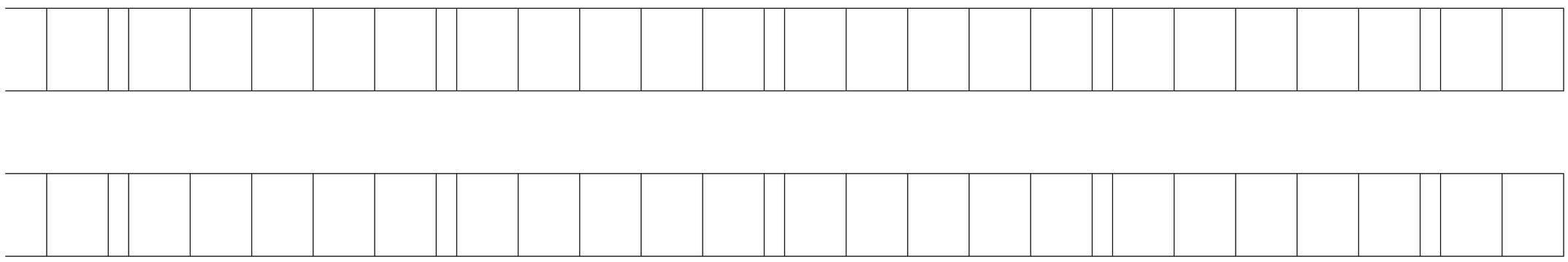
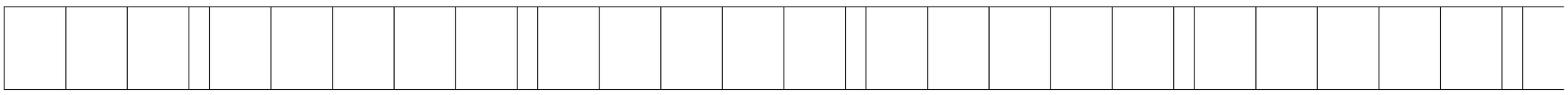
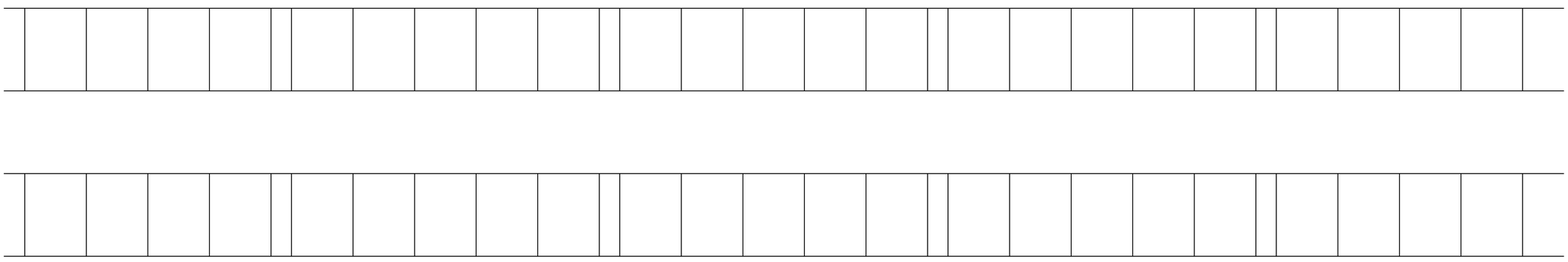
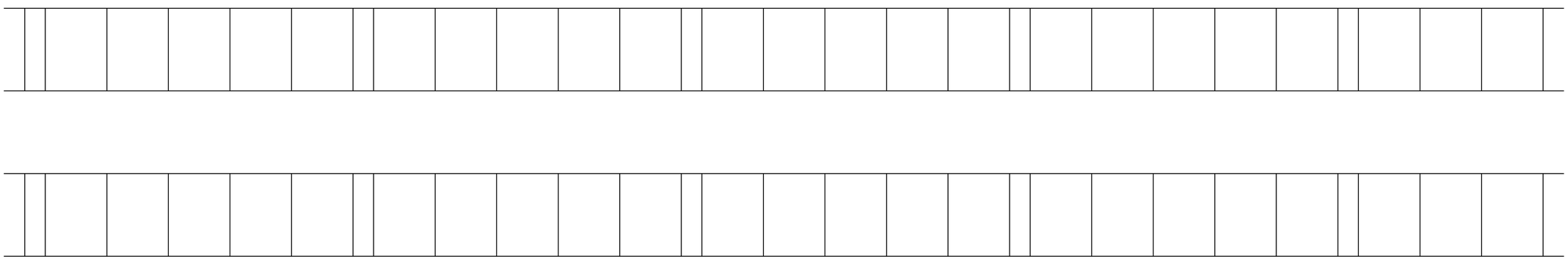
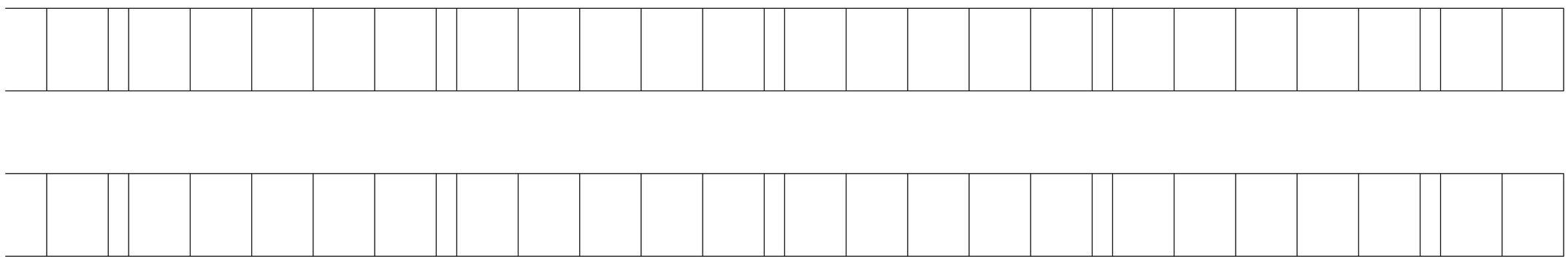
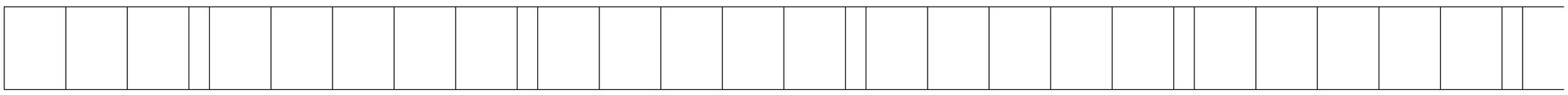
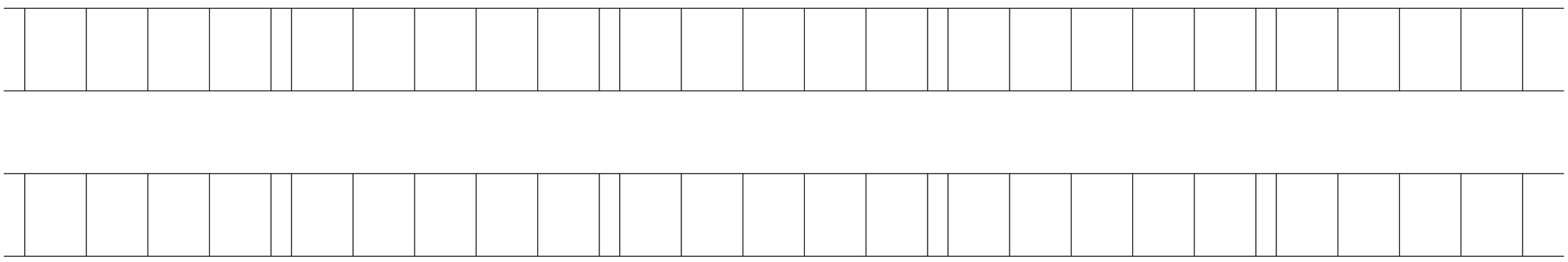
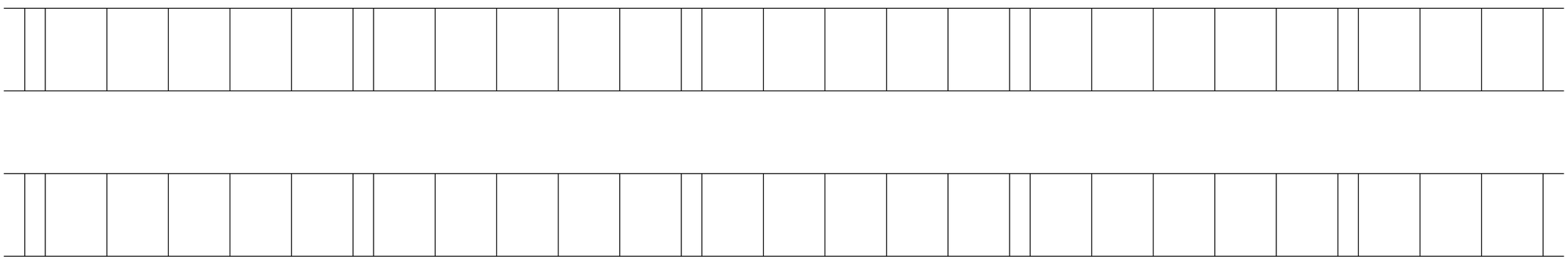
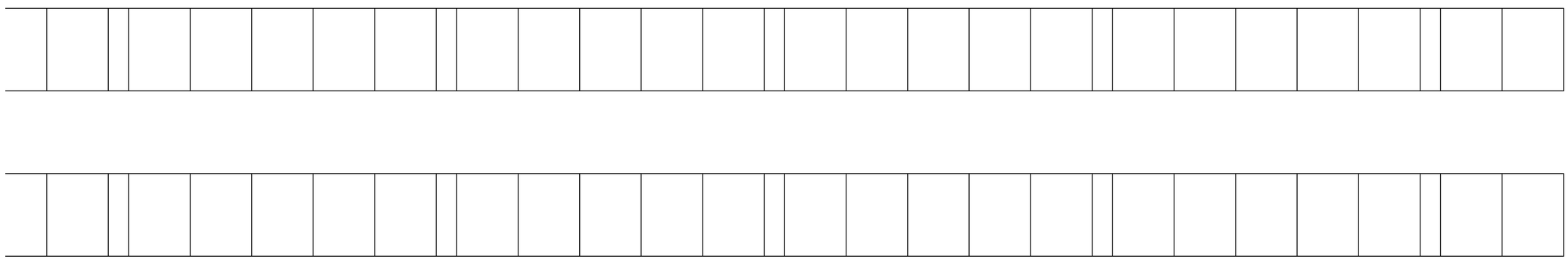
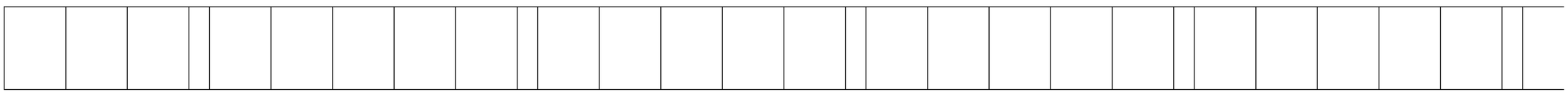
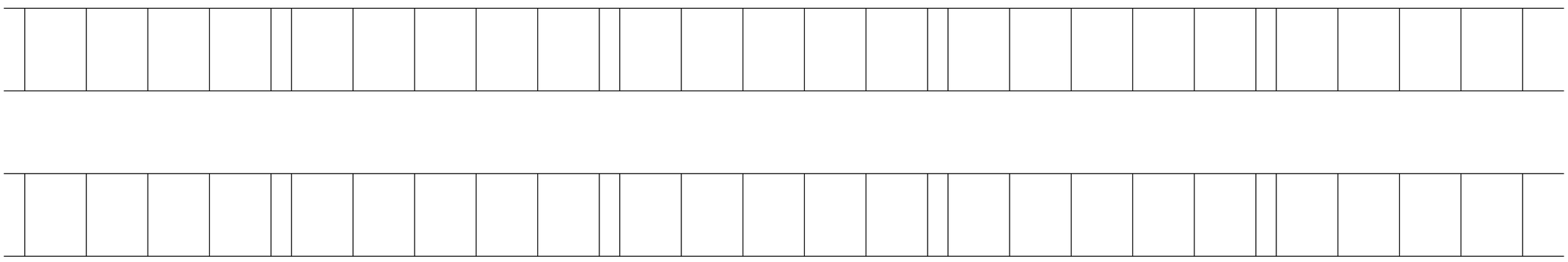
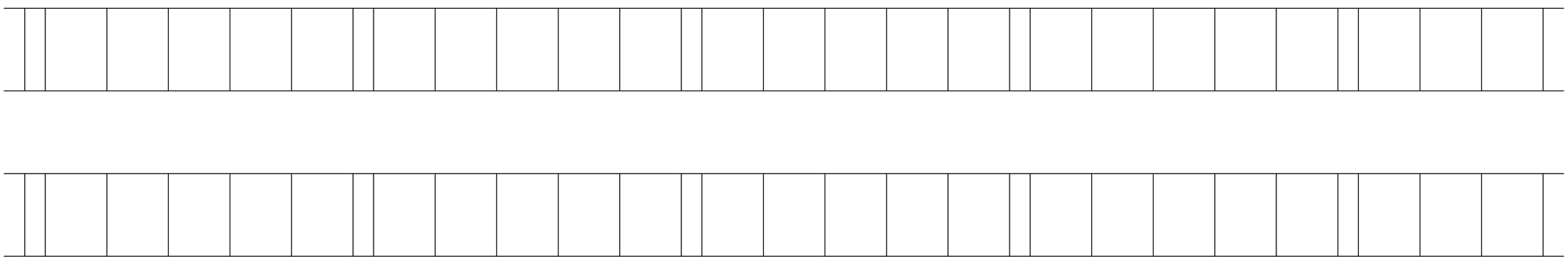
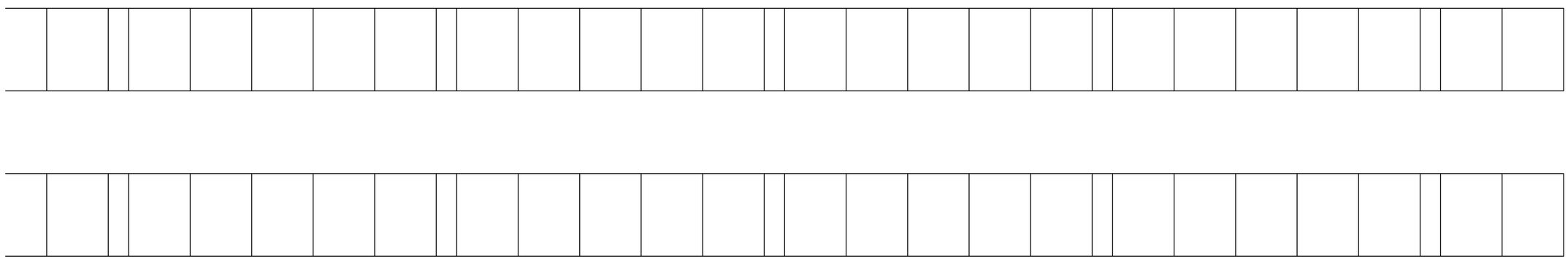
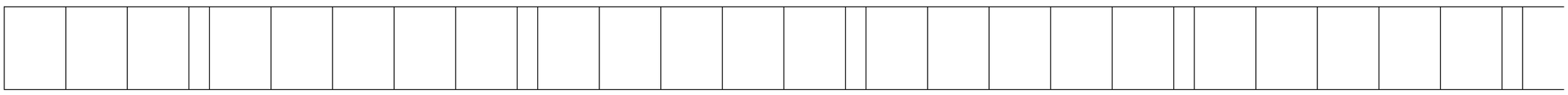
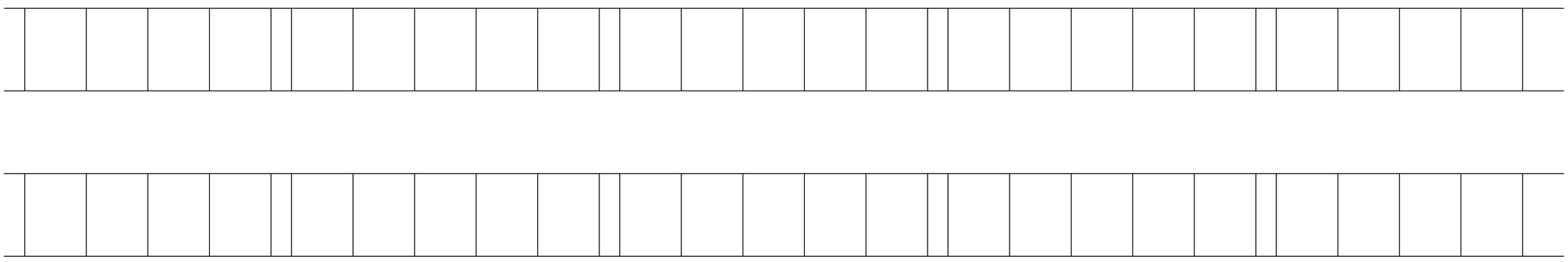
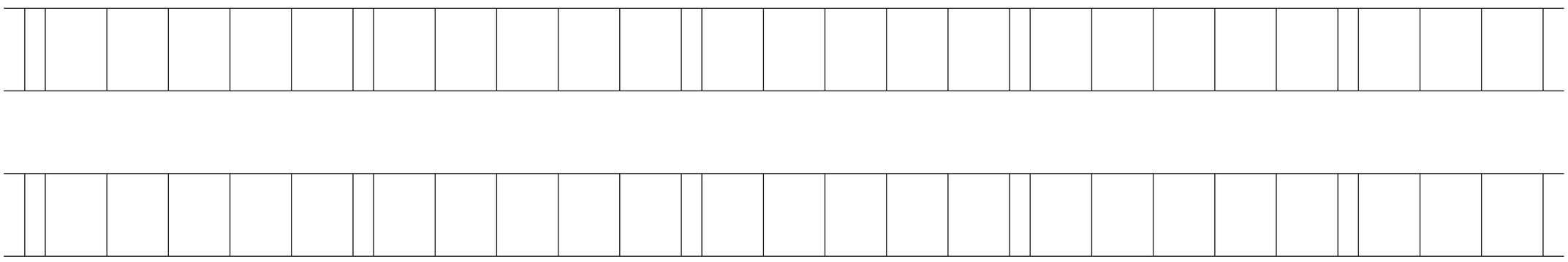
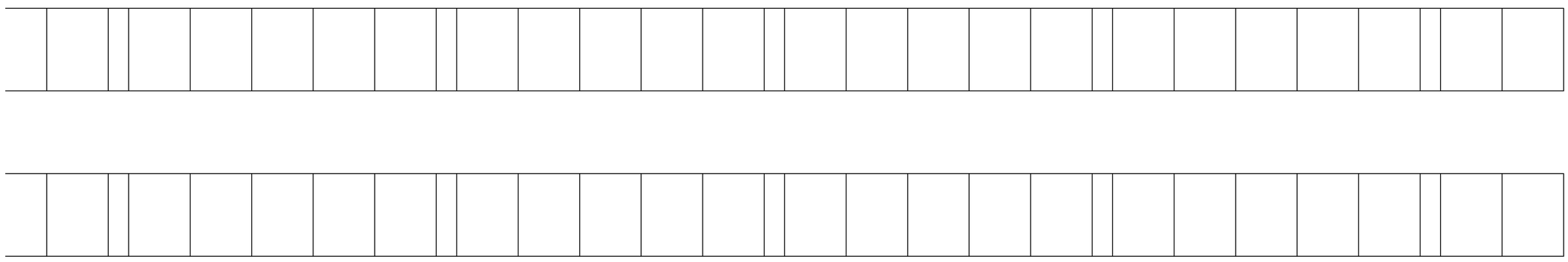
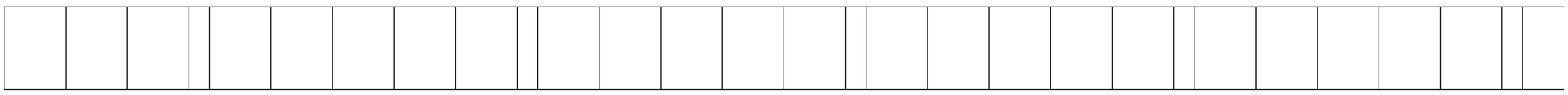
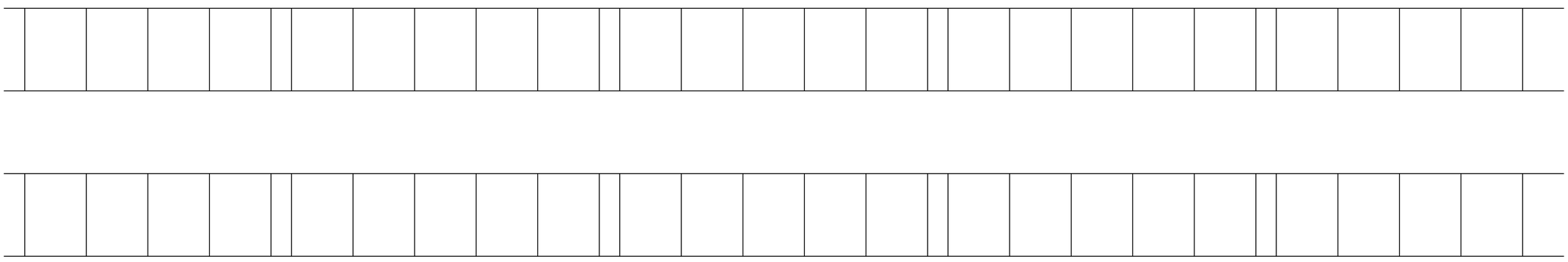
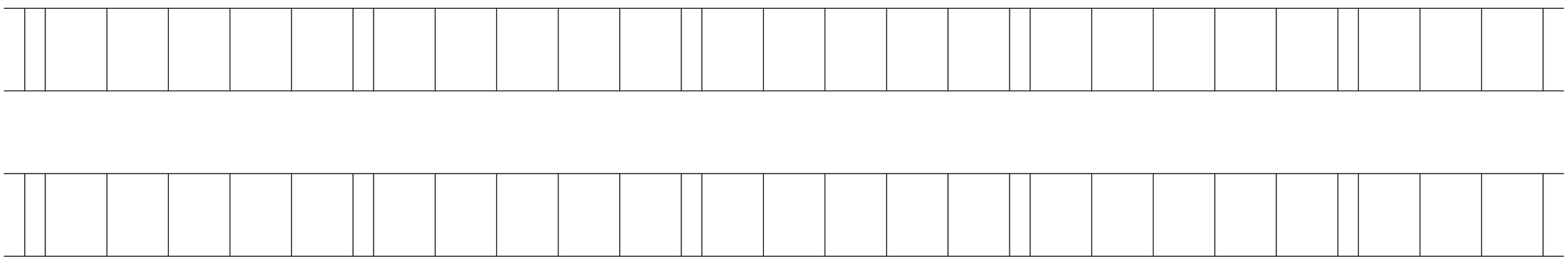
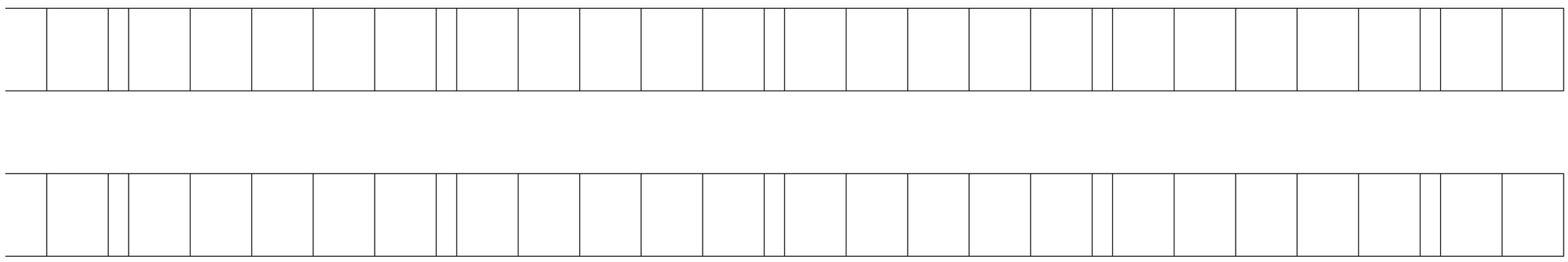
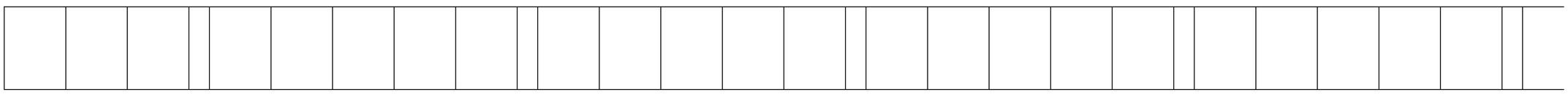
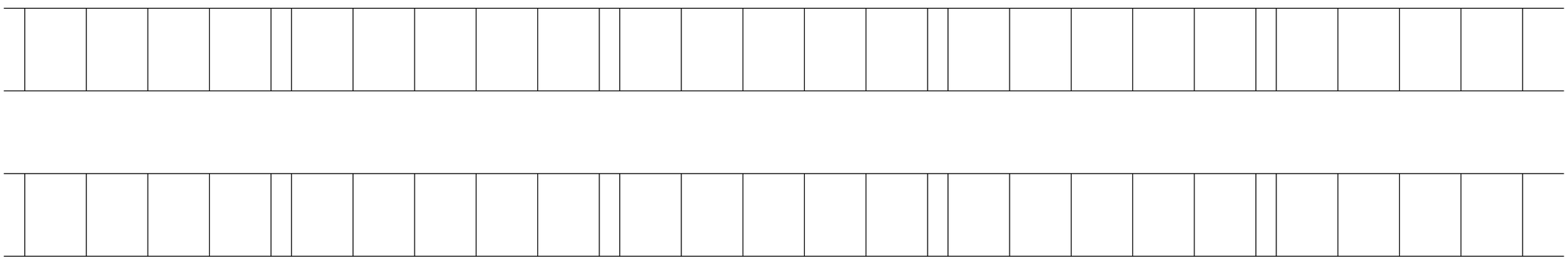
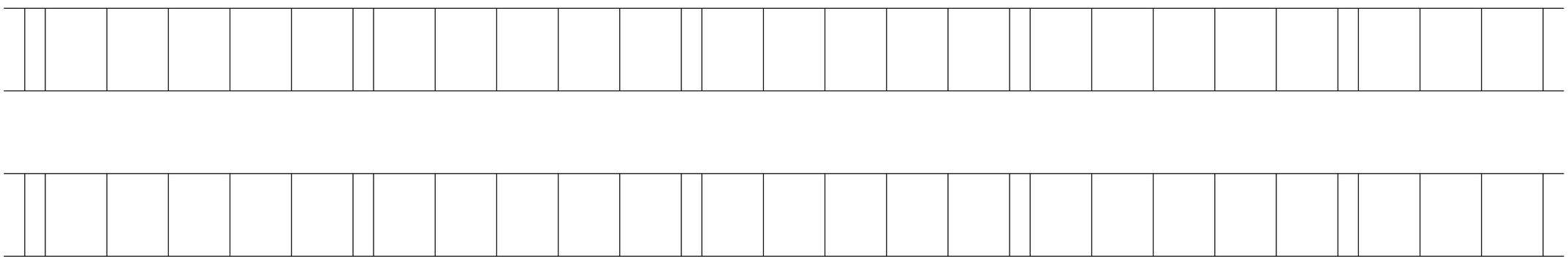
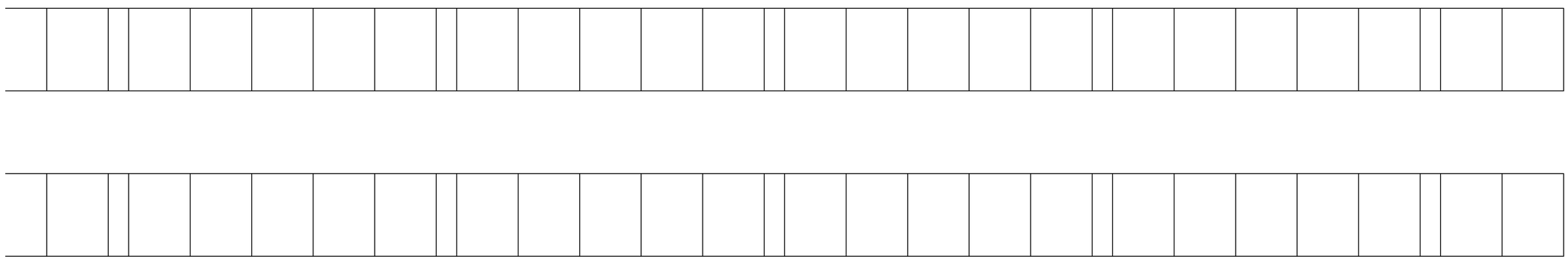
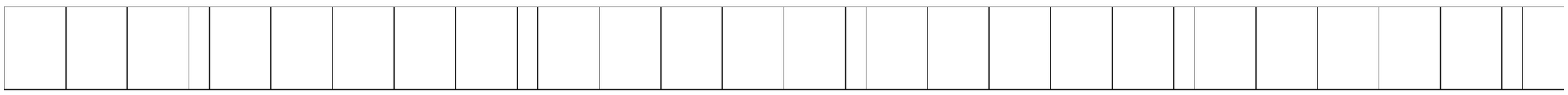
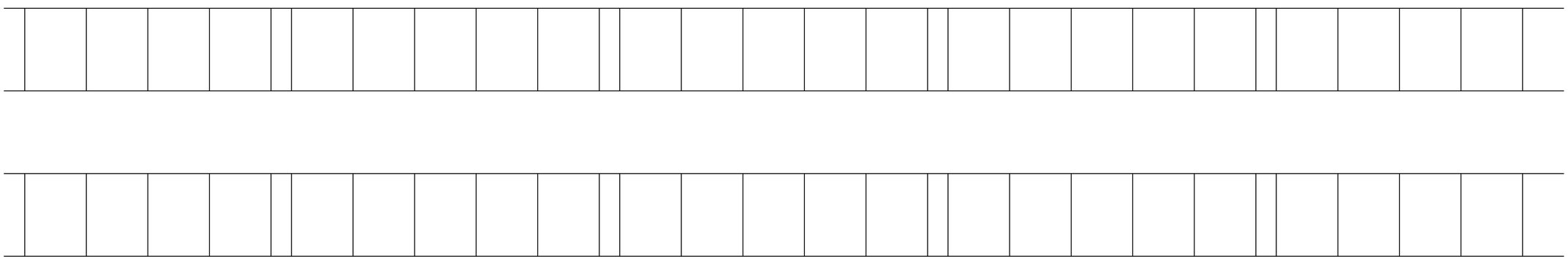
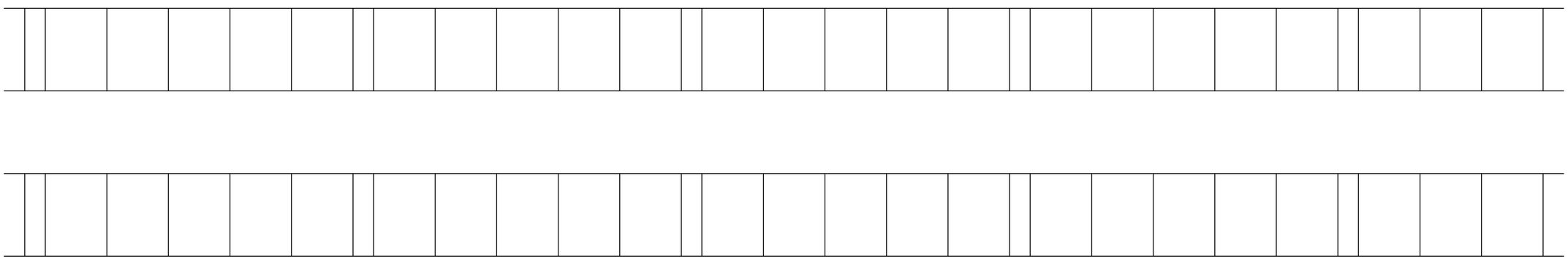
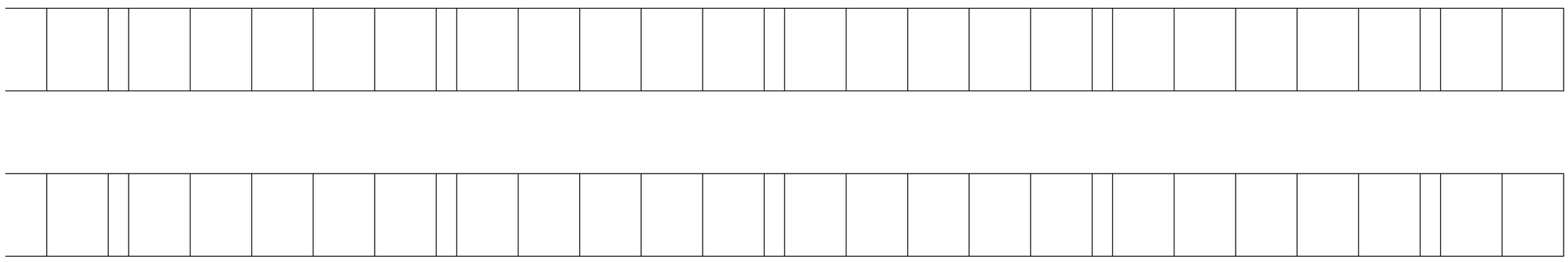
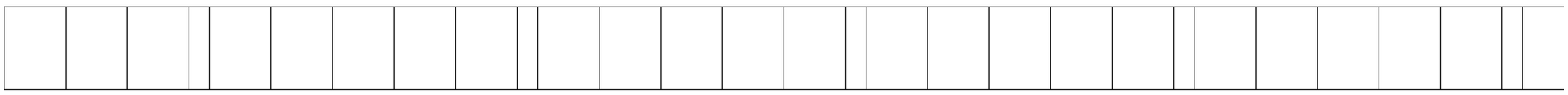
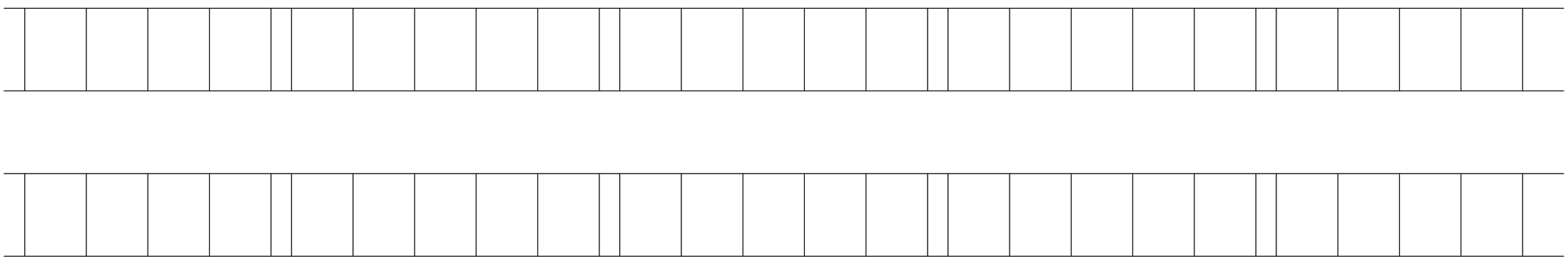
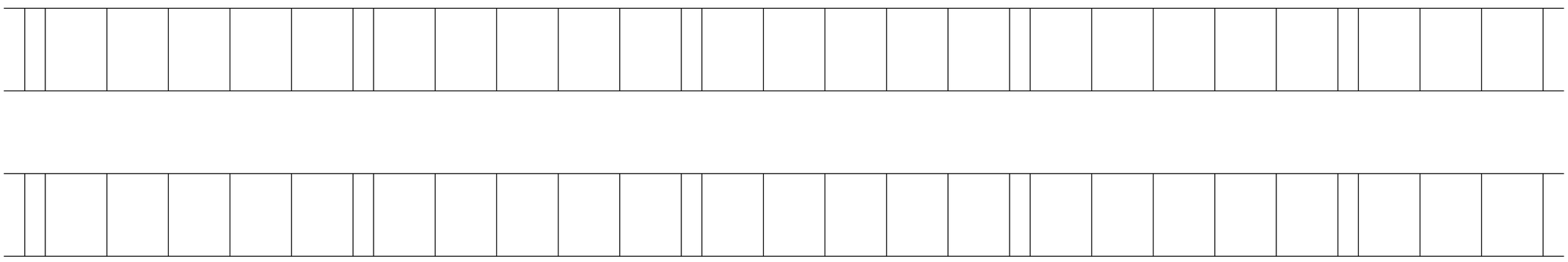
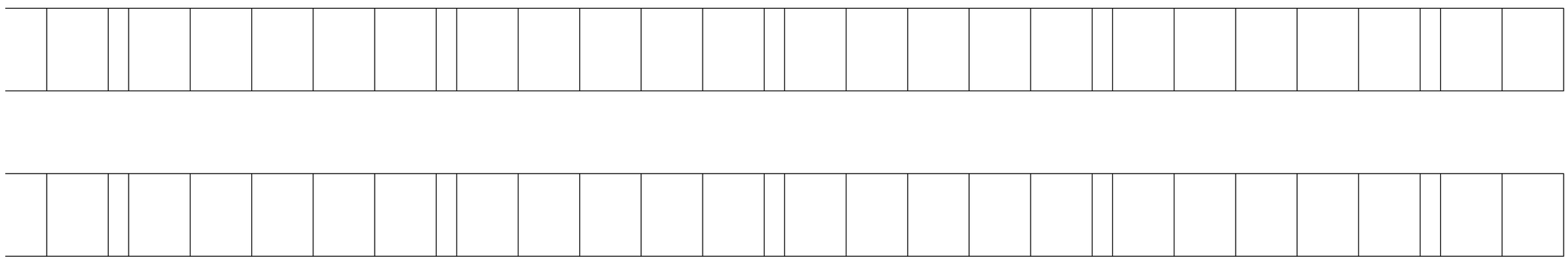
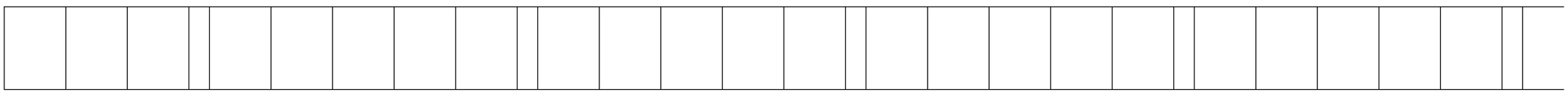
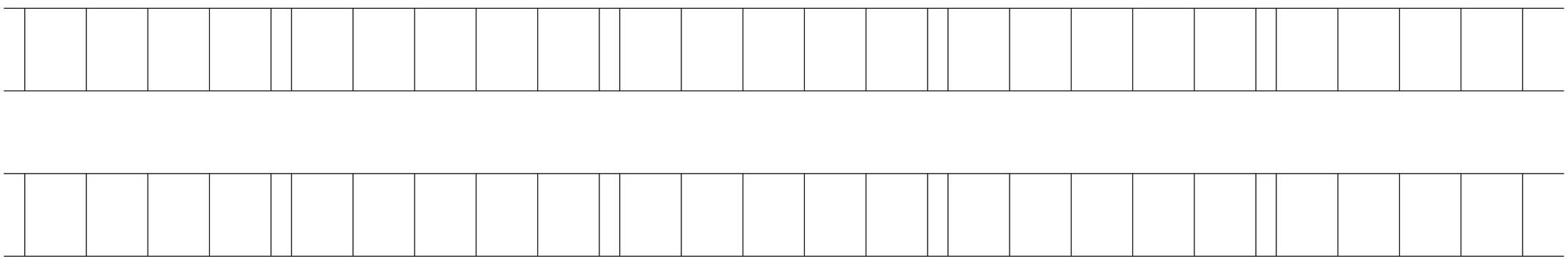
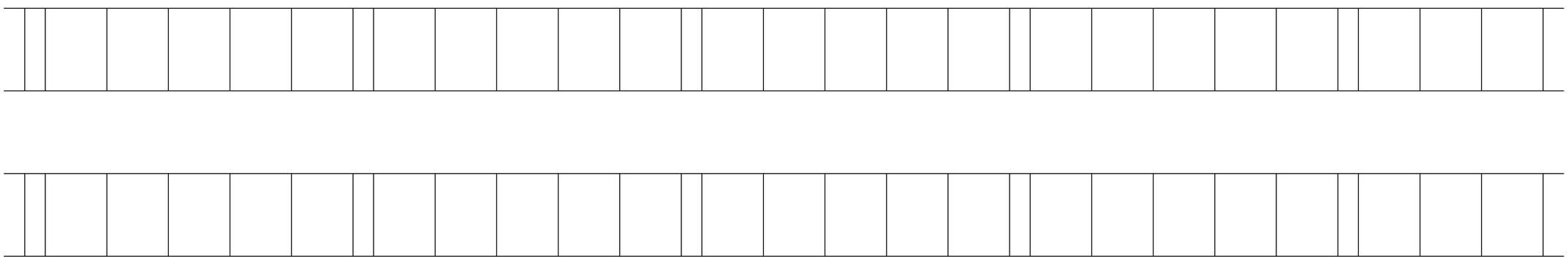
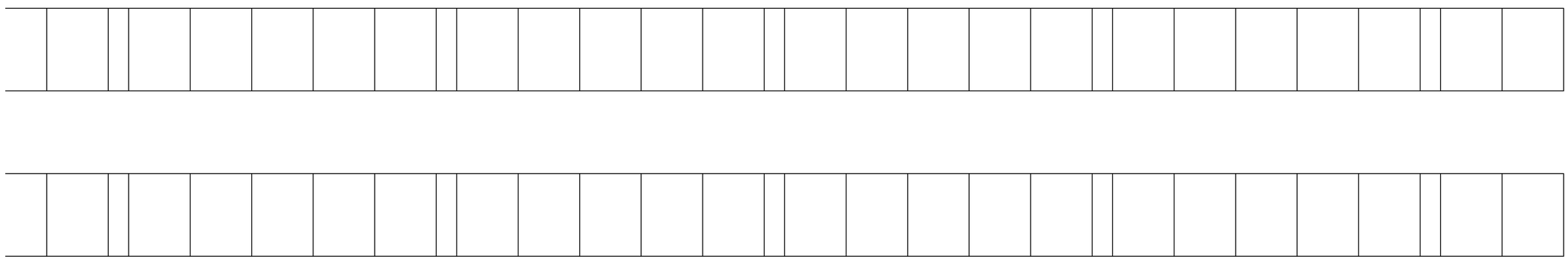
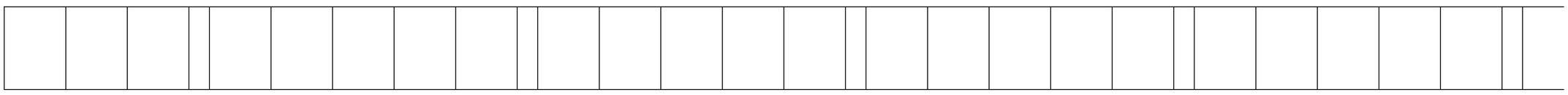
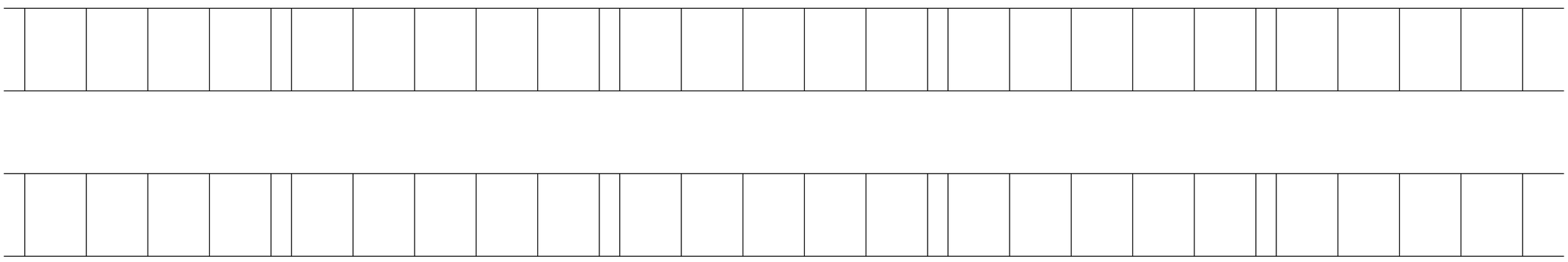
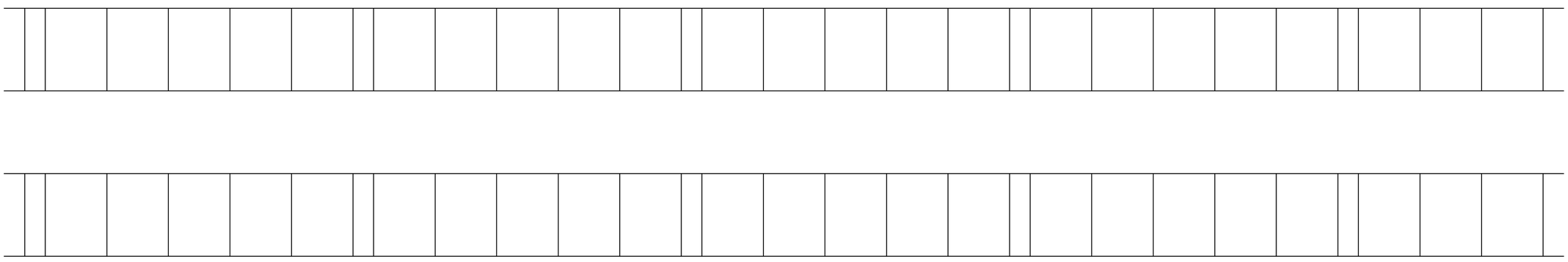
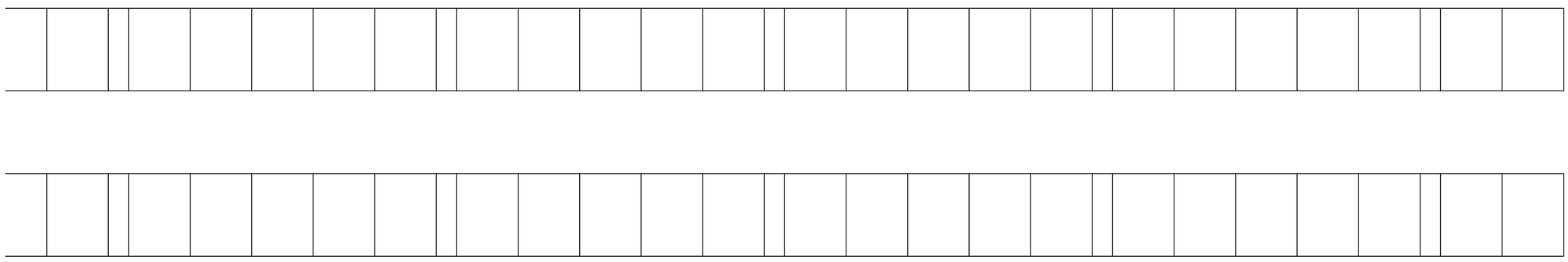
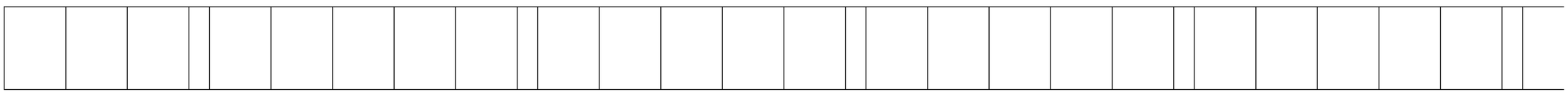
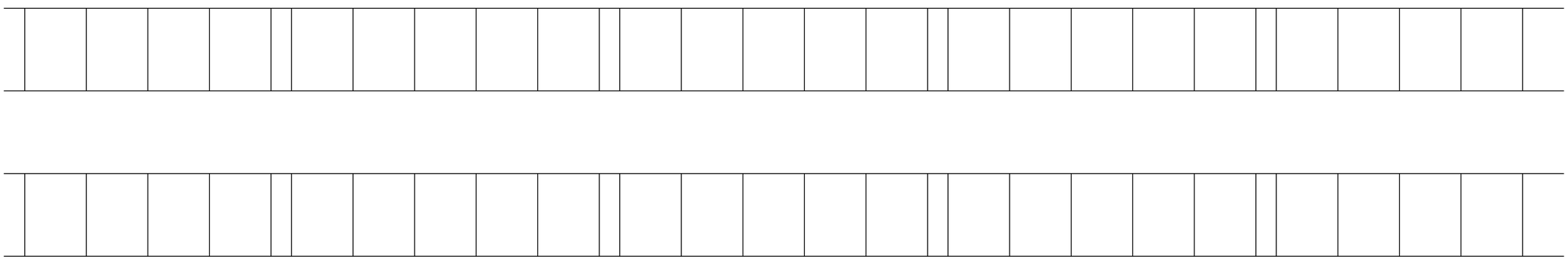
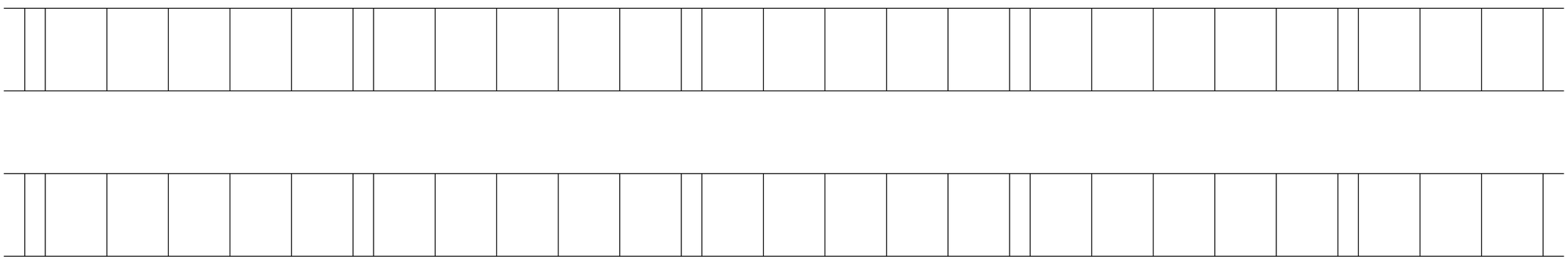
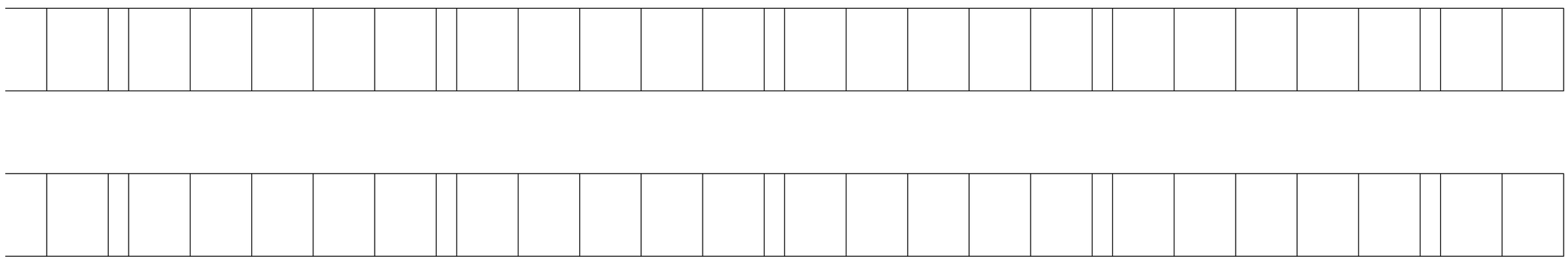
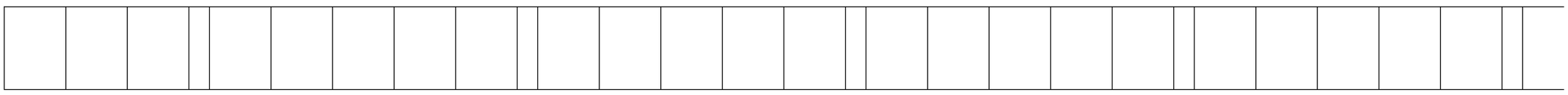
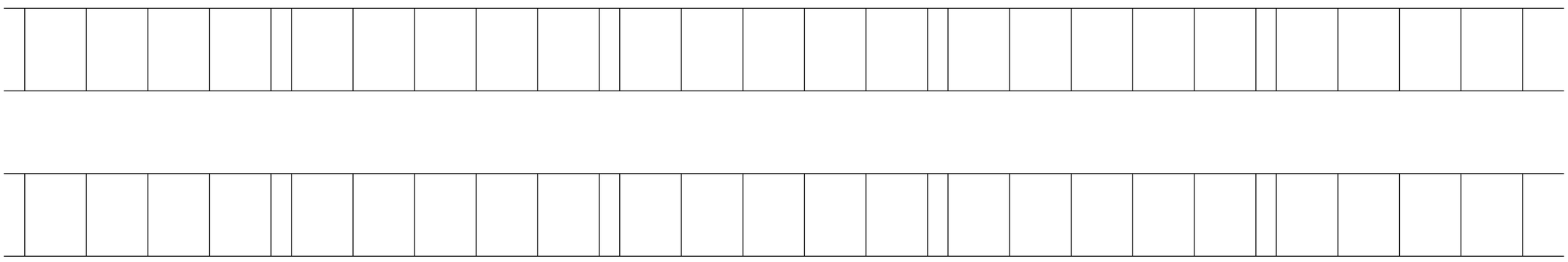
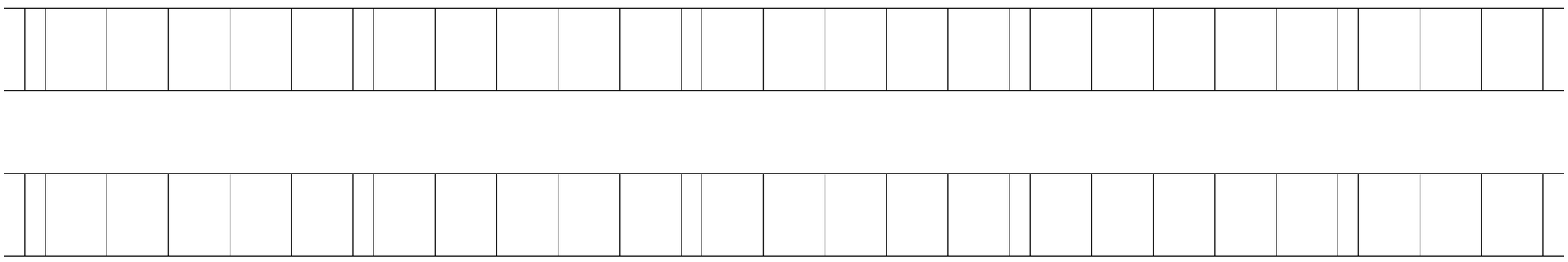
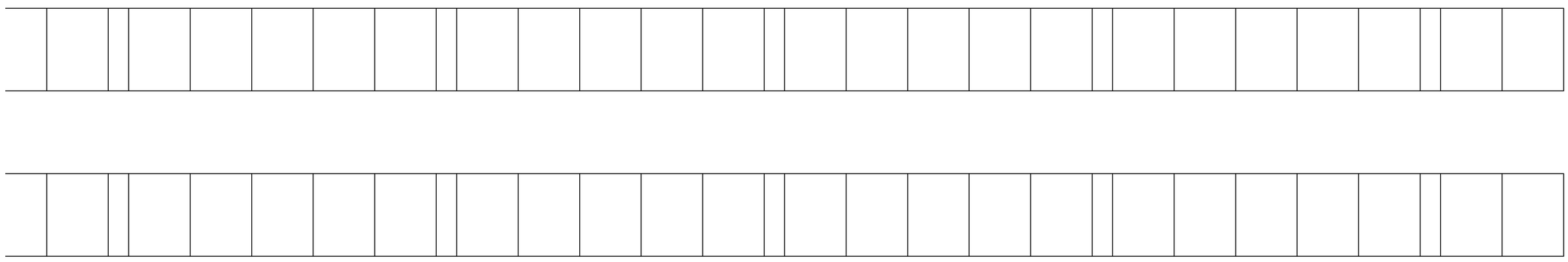
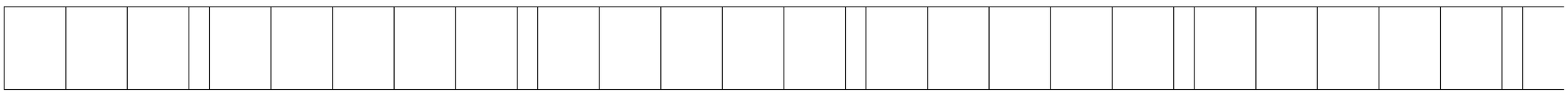
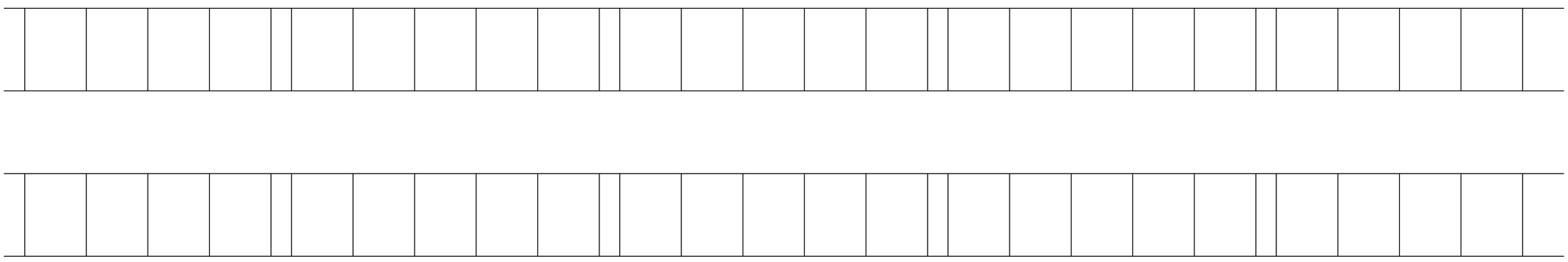
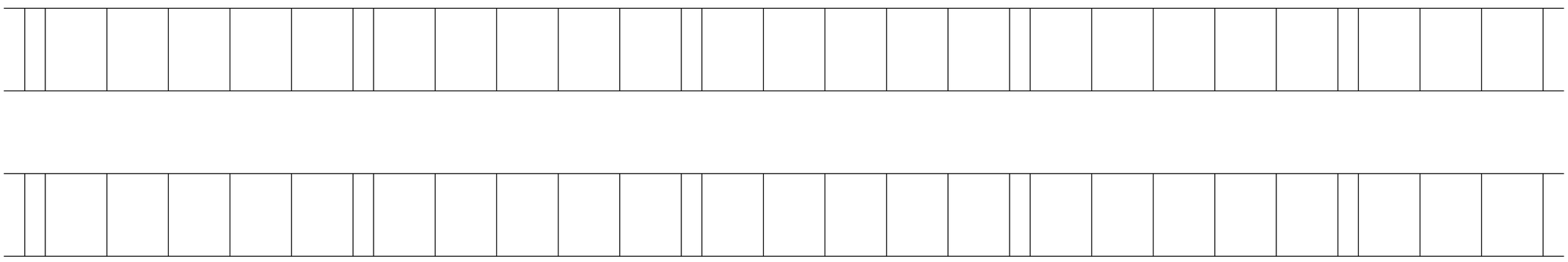
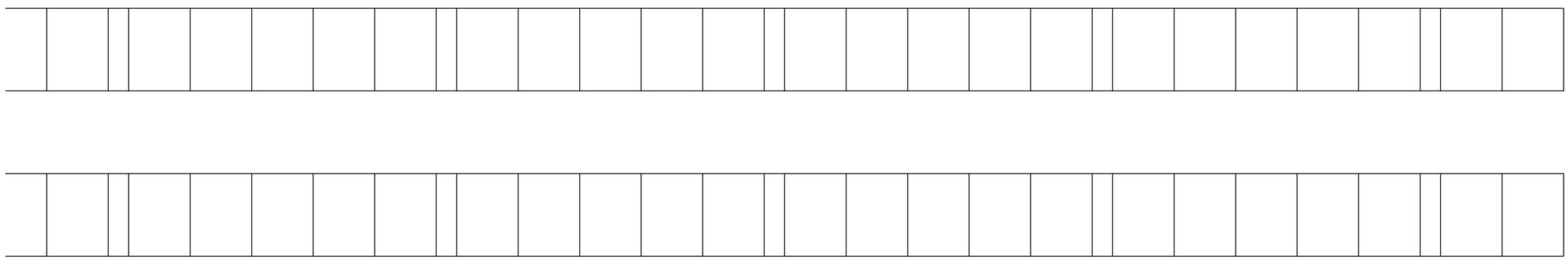
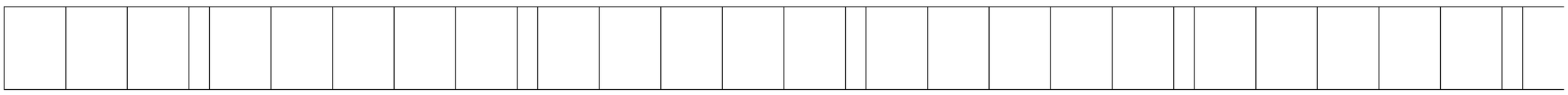
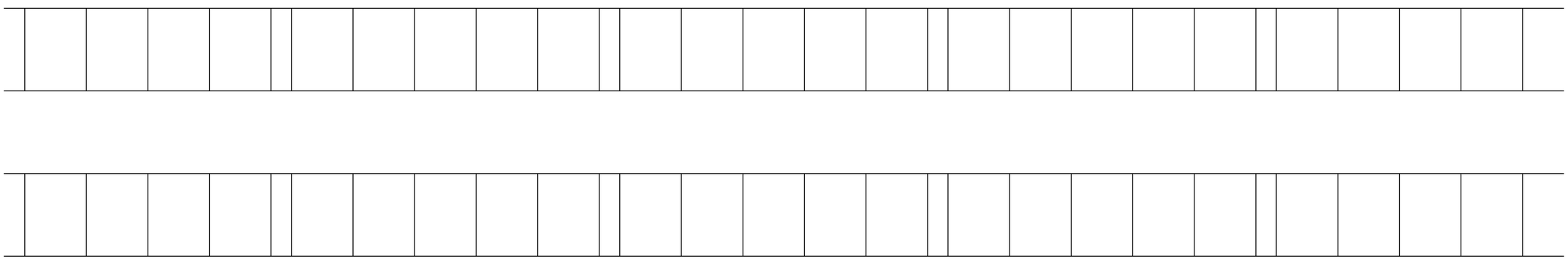
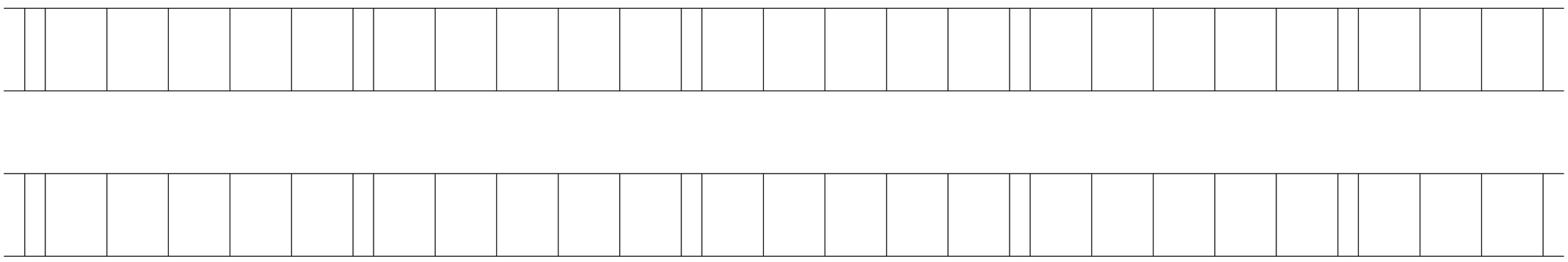
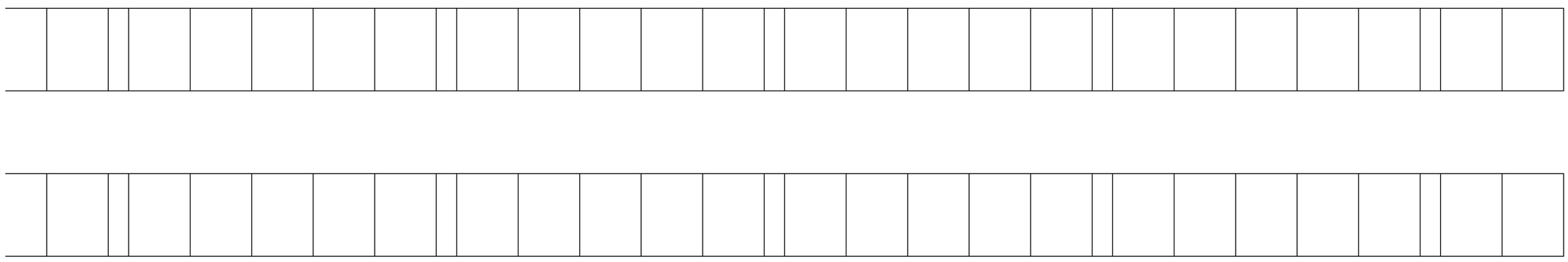
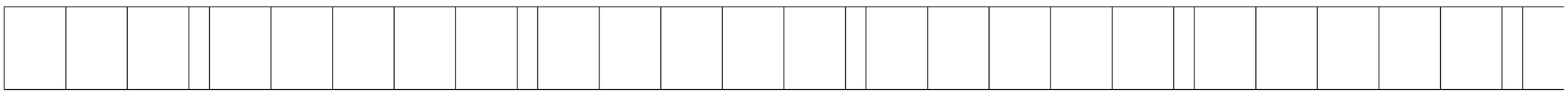
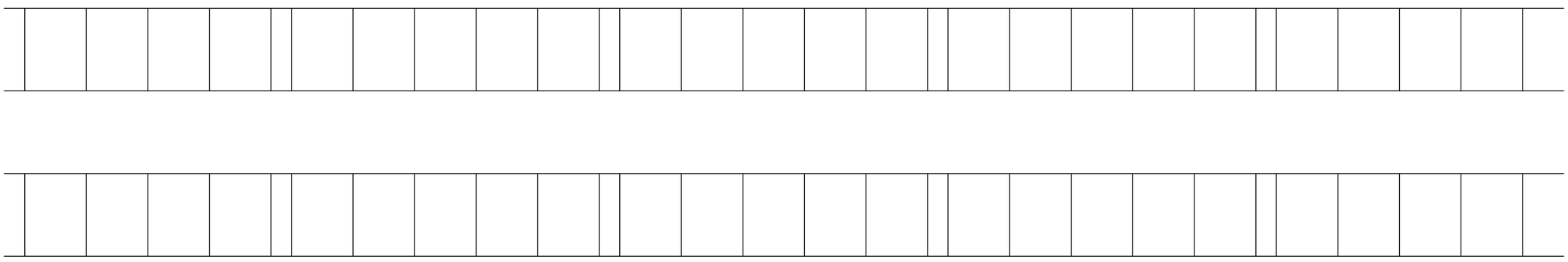
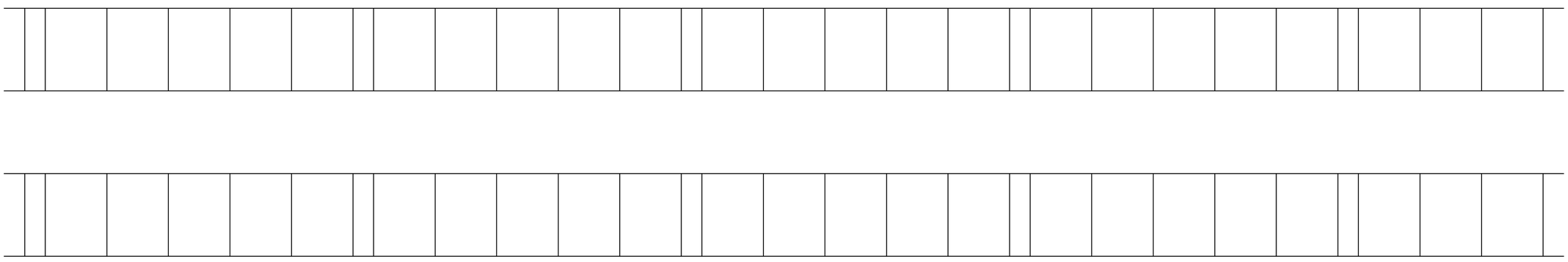
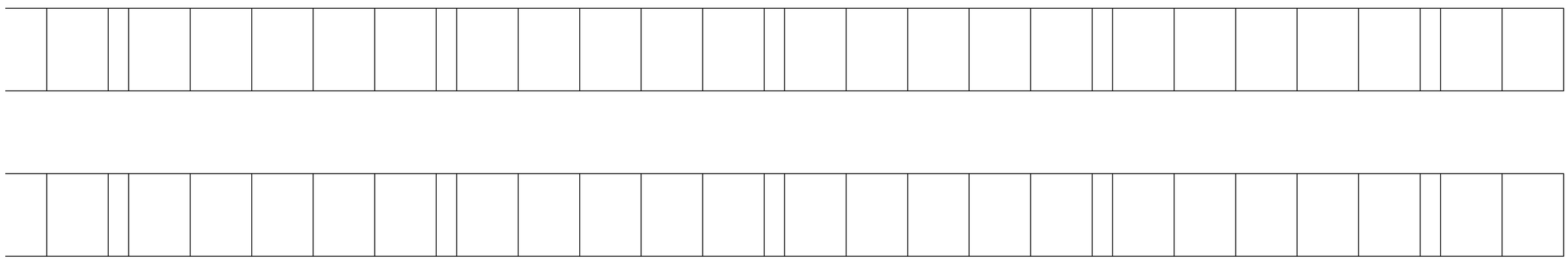
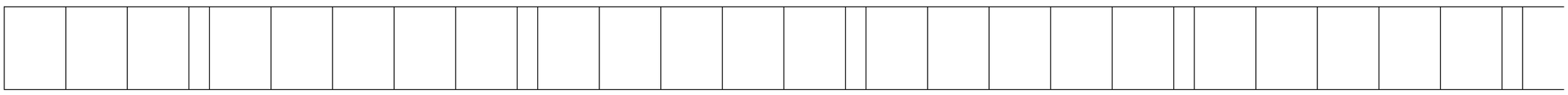
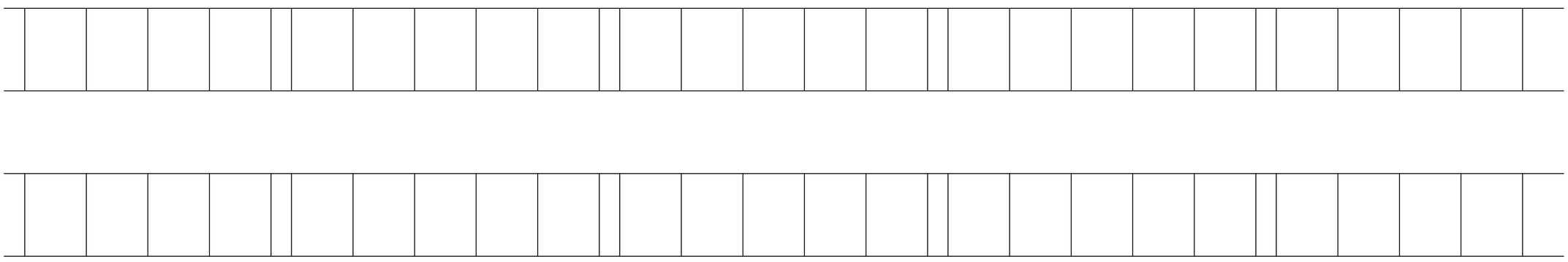
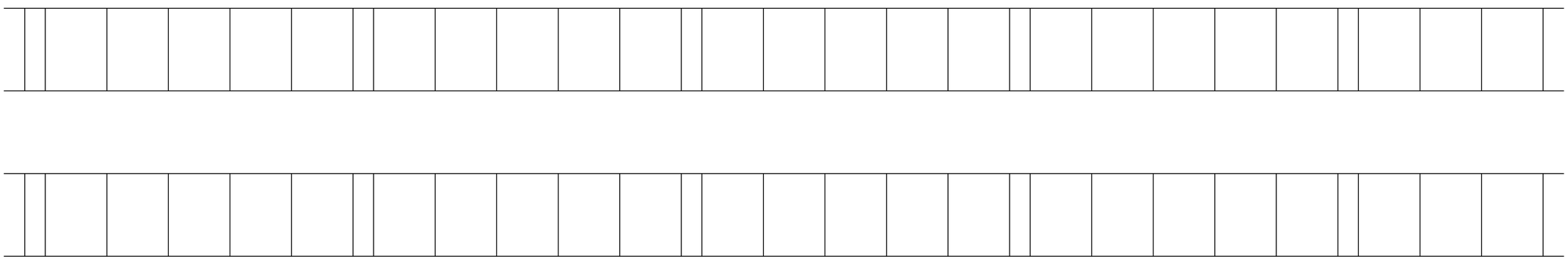
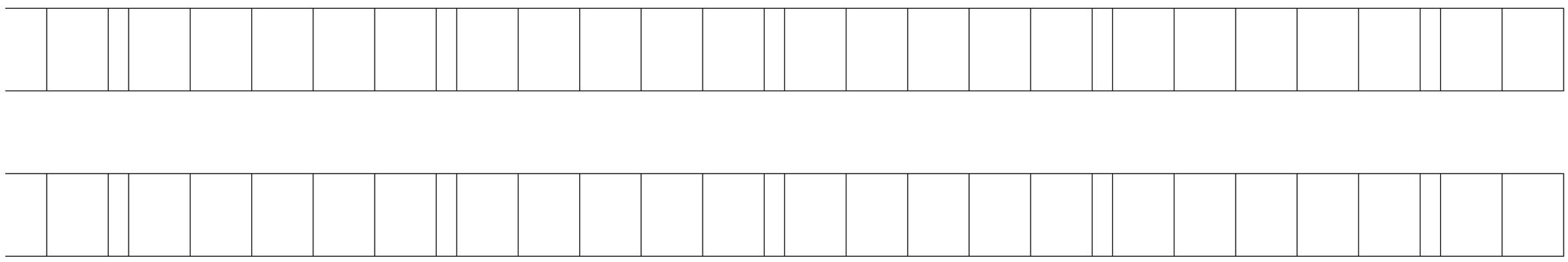
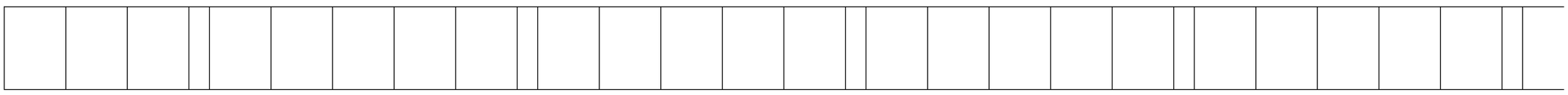
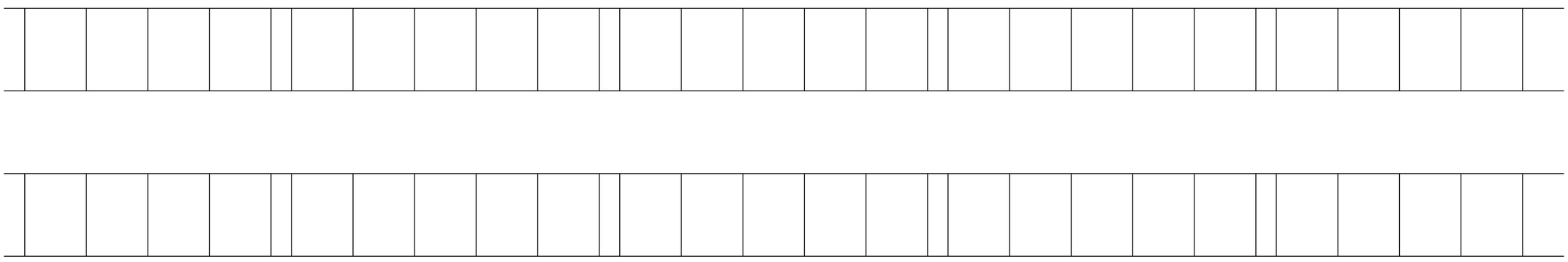
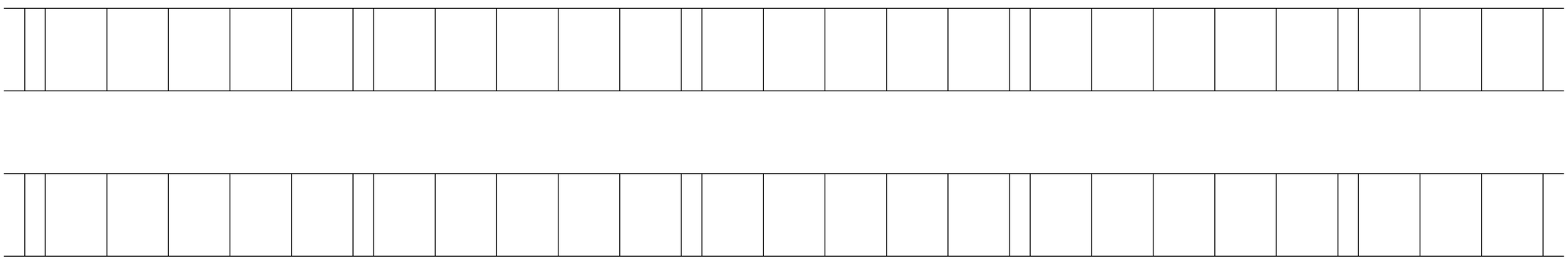
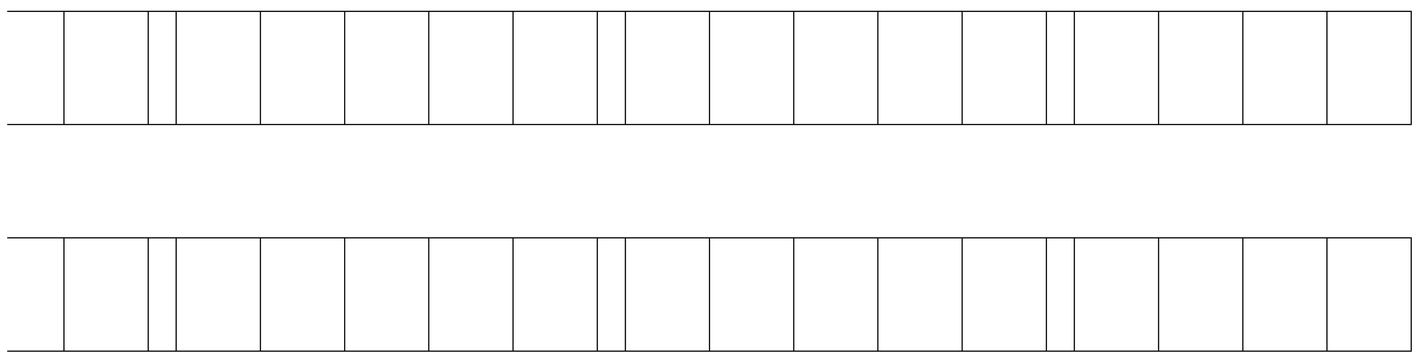
教科	国語	学年	第3学年

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界はうつくしいと	2	詩の情景を理解し、自分の「美しいもの」について考えをまとめる。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →詩に用いられている語句や表現に着目して考えている。		進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
握手	6	全体の構成を捉え、作品の内容を理解する。 登場人物の動きから心情を読み取ることができる。 小説の良さや面白さについて批評することができる。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →抽象的な概念を表す語句などを用いて、登場人物の人物像を表している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。	物語の展開のしかたを粘り強く捉え、今までの学習を生かして読み深めた感想を交流しようとしている。
意見を聞き、適切さを判断する	2	放送の内容を適切にメモをとることができる。 物事を多角的に見て、様々な意見の中から適切なものを判断することができる。	情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。	「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →多様な考えをもつ聞き手の存在を想定しながら、意見と根拠、理由づけの適切さを判断し、改善案を検討している。	聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
一、二年の復習（文法）	2	1，2年生の文法について理解している。	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。（2年(1)オ） →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になることを理解している。		助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして設問に取り組もうとしている。
作られた「物語」を超えて	4	論理の展開の仕方を理解する。 文章の構成や論理について批評することができる。	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、「具体と抽象」の関係を理解している。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →論説の特性を踏まえ、「具体と抽象」の関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。	進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
学びて時に之を習ふ―「論語」から	4	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。	・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合っている。	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。	人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。
漢文の訓読	1	漢文の返り点や送り仮名に注意して、訓読することができる。	長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)		漢文の訓読について理解しようとしている。
説得力のある構成を考えよう	3	自分の主張の根拠を明確にするために、論理の展開を考えて話を構成することができる。	情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。	・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の興味を引く問いかけや強調表現を取り入れたり、聞き手の反応に応じて話の内容を補足したりするなど、工夫して話している。	相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。
俳句を味わう／俳句の創作教室	5	俳句の表現の仕方を理解し、自分の考えをわかりやすく伝えている。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。	・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、筆者の評価のしかたを捉えている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。	進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
具体化・抽象化	1	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、具体と抽象の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。		具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。
和語・漢語・外来語	2	和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けることができる。	・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けている。 ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。((3)ウ) →古典や近代文学、年配の人との会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。		進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。
言葉の釣り糸を垂らす	2	筆者のものの見方や考え方に対して、自分の経験を踏まえて意見を述べることができる。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。	「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →筆者の「書く」ことに対する考えについて、自分の記憶や経験を踏まえながら考えている。	筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。
熟語の読み方	1	熟語の読み方を理解できる。	第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
読書を楽しむ	3	読書の意義を理解し、自分の生き方に生かしている。	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。		進んで読書の意義と効用について理解し、学習の見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
報道文を比較して読もう・情報の信頼性	3		・語や文章の種類とその特徴について理解を深めている。((1)ウ) →示された資料や身の回りの実用的な文章から、表現の特徴について理解を深めている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →複数の資料を比較し、共通点や相違点を捉え、情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →実用的な文章の特徴を踏まえ、目的に応じて情報を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →事実や事例の選び方、取り上げ方や、語句・写真の選び方、レイアウトなどに着目して批判的に記事を読み、書き手の意図について考えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →観点ごとに情報を整理し、情報の客観性や信頼性を確認している。	・文章の種類を踏まえて、積極的に情　報を読み取り、学習課題に沿って実生　活への生かし方を考えようとしている。 ・文章の構成や論理の展開、表現のし　かたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。
挨拶―原爆の写真によせて	2	詩の構成や表現の仕方について評価し、読み深めた詩について話し合っている。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈の中での意味や効果を考えている。	・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →詩に用いられている比喩や象徴的な表現の効果について、自分の考えをまとめている。 ・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対する自分の考えをまとめている。	詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
故郷	6	文章を批判的に読みながら、小説の中のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。	・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を批判的に読み、観点を明確にして、作品のもつ特性や価値を批評している。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →「私」が考える「希望」と望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。	文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。
君待つと	3	和歌の表現の仕方について評価することができる。	・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →三つの歌集の歌を音読したり、比較したりして、そこに詠まれた情景や心情を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →自分が注目した表現を引用しながら、和歌を評価している。	「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →三つの歌集に収められた和歌を比較し、特徴的な表現やその効果について、評価している。	進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。
聞き上手になろう	1	話の展開を予測しながら、聞き取った内容を評価し、自分の考えを深めることができる。	敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。((1)エ) →対話の話し手や聞き手として、適切な言葉遣いを選択している。	「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →話の展開を予測しながら聞き、対話の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。	話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対話しようとしている。
慣用句・ことわざ・故事成語	3	慣用句・ことわざ・故事成語について理解することできる。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語の意味や使い方を調べたりしている。		慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。
複数の意見を読んで、考えよう	4	複数の意見を読み、ものの見方考え方について深めている。	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。	・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →観点を決めて文章を比較したり、自分の知識や経験と照合したりしながら批判的に読み、筆者のものの見方や考え方について考えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどについて、自分の知識や経験と結び付けたり、討論したりして、評価している。	三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
温かいスープ	2	文章を読み、人間、社会、自然などについて自分の意見をもつことができる。	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の考え方と作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何かについて、自分の考えをまとめている。	人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
それでも、言葉を	5	文章を批判的に読みながら、筆者の考えについて理解を深めることができる。	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら理解している。	・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を多角的に検討したり、例証や反証を試みたりして、筆者の考えについて理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章を批判的に読んだり話し合ったりすることを通して、言葉に対する自分の意見を確立している。	言葉や社会、人間などについて粘り強く自分の意見をまとめ、今までの学習を生かして理解したことや考えたことについて話し合ったり発表したりしようとしている。
考えを効果的に伝えよう	5	自分の考えを分かりやすく伝えるために、適切な資料を引用することができる。	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →「意見と根拠」「具体と抽象」など、情報と情報との関係に関する知識を生かして論理の展開を考えている。	・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →文体や表現技法などを検討したり、自分の意見を支える根拠となる資料を引用したりして、文章表現を工夫している。 ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手からの助言を踏まえて、自分の批評文における批評の観点や表現、論理の展開などのよい点や改善点を見いだしている。	自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。
合意形成に向けて、話し合おう	2	お互いが納得するための、話し合いができる。	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →提案の根拠に着目して妥当性を吟味したり、複数の発言の共通点を基に抽象化してまとめたりしている	「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →合意形成に向けて納得できる結論を出すために、提案の意義や実現性を検討したり、互いの発言を生かしたりして話し合っている。	合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
和歌の世界	1	古典の世界に親しもうとしている。	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →「和歌の世界」と「古今和歌集　仮名序」を読み、三つの歌集の特徴や歴史的背景、和歌に対する古人の思いを捉えている。		進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
アラスカとの出会い	1	自分の生き方や社会との関わりについて考えることができる。	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →筆者の人生において、本との出会いがどのような意味をもっていたのかを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章から読み取った筆者のものの見方・考え方や、友達との交流を受けて、自分の生き方について考えをまとめている。	人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。

言葉一「おくのほそ道」から	4	歴史的背景に注意して読み深め、作者のものの見方や考え方を理解し、自分の考えを深めることができる。	・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(〔3〕ア) →歴史的背景に注意して作品を読み、作者が何に感動したのかを理解している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(〔3〕イ) →心に響いた俳句やその一節を引用し、その理由などを発表している。	「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(〔C1〕イ) →現代の機種観と比較したり、作者が感動した歴史的背景を明かめたりして、作者のものの見方や感じ方について考えている。	作者のものの見方や感じ方について進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表しようとしている。
「ない」の違いがわからない？	2	助詞、助動詞のはたらきについて理解する。	単語の種別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解している。(1年〔1〕エ、2年〔1〕オ) →言葉の単位、文の組み立て、単語の分類、自立語、用言の活用、付属語など、3年間で学習した文法の内容を理解している。		単語の種別や活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。
文法のまとめ	1	3年間の文法について理解する。	単語の種別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解している。(1年〔1〕エ、2年〔1〕オ) →言葉の単位、文の組み立て、単語の分類、自立語、用言の活用、付属語など、3年間で学習した文法の内容を理解している。		単語の種別や活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。
律儀な桜	1	文章を読んで、自分の生き方や社会とのかかわりについて理解することができる。	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(〔3〕オ) →母を近る筆者の視線や考えを読み取ったり、読書が人と自然について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(〔C1〕エ) →自分の知識や視線と結び付けながら文章を読み、人と自然に対する自分の考えをもっている。	人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や視線を生かして文章にまとめようとしている。
わたしを束ねないで	1	詩を読んで、言葉の意味について読み深め、自分の考えを深めることができる。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を健全語彙を豊かにしている。(〔1〕イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。	「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(〔C1〕エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会と人間、自分の可能性について考えている。	詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の機種や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
初恋	2	詩の情景を理解し、作者の思いを読み深め、自分の考えを述べることができる。	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を健全語彙を豊かにしている。(〔1〕イ) →語句や表現に着目したり、言葉の響きやリズムを味わったりしながら詩に描かれた情景や心情を想像している。		進んで語感を健全、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
三年間の歩みを振り返ろう	1	3年間の国語の内容で、印象に残った作品を振り返り、自分の意見を述べる。	語や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(〔1〕ウ) →自分で設定したテーマと内容、目的に合う文章の種類を検討している。	「読むこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A〔1〕ウ) →自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。 「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B〔1〕イ) →記事の内容を効果的に伝えるために、結論と文章の構成を工夫している。	取り扱く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、実際の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。
初日	2	詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(恋・利・表〔2〕イ)	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を健全語彙を豊かにしている。(〔1〕イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。	「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(〔C1〕エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、人間、社会、自然などについて考えている。	詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の内容について話し合おうとしている。